35010743 ver.08 8-01 C10-016

TS-XHL、TS-XL、TS-XEL シリーズ / TS-WXL シリーズ / TS-RXL シリーズ

TeraStation 設定ガイド

TeraStation の設定画面の各項目説明は、P.119 以降に記載しています。

文中の用語表記

・本書では原則として TS-XHL、TS-XL、TS-XEL シリーズ、TS-WXL シリーズ、TS-RXL シリーズを TeraStation と表記しています。

■本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、改良のため予告なしに変更される場合があり、現に購入された製品とは一部異なることがあります。

■本書の内容に関しては万全を期して作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどがありましたら、お買い求めになった販売店または弊社サポートセンターまでご連絡ください。

■本製品は一般的なオフィスや家庭の OA 機器としてお使いください。万一、一般 OA 機器以外として使用されたことにより損害が発生した場合、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

・医療機器や人命に直接的または間接的に関わるシステムなど、高い安全性が要求される用途には使用しないでください。

・一般 OA 機器よりも高い信頼性が要求される機器や電算機システムなどの用途に使用するときは、ご使用になるシステムの安全設計や故障に対する適切な処置を万全におこなってください。

■本製品は、日本国内でのみ使用されることを前提に設計、製造されています。日本国外では使用しないでください。また、弊社は、本製品に関して日本国外での保守または技術サポートを行っておりません。

■本製品のうち、外国為替および外国貿易法の規定により戦略物資等（または役務）に該当するものについては、日本国外への輸出に際して、日本国政府の輸出許可（または役務取引許可）が必要です。

■本製品の使用に際しては、本書に記載した使用方法に沿ってご使用ください。特に、注意事項として記載された取扱方法に違反する使用はお止めください。

■弊社は、製品の故障に関して一定の条件下で修理を保証しますが、記憶されたデータが消失・破損した場合については、保証しておりません。本製品がハードディスク等の記憶装置の場合または記憶装置に接続して使用するものである場合は、本書に記載された注意事項を遵守してください。また、必要なデータはバックアップを作成してください。お客様が、本書の注意事項に違反し、またはバックアップの作成を怠ったために、データを消失・破棄に伴う損害が発生した場合であっても、弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■本製品に起因する債務不履行または不法行為に基づく損害賠償責任は、弊社に故意または重大な過失があった場合を除き、本製品の購入代金と同額を上限と致します。

■本製品に隠れた瑕疵があった場合、無償にて当該瑕疵を修補し、または瑕疵のない同一製品または同等品に交換致しますが、当該瑕疵に基づく損害賠償の責に任じません。

Contents

Chapter 1
各部の名称

各部の名称

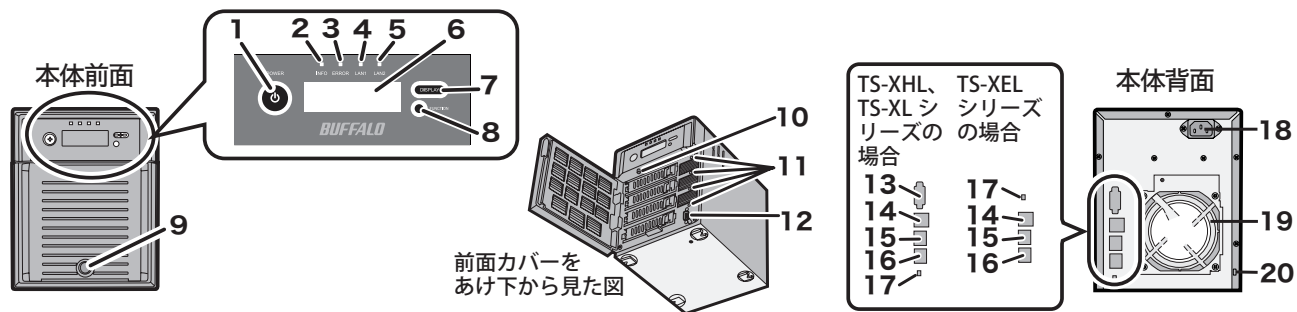
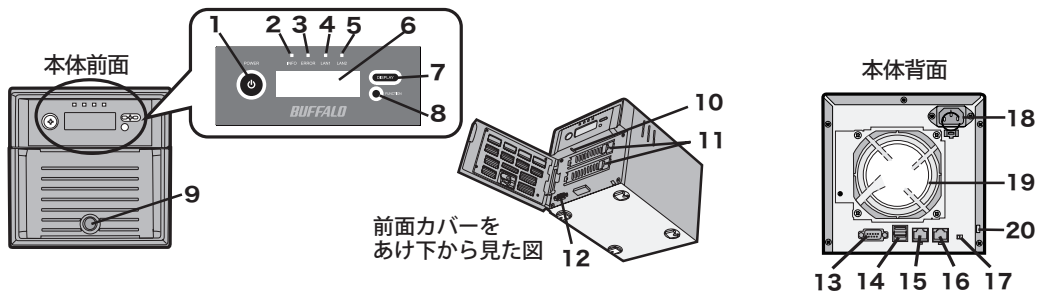
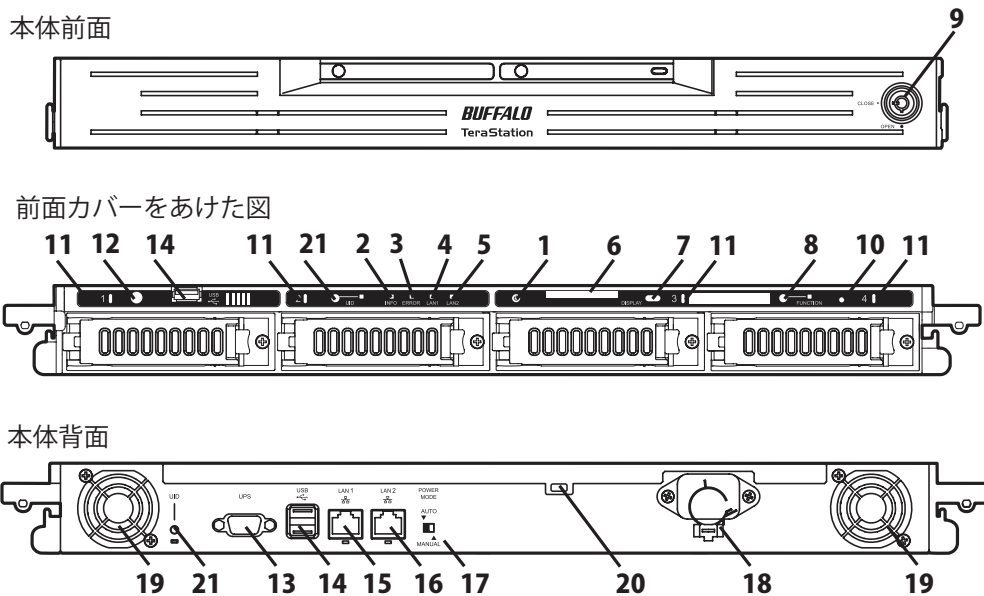
< TS-XHL、TS-XL、TS-XEL シリーズ>

< TS-WXL シリーズ>

< TS-RXL シリーズ>

本体前面

前面カバーをあけた図

本体背面

①電源スイッチ

電源の ON/OFF を切り替えるには、電源スイッチを 3 秒間 (ピッと音がなるまで) 押し続けます。
電源を ON にするときは、AC ケーブルを接続して 10 秒以上経過してから電源スイッチを押してください。

② INFO ランプ

現在の状態について伝えることがあるとき、橙色に点灯します。現在の状態については、液晶ディスプレイの表示をご確認ください。

③ ERROR ランプ

エラーが発生したとき赤色に点灯します。エラーの内容については、液晶ディスプレイの表示をご確認ください。

④ LAN1 ランプ

LAN1 ポートがネットワークに接続されているときに、緑色に点灯します (LAN ポート 1 横のランプも同様に点灯します)。

⑤ LAN2 ランプ

LAN2 ポートがネットワークに接続されているときに、緑色に点灯します (LAN ポート 2 横のランプも同様に点灯します)。

⑥液晶ディスプレイ

TeraStation の状態などを表示します。

⑦ディスプレイ切替ボタン

液晶ディスプレイの表示を切り替えます。【P.147】

⑧ファンクションボタン

次の操作を行うときに使用します。
・DirectCopy 機能
・USB 機器の取り外し処理
・ハードディスク交換時の RAID 再構築

⑨ハードディスク取替用キーシリンダー

付属の鍵で前面をあけることができます。ハードディスクを交換するとき、および初期化スイッチを押すときに使用します。

NOTE: 前面のハードディスク取替用キーシリンダー、鍵は誤操作防止用です。盗難防止用には、「盗難防止用セキュリティスロット」をお使いください。

⑩初期化スイッチ

TeraStation 動作時 (電源ランプ点灯) に、ピッと音がするまで (約 5 秒間) 押し続けると、IP アドレスとパスワードが出荷時設定に変更されます。初期化スイッチでパスワードが初期化しないようにも設定することもできます。

NOTE: 前面 TS-RXL シリーズでは、クリップを伸ばしたものなどを差し込んで押してください。

⑪ステータスランプ 1 ～ 4

各ハードディスクにアクセス時は 1 ～ 4 の各ランプが緑色に点灯します。ハードディスクに異常が発生したときは、異常が発生した番号のランプが赤色に点灯 / 点滅または橙色に点滅します。

⑫本製品では使用しません。

(TS-XEL シリーズでは、このコネクターはありません。)

⑬ UPS 専用ポート

UPS(無停電電源装置) を接続できます。
(TS-XEL シリーズでは、このポートはありません。)

⑭ USB コネクター (USB2.0/1.1 シリーズ A)

弊社製 USB 接続外付けハードディスクや、USB フラッシュ、デジタルカメラ、対応 UPS を増設できます。
NOTE:USB ハブの接続には対応しておりません。

⑮ LAN ポート 1

付属の LAN ケーブルを接続します。

⑯ LAN ポート 2

2 本の LAN ケーブルでネットワークに接続して冗長性を保ちたいときやバックアップなどにも使用します。またバックアップ用に別途 TeraStation を用意すれば TeraStation を接続することもできます。

⑰ PC 連動電源スイッチ

P.6 に記載の「PC 連動電源機能について」をご参照ください。

⑱電源コネクター

付属の AC ケーブルを接続します。

⑲ファン

ファンを塞ぐような設置はしないでください。

⑳盗難防止用セキュリティースロット

市販のワイヤーロックなどで固定することができます。

㉑UID ボタン

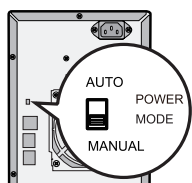
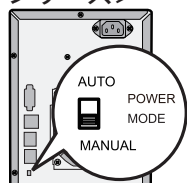
押すごとに前面と背面の UID ボタン横のランプが青色に点灯 / 消灯します。

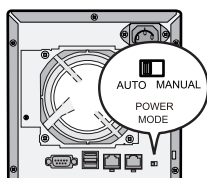
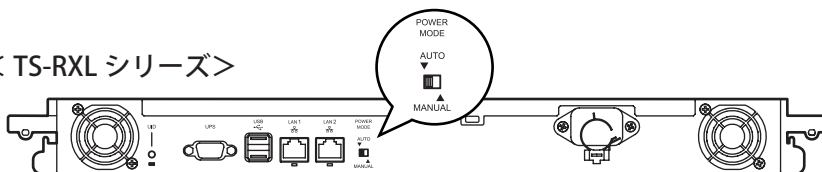
PC 連動電源機能について

TeraStation の電源は、「PC 連動電源機能」によって本製品付属の NAS Navigator2 をインストールしたパソコン本体の電源 ON/OFF に合わせて、自動的に ON/OFF することもできます (NAS Navigator2 をインストールしていないパソコン、および TeraStation と同一ネットワークに接続していないパソコンの電源には連動しません)。

＜ TS-XHL、TS-XL シリーズ＞

＜ TS-XEL シリーズ＞

＜ TS-WXL シリーズ＞

MANUAL(出荷時設定):
本製品の電源スイッチで電源を ON/OFF できます。パソコンの電源には連動しません。

AUTO:
NAS Navigator2 がインストールされたパソコンが全て電源 OFF になると自動的に TeraStation の電源が OFF になります (パソコンの状態を監視する微弱な電力は消費しています)。ネットワークで TeraStation に接続されたパソコンが 1 台でも電源スイッチが ON になると、自動的に TeraStation の電源が ON になります。

＜ TS-RXL シリーズ＞

NOTE:

- 「AUTO」でお使いの場合、お使いの環境によっては、正常に認識しないことやパソコンの電源に連動しないことがあります。このようなときは、「MANUAL」にしてお使いください。
- パソコンの電源スイッチを OFF にしてから本製品の電源ランプが消えるまでに、時間がかかることがあります。
- PC 連動電源スイッチを「AUTO」にした直後は、パソコンの電源状態を確認するため 5 分程度 TeraStation の電源が OFF になりません。あらかじめご了承ください。
- PC 連動電源機能使用中に、停電や AC ケーブルが抜ける等で電源が OFF になってしまったときは、「MANUAL」にして TeraStation を起動してください。起動完了後、「AUTO」にすることで PC 連動電源機能が有効になります。
- TeraStation の設定画面で次のいずれかの設定をしている場合、PC 連動電源機能は動作しません。

  「ポートトランキングを設定している」

  「[NAS Navigator による検出] を「使用しない」に設定している」
- TeraStation のセットアップは、PC 連動電源スイッチを「MANUAL」にしてください。「AUTO」に変更してセットアップすると、セットアップ中に TeraStation の電源が OFF になってしまうことがあります。初回セットアップ後、「AUTO」にすることでパソコンの電源に連動することができるようになります。
- NAS Navigator2 をインストールしていないパソコンからのアクセス中であっても、NAS Navigator2 をインストールしたパソコン全て電源 OFF になると TeraStation の電源は OFF になります。「AUTO」にする場合、TeraStation と同一ネットワークのパソコン全てに NAS Navigator2 をインストールしてください。

Chapter 2
設定画面の表示方法

設定画面の表示方法

設定画面を表示するときは、次の手順で行います。

1 デスクトップの［BUFFALO NAS Navigator2］アイコンをダブルクリックします。

NOTE: Mac OS をお使いの場合は、Dock 内の [NAS Navigator2] アイコンをクリックします。
NAS Navigator2 が起動します。

2 TeraStation のアイコンを右クリックし、[Web 設定を開く] をクリックします。

NOTE: ・Mac OS をお使いの場合は、コントロールキーを押しながら TeraStation のアイコンをクリックし、[Web 設定を開く] を選択します。

・NAS Navigator2 の右下に表示される IP アドレスをメモしてください。

画面は TS-XL シリーズの例です。

3

1 ユーザー名、パスワードを入力します。
管理者ユーザーの初期設定は次のようになっています。
ユーザー名：**admin**
パスワード：**password**

2 [ログイン] をクリックします。

NOTE:二度目以降の設定画面表示で、登録したユーザー名でログインするときは、設定画面で登録したユーザー名、パスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

ゲストとしてログインするときは、ユーザー名に guest、パスワード無しで [OK] をクリックします (guest が有効な場合のみ)。
ゲストとしてログインしたときは、TeraStation 名、IP アドレス、ワークグループ、ディスクの状態の確認ができます。
ユーザー名でログインしたときは、TeraStation 名、IP アドレス、ワークグループ、ディスクの状態の確認、ログインユーザーのパスワードを設定することができます。
管理者名ユーザーでログインしたときは、全ての項目を設定することができます。

4 設定画面が表示されます。

＜ TeraStation 設定画面＞
画面は TS-XL シリーズの例です。

NOTE: ・設定画面の対応インターネットブラウザーは、Internet Explorer6.0 Service Pack2 以上、Firefox 1.5 以上、Safari3 以上です。
対応インターネットブラウザー以外からのアクセスでは、正しく表示されないことがあります。

・ブラウザーのプロキシが有効に設定されていると、設定画面が正常に表示できません。有効に設定されているときは無効にしてください。

・セキュリティー設定によっては設定画面が正常に表示されないことがあります。Internet Explorer のメニュー、[ツール]-[インターネットオプション]-[セキュリティ] のセキュリティーレベルは [イントラネット] に設定してください。

NOTE: 設定画面には次の項目があります。

＜ TeraStation 設定画面＞
画面は TS-XL シリーズの例です。

[共有フォルダー]
共有フォルダーの追加や削除、アクセス制限設定、ダイレクトコピー、DFS、TeraSearch の設定を行うことができます。

[ユーザー / グループ]
ユーザー / グループを登録、削除することができます。

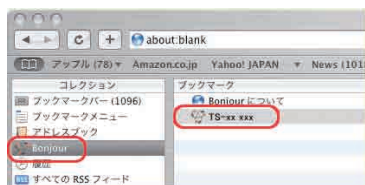
[ネットワーク]
ネットワークやワークグループ、NFS の設定をすることができます。

[システム]
名称や時刻、RAID の設定、RAID メンテナンス、ディスクチェックフォーマット、バックアップ、レプリケーション、メール通知設定、タイマー ON/OFF、UPS 連動設定、初期化、ディスク完全フォーマット等をすることができます。

[その他]
Web アクセス、プリントセーバー、Time Machine の設定をすることができます。

NOTE:・直接 IP アドレスを入力して TeraStation の設定画面を表示するには
P.7 の手順 2 でメモをした IP アドレスをお使いのインターネットブラウザーのアドレス欄に入力して <Enter> キーを押してください。以降は P.7 の手順 3 以降に従ってください。

・Mac OS X 10.4 以降に搭載されている Apple 社技術「ボンジュール (Bonjour)」で次のように設定画面を表示させることもできます。

1. インターネットブラウザー Safari を起動します。
2. Safari のメニューから [表示]-[ブックマークバーを表示] をクリックします。
   NOTE: Safari のブックマークバーが表示されるように設定してください。
3. ブックマークから、[Bonjour]-[(TeraStation の名称)] をクリックしてください。

4. **ユーザー名、パスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。**

以上で設定画面の表示は完了です。

Chapter 3
ハードディスクの使用モードを変更する

ハードディスクの使用モードは、出荷時に次のように設定されています。

シリーズ名	出荷時設定 (ハードディスク使用モード)
TS-XHL シリーズ	RAID6 モード
TS-XL シリーズ TS-XEL シリーズ TS-RXL シリーズ	RAID5 モード (ハードディスク 4 台)
TS-WXL シリーズ	RAID1 モード
TS-WXL/1D シリーズ	通常モード

NOTE: ・ハードディスクの使用モードを変更すると、ハードディスク内のデータは全て消去されます。変更する前に大切なデータのバックアップを必ずとってください。

・本書では、「復旧」とは、TeraStation 内の状態 (データを含む) を故障が発生する前に戻すことを表しています。故障したハードディスクからデータを読み出すことではありません。

各ハードディスクの使用モードの特長は次のとおりです。

● RAID6 モード

NOTE: TS-XL、TS-XEL、TS-RXL、TS-WXL、TS-WXL/1D シリーズでは RAID6 モードに設定することはできません。

4 台のハードディスクを 1 つのアレイとして使用します。パリティ (誤り訂正符号) を生成しながら書き込むのでアクセス速度は少し遅くなります。使用できる容量は 2 台分のハードディスクの容量となります。
RAID アレイの中のハードディスク 2 台が破損してもハードディスクを交換すればデータを復旧できます (3 台以上故障したときは復旧できません)。また RAID 構築中は前面の液晶ディスプレイに「RAID ARRAYx Resyncing」と表示され、ファイル転送速度が数時間低下します。あらかじめご了承ください。

● RAID5 モード（ハードディスク 4 台）

NOTE: TS-WXL、TS-WXL/1D シリーズでは RAID5 モードに設定することはできません。

4 台のハードディスクを 1 つのアレイとして使用します。パリティ (誤り訂正符号) を生成しながら書き込むのでアクセス速度は少し遅くなります。使用できる容量は 3 台分のハードディスクの容量となります。
RAID アレイの中のハードディスク 1 台が破損してもハードディスクを交換すればデータを復旧できます (2 台以上故障したときは復旧できません)。また RAID 構築中は前面の液晶ディスプレイに「RAID ARRAYx Resyncing」と表示され、ファイル転送速度が数時間低下します。あらかじめご了承ください。

● RAID5 モード (ハードディスク 3 台)

NOTE: TS-WXL、TS-WXL/1D シリーズでは RAID5 モードに設定することはできません。

3 台のハードディスクを 1 つのアレイとして使用します。パリティ (誤り訂正符号) を生成しながら書き込むのでアクセス速度は少し遅くなります。使用できる容量は 2 台分のハードディスクの容量となります。残りの 1 台をホットスペア (1 台ハードディスクが故障したときに自動的に起動) にすることもできます。
RAID アレイの中のハードディスク 1 台が破損してもハードディスクを交換すればデータを復旧できます (2 台以上故障したときは復旧できません)。また RAID 構築中は前面の液晶ディスプレイに「RAID ARRAYx Resyncing」と表示され、ファイル転送速度が数時間低下します。あらかじめご了承ください。

● RAID10 モード

NOTE:TS-WXL、TS-WXL/1D シリーズでは RAID10 モードに設定することはできません。

4 台のハードディスクを 1 つのアレイとして使用します。使用できる容量は、2 台分のハードディスクの容量となります。分散して書き込みを行うのでアクセス速度が少し速くなります。
同じデータを 2 個のハードディスクに同時に書き込んでいるので、ペア (1-2 または 3-4) を構成する一方のハードディスクが破損してもハードディスクを交換すればデータを復旧できます (1-2、または 3-4 両方破損した場合はデータを復旧することはできません)。また RAID 構築中は前面の液晶ディスプレイに「RAID ARRAY x Resyncing」と表示され、ファイル転送速度が数時間低下します。あらかじめご了承ください。

● RAID1 モード

2 台のハードディスクを 1 つのアレイとして使用します。TS-XHL、TS-XL、TS-XEL、TS-RXL シリーズでは最大 2 つのアレイを作成することができます。使用できる容量は、各アレイにハードディスク 1 台分の容量となります。
同じデータを 2 台のハードディスクに同時に書き込んでいるのでペアを構成する一方のハードディスクが破損してもハードディスクを交換すればデータを復旧できます (アレイを構成する両方のハードディスクが破損した場合はデータを復旧することはできません)。
TS-XHL、TS-XL、TS-XEL、TS-RXL シリーズでは 1 つのアレイを作成し、残りのハードディスクをホットスペア (1 台ハードディスクが故障したときに自動的に起動) にすることもできます。2 台のハードディスクで 1 つのアレイを作成し、ハードディスク 1 台をホットスペア、残りの 1 台を通常ディスクとして使い、アレイのバックアップ用の領域に使用することで冗長性を高めることができます。
また RAID 構築中は前面の液晶ディスプレイに「RAID ARRAY x Resyncing」と表示され、ファイル転送速度が数時間低下します。あらかじめご了承ください。

● RAID0 モード

TeraStation に内蔵されているハードディスクをまとめて 1 つのアレイとして使用します。使用できる容量は、TeraStation に内蔵されているハードディスクの合計の容量となります。分散して書き込みを行うのでアクセス速度が少し速くなります。ハードディスクが破損した場合、データを復旧することはできません。

●通常モード

TeraStation に内蔵されているハードディスクを個々のドライブとして使用します。使用できる容量は、TeraStation に内蔵されているハードディスクの合計の容量となります。ハードディスクが破損した場合、破損したドライブのデータは復旧することはできません。

通常モードで使用する

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。
画面は TS-XL シリーズの例です。

1

TeraStation の設定画面で、[システム]-[ディスク]-[RAID アレイ] をクリックします。

2

設定したいアレイをクリックします。

3 [RAID アレイの削除] をクリックします。

NOTE: RAID 設定変更中は前面の液晶ディスプレイに「RAID ARRAY x Creating」と表示されます。

4 「本当に RAID アレイ / ディスクの操作を行ってもよろしいですか」と表示されたら [設定] をクリックします。

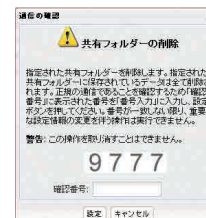
5 [通信の確認] 画面が表示されます。
60 秒以内に確認番号欄に表示されている数字を正確に入力し、[設定] をクリックします。

6 以降は画面の指示にしたがって操作します。

以上で通常モードの設定が完了しました。
このまま通常モードで使用される場合は、P.38 の手順を参照して共有フォルダーを作成してください。

誤操作によるトラブルを防ぐために (「通信の確認」画面)

下記の処理を行うとき、誤操作によるトラブルを防ぐために、通信の確認画面が表示されます。このようなときは、60 秒以内に確認番号欄に表示されている数字を正確に入力し、[設定] をクリックします。

- RAID アレイの構成変更 (作成 / 削除)
- 共有フォルダーの削除
- TeraStation の初期化
- TeraStation の全ディスクの完全フォーマット
- 全ての共有フォルダー内のゴミ箱を空にする
- RAID アレイ / ディスクのフォーマット
- ディスクの取り外し
- RAID アレイの再構築
- スペアディスクに設定
- 通常ディスクに設定

通信の確認画面

RAID6 モードで使用する

NOTE: TS-XL、TS-XEL、TS-RXL、TS-WXL、TS-WXL/1D シリーズでは、RAID6 モードに設定することはできません。
設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。
画面は TS-XHL シリーズの例です。

1 「通常モードで使用する」を参照して通常モードへの設定変更を完了させます。

2

TeraStation の設定画面で、[システム]-[ディスク]-[RAID アレイ] をクリックします。

3

設定したいアレイをクリックします。

4

RAID6 で使用するハードディスク (4 つ全て) をクリックします。

5

1 [RAID6] を選択します。
2 [RAID アレイの作成] をクリックします。

NOTE: RAID 構築中はファイル転送速度が数時間 (ハードディスク 1 台あたり 1TB の製品で約 10 時間かかります) 低下します。前面の液晶ディスプレイに「RAID ARRAY x Resyncing」と表示されているときは、電源 OFF にしないでください。OFF にすると再度はじめから設定処理を行います。

6 [通信の確認] 画面が表示されます。
60 秒以内に確認番号欄に表示されている数字を正確に入力し、[設定] をクリックします。

7 以降は画面の指示にしたがって操作します。

以上で RAID6 の設定が完了しました。
続いて P.38 の手順を参照して共有フォルダーを作成してください。

RAID5 モード (ハードディスク 4 台) で使用する

NOTE: TS-WXL、TS-WXL/1D シリーズでは、RAID5 モードに設定することはできません。
設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。
画面は TS-XL シリーズの例です。

1 「通常モードで使用する」を参照して通常モードへの設定変更を完了させます。

2

TeraStation の設定画面で、[システム]-[ディスク]-[RAID アレイ] をクリックします。

3

設定したいアレイをクリックします。

4

RAID5 で使用するハードディスク (4 つ全て) をクリックします。

5

1 [RAID5] を選択します。
2 [RAID アレイの作成] をクリックします。

NOTE: RAID 構築中はファイル転送速度が数時間 (ハードディスク 1 台あたり 1TB の製品で約 10 時間かかります) 低下します。前面の液晶ディスプレイに「RAID ARRAY x Resyncing」と表示されているときは、電源 OFF にしないでください。OFF にすると再度はじめから設定処理を行います。

6 [通信の確認] 画面が表示されます。
60 秒以内に確認番号欄に表示されている数字を正確に入力し、[設定] をクリックします。

7 以降は画面の指示にしたがって操作します。

以上で RAID5(ハードディスク 4 台) の設定が完了しました。
続いて P.38 の手順を参照して共有フォルダーを作成してください。

RAID5 モード (ハードディスク 3 台) で使用する

NOTE: TS-WXL、TS-WXL/1D シリーズでは、RAID5 モードに設定することはできません。
設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。
画面は TS-XL シリーズの例です。

1 「通常モードで使用する」を参照して通常モードへの設定変更を完了させます。

2

TeraStation の設定画面で、[システム]-[ディスク]-[RAID アレイ] をクリックします。

3

設定したいアレイをクリックします。

4

RAID5 で使用するハードディスク (3 つ) をクリックします。

5

1 [RAID5] を選択します。
2 [RAID アレイの作成] をクリックします。

NOTE: RAID 構築中はファイル転送速度が数時間 (ハードディスク 1 台あたり 1TB の製品で約 10 時間かかります) 低下します。前面の液晶ディスプレイに「RAID ARRAY x Resyncing」と表示されているときは、電源 OFF にしないでください。OFF にすると再度はじめから設定処理を行います。

6 [通信の確認] 画面が表示されます。
60 秒以内に確認番号欄に表示されている数字を正確に入力し、[設定] をクリックします。

7 以降は画面の指示にしたがって操作します。

以上で RAID5(ハードディスク 3 台) の設定が完了しました。
続いて P.38 の手順を参照して共有フォルダーを作成してください。

NOTE:残りの 1 台はハードディスクが故障したときに自動で置換するスペアディスクとしてホットスペアを設定することをおすすめします。ホットスペアの設定手順については P.18 をご参照ください。

RAID10 モードで使用する

NOTE: TS-WXL、TS-WXL/1D シリーズでは、RAID10 モードに設定することはできません。
設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。
画面は TS-XL シリーズの例です。

1 「通常モードで使用する」を参照して通常モードへの設定変更を完了させます。

2

TeraStation の設定画面で、[システム]-[ディスク]-[RAID アレイ] をクリックします。

3

設定したいアレイをクリックします。

4

RAID10 使用するハードディスク (4 つ全て) をクリックします。

5

1 [RAID10] を選択します。
2 [RAID アレイの作成] をクリックします。

NOTE: RAID 構築中はファイル転送速度が数時間 (ハードディスク 1 台あたり 1TB の製品で約 10 時間かかります) 低下します。前面の液晶ディスプレイに「RAID ARRAY x Resyncing」と表示されているときは、電源 OFF にしないでください。OFF にすると再度はじめから設定処理を行います。

6 [通信の確認] 画面が表示されます。
60 秒以内に確認番号欄に表示されている数字を正確に入力し、[設定] をクリックします。

7 以降は画面の指示にしたがって操作します。

以上で RAID10 の設定が完了しました。
続いて P.38 の手順を参照して共有フォルダーを作成してください。

RAID1 モードで使用する

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。
画面は TS-XL シリーズの例です。

1 「通常モードで使用する」を参照して通常モードへの設定変更を完了させせます。

2

TeraStation の設定画面で、[システム]-[ディスク]-[RAID アレイ] をクリックします。

3

設定したいアレイをクリックします。

4

RAID1 で使用するハードディスク (ディスク 1 とディスク 2、もしくはディスク 3 とディスク 4）をクリックします。

5

1 [RAID1] を選択します。
2 [RAID アレイの作成] をクリックします。

NOTE: RAID 構築中はファイル転送速度が数時間 (ハードディスク 1 台あたり 1TB の製品で約 10 時間かかります) 低下します。前面の液晶ディスプレイに「RAID ARRAY x Resyncing」と表示されているときは、電源 OFF にしないでください。OFF にすると再度はじめから設定処理を行います。

6 [通信の確認] 画面が表示されます。
60 秒以内に確認番号欄に表示されている数字を正確に入力し、[設定] をクリックします。

7 以降は画面の指示にしたがって操作します。

以上で RAID1 の設定が完了しました。
続いて P.38 の手順を参照して共有フォルダーを作成してください。

NOTE:RAID アレイを構築していない残りのハードディスクは、ハードディスクが故障したときに自動で置換するスペアディスクとしてホットスペアを設定することをおすすめします。ホットスペアの設定手順については P.18 をご参照ください。

RAID0 モードで使用する

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。
画面は TS-XL シリーズの例です。

1 「通常モードで使用する」を参照して通常モードへの設定変更を完了させます。

2

TeraStation の設定画面で、[システム]-[ディスク]-[RAID アレイ] をクリックします。

3

設定したいアレイをクリックします。

4

RAID0 で使用するハードディスクをクリックします。

NOTE:TS-XHL、TS-XL、TS-XEL、TS-RXL シリーズでは 4 つ全て、
TS-WXL シリーズでは 2 つ全てを選択ください。

5

1 [RAID0] を選択します。

2 [RAID アレイの作成] をクリックします。

6 [通信の確認] 画面が表示されます。
60 秒以内に確認番号欄に表示されている数字を正確に入力し、[設定] をクリックします。

7 以降は画面の指示にしたがって操作します。

以上で RAID0 の設定が完了しました。
続いて P.38 の手順を参照して共有フォルダーを作成してください。

ホットスペア (ハードディスクが故障したとき自動でスペアディスクに置換) を設定する

NOTE: TS-WXL、TS-WXL/1D シリーズでは、ホットスペアを設定することはできません。
設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。
画面は TS-XL シリーズの例です。

TS-XHL、TS-XL、TS-XEL、TS-RXL シリーズでは、RAID5 モード (ハードディスク 3 台) や、RAID1 モードで RAID 構築時に選択しなかったハードディスクは通常ディスクとして使用できます。
この通常ディスクをスペアディスクとして設定しておくことで、RAID5、RAID1 のハードディスクが故障したとき、自動でスペアディスクに置換して冗長性を保持することができます。
設定手順は次のとおりです。

NOTE:通常ディスクからスペアディスク、スペアディスクから通常ディスクに設定を変更されたハードディスクのデータは全て削除されます。

1

TeraStation の設定画面で、[システム]-[ディスク]-[RAID アレイ] をクリックします。

2

RAID5 または RAID1 に設定したアレイをクリックします。

3

[スペアディスクに設定] をクリックします。

NOTE: スペアディスクに設定している場合、[通常ディスクに設定] をクリックするとスペアディスクから通常ディスクに変更することができます。

4 [通信の確認] 画面が表示されます。
60 秒以内に確認番号欄に表示されている数字を正確に入力し、[設定] をクリックします。

5 以降は画面の指示にしたがって操作します。

以上でホットスペアの設定が完了しました。

Chapter 4
TeraStation にハードディスクを増設する

ハードディスクを接続する

TeraStation には背面に USB コネクター (USB2.0/1.1 シリーズ A) を 2 個 (TS-RXL シリーズは 3 個) 装備しています。USB コネクターには弊社製ハードディスクを増設して､TeraStation の共有フォルダーを追加することができます。図のように接続をしてください。フォーマット済みのハードディスクであれば自動的に認識されます。未フォーマットの場合、P.20 の手順でフォーマットしてください。

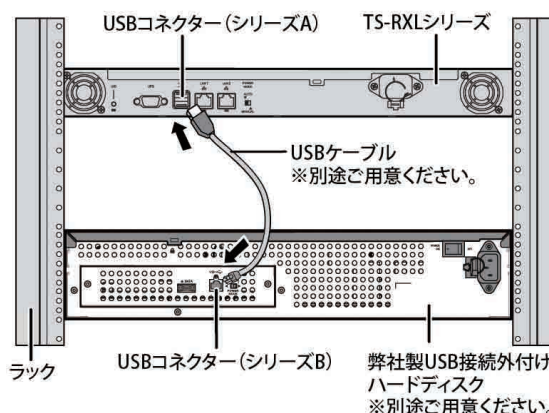
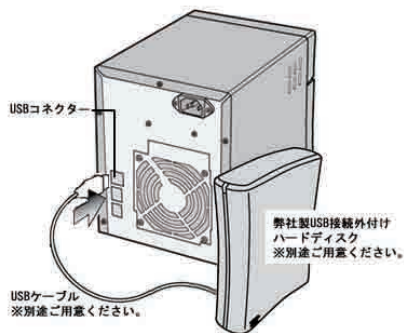
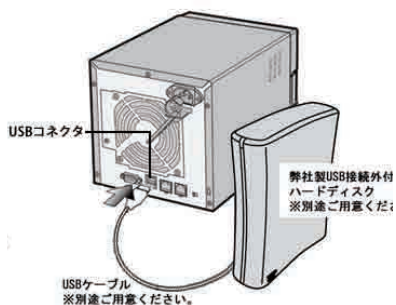
NOTE: 対応ハードディスク製品名は、弊社ホームページ (buffalo.jp) にてご確認ください。

ハードディスクを取り外すときは、必ず P.22 の手順で取り外し処理を行ってください。

NOTE:P.22 に記載の取り外し処理を行わずに USB ハードディスクを取り外すと、再度接続した際に、正常に認識できないことがあります。このようなときは、TeraStation を再起動してから接続してください。

TeraStation の各 USB コネクターにハードディスクを 1 台ずつ接続することができます (TS-XHL、TS-XL、TS-XEL、TS-WXL シリーズ最大 2 台、TS-RXL シリーズ最大 3 台)。

＜ TS-XHL、TS-XL、TS-XEL シリーズ＞

＜ TS-RXL シリーズ＞

＜ TS-WXL シリーズ＞

TS-RXL シリーズでは、前面カバーを取り外して、前面の USB コネクターに接続することもできます。前面の USB コネクターの場所については P.4 をご参照ください。

正常に接続できるとネットワーク上の TeraStation に [usbdisk x] が追加されています。

NOTE: 下線部 x はハードディスクを接続した USB コネクターによって異なります。

・MacOS X で自動生成されたファイル (.DS_Store など) がある場合は、ファイル名に FAT32/16 形式では使用できない文字が含まれているためバックアップできません (エラーが発生し、バックアップが途中で停止することがあります)。

増設したハードディスクをフォーマットする

TeraStation に接続したハードディスクは、次の手順でフォーマットできます。

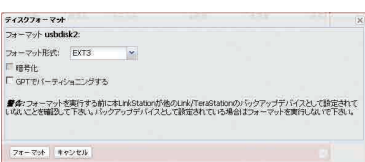
NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。
画面は TS-XL シリーズの例です。

1 TeraStation の設定画面で、[システム]-[ディスク] をクリックします。

2

1 増設したハードディスクを選択します。

2 [ディスクフォーマット] を選択します。

NOTE:対応フォーマット形式については、P.130 をご参照ください。

3 1 フォーマット形式を選択します。

2 [フォーマット] をクリックします。

NOTE: ・フォーマットするとハードディスク内のデータが全て消去されます。
・フォーマットするとハードディスクのパーティションも削除されます。

4 [通信の確認] 画面が表示されます。
60 秒以内に確認番号欄に表示されている数字を正確に入力し、[設定] をクリックします。

5 以降は画面の指示にしたがって操作します。

NOTE: フォーマットが終了するまで共有フォルダーの設定やファイル共有サービスなどの機能は使用できません (フォーマット完了後使用できます)。

以上でハードディスクのフォーマットは完了です。

増設したハードディスクにアクセス制限を設定する

増設したハードディスクにもアクセス制限を設定することができます。P.37 の手順でアクセス制限することができます。

NOTE: 共有フォルダーが見えなくても、フォーマット、ディスクチェック、バックアップを増設したハードディスクに実行することはできます。

TeraStation の USB コネクターに関する制限事項

■ TeraStation の USB コネクターに接続できるのは、USB マススストレージクラス、カードリーダー (2 個以上のメモリーカードを認識できるカードリーダーを除く)、デジタルカメラなどの PTP デバイス、USB 接続 UPS 機器、USB 接続プリンターです。それ以外の USB 機器（USB ハブ、マウス、キーボードなど）を接続して使用することはできません。
※対応 USB 機器は弊社ホームページ (buffalo.jp) にてご確認ください。

■ TeraStation の USB コネクターに接続して使用できるハードディスクは 2 台までです (TS-RXL シリーズでは 3 台)。弊社製ハードディスク以外のハードディスクは対応しておりません (弊社製 DIU/DUB シリーズは非対応)。対応の増設ハードディスクについては、弊社ホームページ (buffalo.jp) をご参照ください。

※ AUTO 電源機能を搭載したハードディスクを TeraStation に接続しても認識できないことがあります。そのようなときは、「AUTO 電源機能切替スイッチ」を「MANUAL」に設定してください。

※ TeraStation に HD-DU2 シリーズを接続して使用すると、HD-DU2 シリーズのダイレクトコピー機能を使用できません。ダイレクトコピー機能を使用したいときは、HD-DU2 シリーズをパソコンに接続し、HD-DU2 シリーズ付属のフォーマッターでフォーマットしてください。

※バスパワーで電源を USB 接続外付けハードディスクに供給できるのは 1 台までです。ハードディスクによっては、バスパワーで使用できないこともあります。このようなときは、ハードディスクに AC アダプターを接続してお使いください。

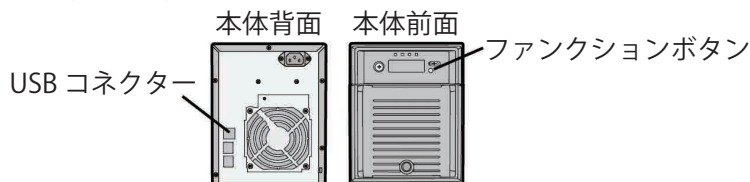
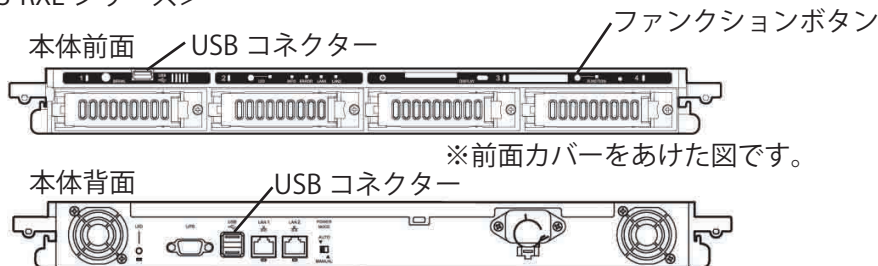
■ USB コネクターに接続したハードディスクは、第 1 パーティション（領域）のみ認識されます。第 2 パーティション以降は認識できません。

Chapter 5
TeraStation に接続しているハードディスクの取り外し処理

ファンクションボタンで取り外し処理をする

TeraStation に取り付けた USB ハードディスクは、TeraStation 前面のファンクションボタンで取り外し処理を行うことができます。

取り外し手順

ファンクションボタンを 6 秒以上押し続けます。ファンクションボタンが青色に点灯します (TS-RXL シリーズでは、ファンクションボタン横のランプが青色に点灯します)。青色点灯が消灯に変わった後に、USB 機器を取り外してください。消灯した後、再度点灯しますが、そのまま取り外してかまいません。
TeraStation の電源が OFF のときはそのまま取り外せます。

NOTE:USB ハードディスクを再度接続するときは、3 分程度時間をあけてから接続してください。すぐに接続すると認識できないことがあります。

TeraStation の設定画面から取り外し処理をする

TeraStation 内蔵のハードディスクおよび USB 接続したハードディスクを TeraStation の設定画面から取り外し処理を行うときは、次のように行います。

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。
画面は TS-XL シリーズの例です。

1

TeraStation の設定画面で、[システム]-[ディスク] をクリックします。

2

1 使用しない USB ディスクを選択します。
2 [ディスクの取り外し] をクリックします。

NOTE:[通信の確認] 画面が表示されたら 60 秒以内に確認番号欄に表示されている数字を入力し、[設定] をクリックしてください。

3 ファンクションボタンの青色点灯 (TS-RXL シリーズでは、ファンクションボタン横のランプが青色に点灯します) が始まってから 30 秒以内に、USB 機器を取り外してください。

NOTE: USB ディスクを接続したままにしておくと、再度認識処理が行われますのでご注意ください。

以上で取り外し処理は完了です。

Chapter 6
バックアップする

パソコンのデータをバックアップする (Windows)

パソコンのデータを TeraStation にバックアップするときは､付属の「簡単バックアップ」を使います。簡単バックアップは、付属のユーティリティー CD(TeraNavigator) からインストールすることができます。

使いかたについてはインストール後に、[スタート]-[(すべての) プログラム]-[BUFFALO]-[簡単バックアップ]-[簡単バックアップ マニュアル] をご参照ください。

TeraStation のデータをバックアップする

TeraStation の設定画面で､TeraStation の共有フォルダー単位でバックアップを行うことができます。バックアップ先には、次の 3 つのいずれかを選ぶことができます。

・他の TeraStation　(P.24、26、27 の手順にしたがって設定してください)

・同じ TeraStation の別フォルダー　(P.24、27 の手順にしたがって設定してください)

・TeraStation に接続した USB ハードディスク　(P.27 の手順にしたがって設定してください)

●バックアップ先 / バックアップ元を設定する

バックアップを行う前に、バックアップ先 / バックアップ元のフォルダーを設定する必要があります。

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1

TeraStation の設定画面で､[共有フォルダー]-[共有フォルダー] をクリックします。

2

バックアップ先 / バックアップ元にしたい共有フォルダーをクリックします。

3

公開先から [バックアップ] をクリックしチェックマークを表示させせます。

NOTE: ネットワーク経由で他の TeraStation からのバックアップ先にするときは、[バックアップ公開先パスワード] でパスワードを設定することもできます。パスワードを設定したくないときは何も入力しないでください。

4 画面の一番下にある [保存] をクリックします。

NOTE: バックアップ元、バックアップ先として選択できるフォルダーは、次の通りです。

■ 通常バックアップ、上書きバックアップ (増分、差分)

バックアップ元として選択できるフォルダー：

- バックアップ設定を行う TeraStation 内の共有フォルダー (info フォルダー除く /USB ディスク含む)
- 同一セグメントにあるバックアップ設定を行う TeraStation 以外の TeraStation/LinkStation 内の共有フォルダー (USB ディスクを除く)　※ 1、2
- TeraStation の設定画面 [システム]-[バックアップ]-[Link/TeraStation 一覧を表示] で IP アドレスを手動入力して検出した TeraStation/LinkStation の共有フォルダー (USB ディスク除く) ※ 1、2

バックアップ先として選択できるフォルダー：

- バックアップ設定を行う TeraStation 内の共有フォルダー (info フォルダーを除く /USB ディスク含む)　※ 1、2
- 同一セグメントにあるバックアップ設定を行う TeraStation 以外の TeraStation/LinkStation 内の共有フォルダー (USB ディスク除く)　※ 1、2
- TeraStation の設定画面 [システム]-[バックアップ]-[Link/TeraStation 一覧を表示] で IP アドレスを手動入力して検出した TeraStation/LinkStation の共有フォルダー　※ 1、2

■履歴管理バックアップ　※ TS-XHL シリーズのみに搭載している機能です。

バックアップ元として選択できるフォルダー：

- バックアップ設定を行う TeraStation 内の共有フォルダー (info フォルダー除く /USB ディスク含む)
- 同一セグメントにあるバックアップ設定を行う TeraStation 以外の TeraStation/LinkStation 内の共有フォルダー (USB ディスクを除く)　※ 1、2
- TeraStation の設定画面 [システム]-[バックアップ]-[Link/TeraStation 一覧を表示] で IP アドレスを手動入力して検出した TeraStation/LinkStation の共有フォルダー　※ 1、2

バックアップ先として選択できるフォルダー：

- バックアップ設定を行う TeraStation 内の共有フォルダー (info フォルダー除く /USB ディスク含む) ※ 2

※ 1　共有フォルダー設定画面の [公開先] で [バックアップ] を選択している必要があります。
※ 2　共有フォルダーの中にあるサブフォルダーは取得しません。

●他の TeraStation をバックアップ先にするときの設定

バックアップ公開用 (検索用) パスワードを設定している場合

バックアップ先の共有フォルダーにパスワードを設定している場合、パスワードを入力しないとバックアップ先として選択することはできません。バックアップを行う前に次の手順でパスワードを入力してください。

1 **TeraStation の設定画面で、[システム]-[バックアップ] をクリックします。**

2 **バックアップ先検索用パスワードの [設定変更] をクリックします。**

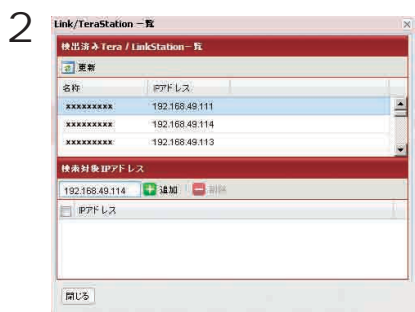
3 バックアップ先 Link/TeraStation 共有フォルダーに設定した検索用パスワードを入力し、[保存] をクリックします。

検索時に見つかるバックアップ先フォルダーは、パスワードが未設定のフォルダーと、認証パスワードが一致したフォルダーです。

ルーターを越えた TeraStation や VPN で接続されたネットワークの TeraStation にバックアップしたい場合

ルーターを越えた TeraStation や VPN で接続されたネットワークの TeraStation にバックアップするときは、バックアップを行う前に次の手順で TeraStation の IP アドレスを入力してください。

1 **TeraStation の設定画面で、[システム]-[バックアップ]-[Link/TeraStation 一覧を表示] をクリックします。**

2

1 [検出済み Tera/LinkStation] からバックアップ先にしたい TeraStation の IP アドレスを確認します。

2 [検索対象 IP アドレス] に、バックアップ先にしたい TeraStation の IP アドレスを入力し、[追加] をクリックします。

以下の条件の方は上記の設定は必要ありません。P.27 の手順でバックアップを行ってください。

- **バックアップ先に他の TeraStation を使用しない**
- **バックアップ先の TeraStation に検索バックアップ公開用パスワードを設定していない**
- **バックアップ先にルーターを越えた TeraStation や VPN で接続されたネットワークの TeraStation を使用しない**

NOTE: JumboFrame をご利用いただいている方で、Link/TeraStation のデータを他の Link/TeraStation にバックアップするときは、2 つの Link/TeraStation のイーサネットフレームサイズを最も近い値に設定してください。イーサネットフレームサイズが大きく異なる場合、正常にバックアップできないことがあります。このようなときは初期設定のフレームサイズ (1518bytes) を選択してください。

●バックアップを設定する

1 TeraStation の設定画面で、[システム]-[バックアップ]-[バックアップ設定]-[バックアップタスクの追加] をクリックします。

NOTE:バックアップの設定は最大 8 個まで設定できます。ここでは個々の設定をタスクと案内しています。

2 バックアップ設定項目 (実行日、実行時刻など) を選択します。

NOTE: バックアップオプションについては、P.137 をご参照ください。

NOTE:バックアップ動作モードについて

バックアップ動作モードでは次のモードを選択できます。

通常バックアップ

バックアップ元からバックアップ先へ全てのファイルがバックアップされます。

上書きバックアップ（増分バックアップ）

1 度目に通常バックアップと同様に全てのファイルをバックアップします。2 回目以降にバックアップ元に A ファイル追加、B ファイル削除されていた場合、バックアップ先へ A ファイルを追加し、B ファイルは削除しません。バックアップ先の容量は削除されないファイル分増加します。

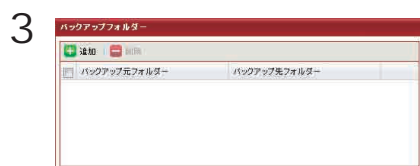
上書きバックアップ（差分バックアップ）

1 度目に通常バックアップと同様に全てのファイルをバックアップします。2 回目以降にバックアップ元に A ファイル追加、B ファイル削除されていた場合、バックアップ先へ A ファイルを追加し、B ファイルは削除されます。バックアップ元とバックアップ先の容量は同じとなります。

履歴管理バックアップ　※ TS-XHL シリーズのみに搭載している機能です。

バックアップ実行する度に管理情報を保持し、変更があったファイルのみコピーまたは削除します。変更のないファイルは以前のバックアップファイルから情報を引き出します (以前のバックアップしたファイルが破損した場合、参照できなくなります)。容量を抑えてバックアップしたいとき、ある時点の状態を参照できるようにしたい (スナップショットのような用途として使用したい) ときに用います。

[管理世代数] にはバックアップするデータを何回分保存しておくか選択してください (無制限、1 ～ 10)。

- 履歴管理バックアップ先に指定できるのは TeraStation の共有フォルダーおよび TeraStation に接続した USB ハードディスクのみです。
- 指定された共有フォルダー、USB ハードディスクの共有フォルダーは読み取り専用に変更されます。
- 履歴管理バックアップでのバックアップ先に、FAT フォーマットの USB ハードディスクを使用することはできません。
- USB ハードディスクを履歴管理バックアップ先としてご使用される場合、USB ハードディスクを他の機器に接続して編集しないでください。バックアップの内容が意図しないファイルに書き換わってしまうことがあります。

3

[バックアップフォルダー] の [追加] をクリックします。

4

1 バックアップ元とバックアップ先フォルダーを選択します。

2 [追加] をクリックします。

5

[設定] をクリックします。

6

[バックアップ] 画面に追加したタスクが表示されます。

NOTE:
- バックアップ元フォルダーには第二階層のフォルダーまで登録できます。ただし、共有フォルダー名を含め、80bytes 以上のフォルダーは選択できません。
- バックアップ先デバイスをあらかじめバックアップ先として設定していないと選択することはできません。
- TeraStation の USB コネクターに接続したハードディスクが FAT32/16 形式でフォーマットされている場合、次の制限があります。XFS 形式または EXT3 形式でフォーマットすることをおすすめします。

  FAT16 形式では 1 ファイル 2GB 以上、FAT32 形式では 1 ファイル 4GB 以上のデータはバックアップできません (エラーが発生し、バックアップが途中で停止することがあります)。

  Mac OS X で自動作成されたファイル (.DS_Store など）がある場合は、ファイル名に FAT16/32 形式では使用できない文字が含まれているためバックアップできません（エラーが発生し、バックアップが途中で停止することがあります)。
- PC 連動電源機能と合わせて使用する場合は、次の事項にご注意ください。

  PC 連動電源機能にてスタンバイ状態となっている場合、バックアップ開始 15 分前になると自動的に本体が起動し、バックアップを開始します。

  バックアップ開始予定時刻の直前にスタンバイ状態への移行された場合、お使いの環境によっては起動に時間がかかり、バックアップができない (バックアップが開始されない) ことがあります。

バックアップに関する制限事項

■ USB ハードディスク（FAT32 形式）に上書き差分バックアップした場合、差分がなくても上書きバックアップが実行されることがあります。これは FAT32 の仕様によるもので、ファイル作成日の秒数が奇数のファイルは、差分の有無にかかわらず毎回上書きバックアップされます。

■ Jumbo Frame を使用している場合、TeraStation/LinkStation のデータを他の TeraStation/LinkStation にバックアップするときは、2 つの TeraStation/LinkStation のイーサネットフレームサイズを最も近い値に設定してください。イーサネットフレームサイズが大きく異なる場合、正常にバックアップできないことがあります。このようなときは初期設定のフレームサイズ（1518bytes）を選択してください。

■ TeraStation の Web 設定画面を用いてバックアップするとき、バックアップするファイル名やフォルダー名にマルチバイト文字が含まれると、出力されるログファイルのファイル・フォルダー名が正しく出力されないことがあります。

■ バックアップの設定後にフォーマットや RAID アレイの設定を変更したときは、必ずバックアップの設定も変更してください。バックアップ元の共有フォルダーが存在しない場合、エラーが表示されます。

■ バックアップ先およびバックアップ元のファームウェアが最新バージョンでない場合、20bytes 以上のフォルダー名の共有フォルダーを選択できないことがあります。このようなときは、最新のファームェアを弊社ホームページ (buffalo.jp) のダウンロードサービスからダウンロードし、アップデートしてください。現象が改善することがあります。

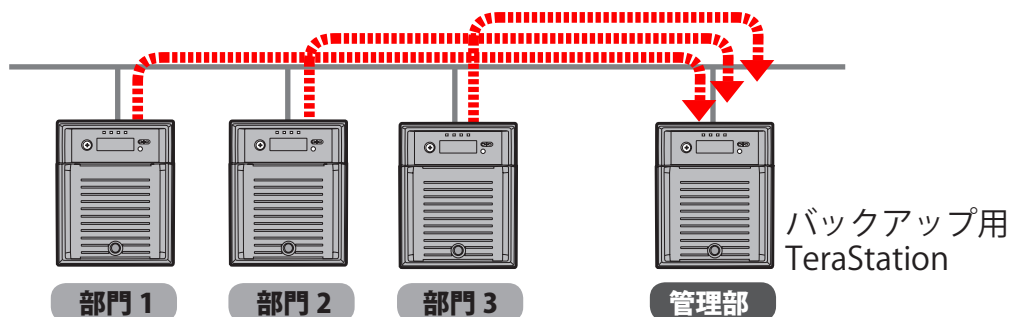
TeraStation まとめてバックアップ機能を使用する

本製品は複数台の TeraStation から、まとめて 1 台の TeraStation に共有フォルダーごとにバックアップできる「TeraStation まとめてバックアップ機能」を搭載しています。

P.24 手順 3 をバックアップ元として設定する TeraStation の共有フォルダーに対して設定を行います。

バックアップ先として設定を行う TeraStation は、P.24、27、28 の設定を行ってください。

※下記の場合は、P.28 手順 4 でバックアップ元として選択できないことがあります。
そのようなときは、P.26 を参照の上設定を行ってください。
・バックアップ元の TeraStation へパスワードが設定されている場合
・バックアップ元とバックアップ先の TeraStation が同一セグメント上に存在しない場合

■ 各部門の TeraStation を管理部でまとめてバックアップ

レプリケーション機能を使用する

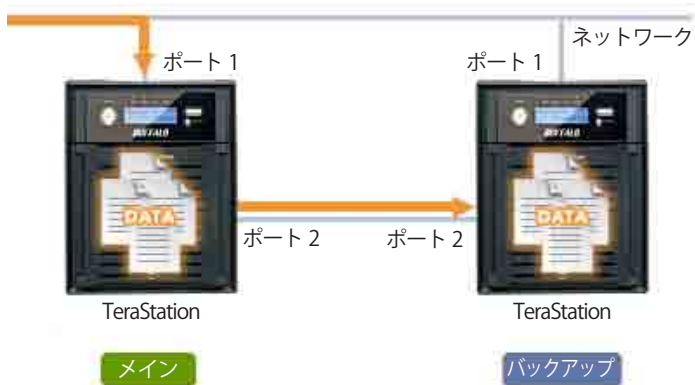
TeraStation には LAN ポートが 2 つ搭載されています。1 つはネットワークに、もう 1 つは予備の TeraStation に接続し、レプリケーション機能を設定すれば、TeraStation に書き込んだデータは、ファイル単位で予備の TeraStation にも書き込まれます。

万が一、1 台が故障しても、予備の TeraStation に LAN ケーブルをつなぎかえることで、信頼性が高く、可用性に優れたシステムを構築できます。

通常時通常（レプリケーション状態）

TeraStation には LAN ポートが 2 つ搭載されています。1 つはネットワークに、もう 1 つはバックアップの TeraStation につなぎます。メインに書き込んだデータは、ファイル単位でバックアップに書き込まれます（ファイルの更新は、メインの TeraStation 上での保存・削除をトリガーに行われます）。

※バックアップの指定は共有フォルダーごとに可能です。指定できる共有フォルダーの上限は、64 フォルダーまでとなります。

ネットワーク
ポート 1
ポート 1
ポート 2
ポート 2
TeraStation
TeraStation
メイン
バックアップ

メイン故障発生時

バックアップ側の TeraStation の Web 設定画面を開いて設定変更することで、メインとして使用できます。

※ただし、ファイル以外の設定情報などはレプリケーションの対象外です。

レプリケーション再構築

修理した TeraStation は、バックアップとしてメインの LAN ポートにつなぎます。再度、レプリケーション設定を行うことで、メインとバックアップのデータの整合性をとり、レプリケーション状態になります。

NOTE: ・レプリケーション機能では、Windows ファイル共有 (SMB、CIFS)/Apple ファイル共有 (AFP)/NFS/SFTP/FTP/FTPS のプロトコルによって書き込まれたファイル / フォルダーのみレプリケーション先に転送します。

・レプリケーション機能によるファイル転送は非同期で行われます。ネットワークの環境や TeraStation の稼動状態によっては、ファイル転送に時間がかかることがあります。

・レプリケーション機能では、一時的にネットワークの通信ができない等の理由によりファイル転送が失敗すると、再転送を試みます。それでもファイル転送ができないときは、エラーとなり TeraStation 前面の ERROR ランプが赤色に点灯し、警告音が鳴ります。このようなときは、TeraStation の設定画面 [システム]-[バックアップ]-[レプリケーション] の [再同期] をクリックしてください。レプリケーション先のフォルダーにレプリケーション元のデータを差分上書きコピーを行います。

・レプリケーション元に設定したフォルダに一度にアクセスするような場合、システムの処理速度が遅くなってしまいますのでご注意ください。

・1 つのレプリケーション元に対して、複数のレプリケーション先を設定しないでください。レプリケーションの転送プロセスが同時に複数立ち上がることになり、システムの処理速度が遅くなってしまいます。

・大量のファイルを長時間にわたって連続でレプリケーション元のフォルダーに書き込むことはできません。

・レプリケーションの転送元に設定したフォルダーを Mac OS X でサポートされている Time Machine 機能のバックアップ先として使用できません。

・レプリケーションのカスケード設定はできません。レプリケーション先に転送されたファイルをさらにレプリケーションする。といったような使い方はできません。

・Mac OS X から AFP 接続で書き込みを行った場合、システムの処理速度が遅くなる場合があります。このような場合は、SMB 接続にて接続し、書き込みを行ってください。

・USB ディスクにレプリケーションを行う場合、USB ディスクにレプリケーション元と同名のフォルダーが作成されます。既に USB ディスクに同名のフォルダーが存在する場合、ファイルが消去されることがありますのでご注意ください。

・TeraStation の USB コネクターに接続したハードディスクが FAT32/16 形式でフォーマットされている場合、次の制限があります。XFS 形式または EXT3 形式でフォーマットすることをおすすめします。

FAT16 形式では 1 ファイル 2GB 以上、FAT32 形式では 1 ファイル 4GB 以上のデータはレプリケーションできません (エラーが発生し、レプリケーションが途中で停止することがあります)。

Mac OS X で自動作成されたファイル (.DS_Store など）がある場合は、ファイル名に FAT16/32 形式では使用できない文字が含まれているためレプリケーションできません（エラーが発生し、レプリケーションが途中で停止することがあります）。

・NFS をカーネルモードに設定している場合、NFS プロトコルによって書き込まれたファイル / フォルダーはレプリケーション先に転送されません。NFS 設定をカーネルモードからユーザーモードに変更するには、TeraStation の設定画面 [ネットワーク]-[NFS]-[NFS サービス] で行います。

・レプリケーション先およびレプリケーション元のファームウェアが最新バージョンでない場合、20bytes 以上のフォルダー名の共有フォルダーを選択できないことがあります。このようなときは、最新のファームェアを弊社ホームページ (buffalo.jp) のダウンロードサービスからダウンロードし、アップデートしてください。現象が改善することがあります。

NOTE: **レプリケーションのバックアップ元、バックアップ先として選択できるフォルダーは、次の通りです。**

バックアップ元として選択できるフォルダー：

・バックアップ設定を行うTeraStation内の共有フォルダー(infoフォルダー除く/USBディスク含む)

バックアップ先として選択できるフォルダー：

・バックアップ設定を行うTeraStation内の共有フォルダー(infoフォルダー除く/USBディスク含む)※1、2

・同一セグメントにあるバックアップ設定を行うTeraStation以外のTeraStation/LinkStation内の共有フォルダー(USBディスクを除く) ※1、2、3

・TeraStationの設定画面[システム]-[バックアップ]-[Link/TeraStation一覧を表示]でIPアドレスを手動入力して検出したTeraStation/LinkStationの共有フォルダー ※1、2、3

※1 共有フォルダー設定画面の[公開先]で[バックアップ]を選択している必要があります。
※2 共有フォルダーの中にあるサブフォルダーは取得しません。
※3 共有フォルダー設定画面の[バックアップ公開パスワード]でパスワードを設定している共有フォルダーはバックアップ先として使用できません。

レプリケーション機能の設定手順は次のとおりです。

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1

TeraStation の設定画面で、[システム]-[バックアップ]-[レプリケーション] をクリックします。

2 **[追加] をクリックします。**

3

1 レプリケーション元のフォルダーを選択します。
2 レプリケーション先のフォルダーを選択します。
NOTE: ・レプリケーション機能に対応した TeraStation(TS-XHL、TS-XL、TS-XEL、TS-WXL、TS-RXL、TS-HTGL、TS-RHTGL シリーズなど) の共有フォルダーのみ選択できます。対応機器については弊社ホームページ (buffalo.jp) をご参照ください。
・レプリケーション設定は 64 個まで登録できます。
・レプリケーション先のフォルダーは、あらかじめ P.24「バックアップ先 / バックアップ元を設定する」を参考にし、[公開先] の [バックアップ] をクリックしてチェックマークを表示させてください。
3 [保存] をクリックします。

NOTE: ・**バックアップ公開パスワードが設定された共有フォルダーは、レプリケーション先に選択することができません。**
・**レプリケーション先のフォルダーにはレプリケーション元のデータが差分上書きコピーされます。レプリケーション元にないデータは消去されますのでご注意ください。**

4 **表示される警告メッセージをよく読み、[OK] をクリックします。**

以上でレプリケーション機能の設定は完了です。

Time Machine 機能でバックアップする

Mac OS X 10.5 以降でサポートされた Apple 社のバックアップ機能 Time Machine を使用する場合、次の手順で行ってください。

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1

TeraStationの設定画面で、[ネットワーク]-[ネットワーク]-[ネットワークサービス]の[AFP]をクリックします。

2

[使用する]を選択し、[保存]をクリックします。

3

1 [共有フォルダー]をクリックします。

2 Time Machine 機能でバックアップ先にしたい共有フォルダーをクリックします。

4

NOTE: Time Machine バックアップ先として使用する共有フォルダーの名称は、アルファベット、数字のみを使用することをおすすめします(マルチバイト文字を含む場合、バックアップできないことがあります)。

1 公開先から[Mac(AFP)]を選択します。

2 [保存]をクリックします。

5

1 TeraStation の設定画面で、[その他]ー[Time Machine]をクリックします。

2 [設定変更]をクリックします。

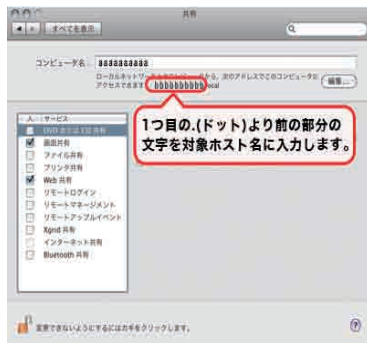
6

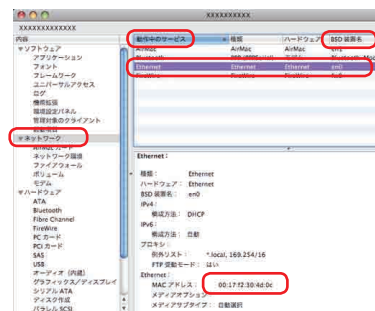
1 [使用する] を選択します。
2 手順 3 ～ 4 で設定した TeraStation の共有フォルダーを対象共有フォルダーから選択します。
3 [保存] をクリックします。

7

1 Time Machine 機能を使用する Macintosh のホスト名を入力します。
2 Time Machine 機能を使用する Macintosh の MAC アドレスを入力します。
3 [作成] をクリックします。

NOTE: ・Macintosh のホスト名を確認するには

[システム環境設定] ー [共有] 画面の [コンピュータ名] の下に表示されています。

例）「bbbbbbbbbb.local」の場合、「bbbbbbbbbb」を対象ホスト名に入力します。
「cccccccccc.eee-ee.local」の場合、「cccccccccc」を対象ホスト名に入力します。「dddddddddd.fff-ff.jp」の場合、「dddddddddd」を対象ホスト名に入力します。

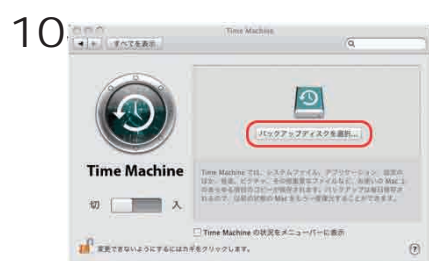
・Macintosh の MAC アドレスを確認するには

1 アップルメニューより [この Mac について] を開き [詳細] をクリックします。
2 システムプロファイラーが起動したら、画面左のメニューより [ネットワーク] をクリックします。
3 [動作中のサービス] より BSD 装置名が [en0] の項目を選択し、[MAC アドレス] に表示されている英数字が MAC アドレスです。表示されている MAC アドレスをマウスでドラッグしてコピーし、[対象 MAC アドレス] にペーストで入力すると便利です。

NOTE:Time Machine 機能でバックアップ先として設定した TeraStation の共有フォルダーの中に、＜ Macintosh のホスト名＞ _ ＜ Macintosh の MAC アドレス＞ .sparsebundle というフォルダーが作成されます。
このフォルダー名を変更したり削除したりすると Time Machine のバックアップ先として使用できなくなったり、正常にリカバリーできなくなりますのでご注意ください。

8 Mac OS X のアップルメニューから、[システム環境設定] を選択します。

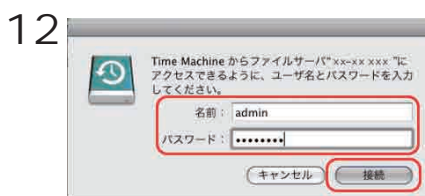
9

[Time Machine] をクリックします。

10

[バックアップディスクを選択] をクリックします。

11

TeraStation を選択し、[バックアップに使用] をクリックします。

12

TeraStation の共有フォルダーにアクセスするためのユーザー名とパスワードを入力し、[接続] をクリックします。

NOTE: **バックアップ先の TeraStation の共有フォルダーにアクセス制限機能を使用していない場合は、管理者ユーザーのユーザー名・パスワード (初期設定ではユーザー名 admin、パスワード password) を入力してください。アクセス制限機能を使用している場合は、書き込み権限のあるユーザー名とパスワードを入力してください。**

13

Time Machine のスイッチが [入] になっていることを確認します。
[次回のバックアップ] に表示されている秒がカウントダウンされ、0 秒になるとバックアップを開始します。
バックアップは、バックグラウンドでおこなわれるため、Mac OS X の操作やシャットダウンなどは、通常通り行えます。
復旧を行う場合やバックアップから除外したい項目を設定する場合は、Mac OS X のヘルプを参照してください

以上で Time Machine によるバックアップは完了です。

Chapter 7
アクセス制限を設定する

TeraStation は、共有フォルダーごとにアクセスできるユーザーやグループを設定できます。大切なデータを公開したくないときなどに設定ください。アクセス制限する方法には、次の 4 つがあります。

● TeraStation に手動で登録したユーザー / グループにアクセス制限

P.45 の手順にしたがって設定してください。

● ActiveDirectory 環境でのアクセス制限

P.47 の手順にしたがって設定してください。

NOTE: ・ここでは Windows 2000 Server/Server 2003/Server 2008 で Active Directory をお使いの場合の手順を記載しています。

・セキュリティー設定によっては、ドメインで参加できない、参加できても認証できないことがあります。このようなときは、「外部の SMB サーバーに認証を委任してアクセス制限」を行うことをおすすめします。

● NT ドメインログオン環境でのアクセス制限

P.49 の手順にしたがって設定してください。

●外部の SMB サーバーに認証を委任してアクセス制限

P.52 の手順にしたがって設定してください。

NOTE: ・アクセス制限は共有フォルダーごとに設定できます。共有フォルダーの中にあるフォルダーには設定できません。

・TeraStation 内のフォルダのプロパティーで表示されるセキュリティータブで Windows の標準機能のアクセス制限を設定した場合、ファイルアクセスができなくなる場合があります。Windows 標準のアクセス制限機能による動作はサポートしておりません。

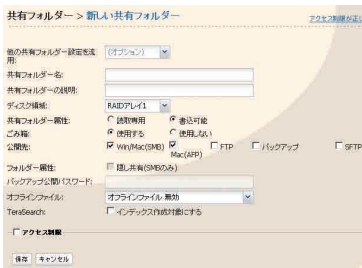
共有フォルダーを追加する

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1

1 TeraStation の設定画面で、[共有フォルダー]-[共有フォルダー] をクリックします。

2 [共有フォルダーの作成] をクリックします。

2

1 共有フォルダー名、公開先などを設定します。

2 [保存] をクリックします。

NOTE:
- 共有フォルダー名は、UTF-8 換算で 27 bytes(日本語の多くは 1 文字あたり 3 bytes）まで入力できます。-(ハイフン)、_(アンダーバー) を使用することもできます。先頭文字に記号を使用することはできません。
  共有フォルダーの説明は、UTF-8 換算で 75bytes まで入力できます。-(ハイフン)、_(アンダーバー)、半角スペースを使用することもできます。先頭文字に記号を使用することはできません。
- TeraStation に作成できる共有フォルダー数は最大 400 個です。
- AFP、FTP 共有として使用する共有フォルダー名称にマルチバイトを使用する場合、[システム]-[基本]-[言語設定] Windows クライアント言語 を使用する文字に合わせて設定する必要があります。また、使用する文字によっては正しくアクセスできない可能性がありますので、アルファベット、数字のみを使用することをおすすめします。
- AFP、FTP 共有として使用する共有フォルダー名称には、異なる言語セットの文字を混在させることはできません。(例 : 日本語と韓国語を混在させる など)

以上で新しい共有フォルダーの作成は完了です。

共有フォルダーのデータを誤って消去しないために (ごみ箱機能の使用)

TeraStation の設定画面で共有フォルダーごとにごみ箱機能の設定ができます (SMB 接続時以外は使用できません)。OS のゴミ箱と同じように、共有フォルダー内の削除されたデータは一時的にごみ箱 [trashbox] フォルダーに移動されます。削除したデータを元に戻したいときは、[trashbox] フォルダーを開いてファイルを移動させてください。

NOTE: ごみ箱内にあるファイルを一括消去したいときは、TeraStation の設定画面で [共有フォルダー]-[共有フォルダー]-[全ての共有フォルダー内のごみ箱を空にする] をクリックしてください。

共有フォルダーを読み取り専用にしたいときは

共有フォルダー設定画面で共有フォルダーの属性 [読取専用] を選択し [保存] をクリックすると、共有フォルダーは読み取り専用になります。

NOTE: 初期設定は [書込可能] に設定されています。

読み取り専用属性に設定した共有フォルダーは、アクセス制限で書き込み可能になっているユーザー、グループでもデータを書き込むことはできません (読み取り専用となります)。

読み取り専用属性に設定した共有フォルダーや、NTFS/HFS+ 形式の USB ハードディスクは、共有フォルダーの説明に「(Read Only)」が追加されます。

存在を知っているユーザーだけがアクセスできる共有フォルダーを作るには

共有フォルダー設定画面で共有フォルダーの属性 [隠し共有] を選択し [保存] をクリックすると、設定した共有フォルダーは見えなくなります。

NOTE: 公開先 [MacOS(AFP)][FTP][SFTP] のチェックボックスにチェックマークが表示されていると、[隠し共有] は選択できません。
隠し共有にした共有フォルダーを開くには、[スタート]-[ファイル名を指定して実行] をクリックし、名前に　¥¥TeraStation 名¥共有フォルダー名$¥　と入力してください。
TS-XL シリーズの例：TeraStation 名 =TS-XL001、共有フォルダー名 =share の場合、¥¥TS-XL001 ¥share $¥ となります。

制限事項

■ Macintosh と Windows でデータを共有する場合、以下の文字では、文字化けは発生しませんが、コードが異なります。
　—～‖－￠￡￢

■ Macintosh で作成したファイル名に下記の記号が含まれると、Windows からは OS の制限により正常に表示できません。また Mac OS X（10.2 以降）では、AFP を使用せずに smb を指定して接続する時に下記の記号を使用すると、ファイルをコピーできません（または正常に表示できません）。
　？［］／￥＝＋＜＞；：”，｜＊

■ 本製品に登録するユーザー名およびグループ名に以下の文字は使用できません。あらかじめご了承ください。
　< 登録できないユーザー名、グループ名 >
　root、bin、daemon、sys、adm、tty、disk、lp、sync、shutdown、halt、operator、nobody、mail、news、uucp、ftp、kmem、utmp、shadow、users、nogroup、all、none、hdusers、admin(管理者ユーザーのみ設定可能)、guest、man、www、sshd、administrator、ftpuser、apache、mysql

■ 本製品に登録する共有フォルダー名に以下の文字は使用できません。あらかじめご了承ください。
　< 登録できない共有フォルダー名 >
　info、spool、usbdisk1、usbdisk2、usbdisk3、usbdisk4、lost+found、global、printers、homes、lp、auth、ram、disk1、disk2、disk3、disk4、array1、array2

■ 共有フォルダー名、ワークグループ名およびファイル名に以下の文字を使用すると、TeraStation のデータにアクセスできない、ファイル操作が正常に行えないことがあります。そのようなときは他の文字をお使いください。
　< 登録できない文字一覧 >
　①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳ⅠⅡⅢⅣⅤⅥⅦⅧⅨⅩⅰⅱⅲⅳⅴⅵⅶⅷⅸⅹ㎜㎝㎞㎎㎏㏄㎡№㏍℡㊤㊥㊦
　㊧㊨㈱㈲㈹㍾㍽㍼㍻㍉㌔㌢㍍㌘㌧㌃㌶㍑㍗㌍㌦㌣㌫㍊㌻￤＇＂〝〟∮∑∟⊿纊褜鍈銈蓜俉炻昱棈鋹曻彅丨仡仼伀伃伹
　佖侒侊侚侔俍偀倢俿倞偆偰偂傔僴僘兊兤冝冾凬刕劜劦勀勛匀匇匤卲厓厲叝﨎咜咊咩哿喆坙坥垬埈埇﨏塚增墲夋奓奛奝奣妤
　妺孖寀甯寘寬尞岦岺峵崧嵓﨑嵂嵭嶸嶹巐弡弴彧德忞恝悅悊惞惕愠惲愑愷愰憘戓抦揵摠撝擎敎昀昕昻昉昮昞昤晥晗晙晴晳
　暙暠暲暿曺朎朗杦枻桒柀栁桄棏﨓楨﨔榘槢樰橫橆橳橾櫢櫤毖氿汜沆汯泚洄涇浯涖涬淏淸淲淼渹湜渧渼溿澈澵濵瀅瀇瀨炅
　炫焏焄煜煆煇凞燁燾犱犾猤猪獷玽珉珖珣珒琇珵琦琪琩琮瑢璉璟甁畯皂皜皞皛皦益睆劯砡硎硤硺礰礼神祥禔福禛竑竧靖竫
　箞精絈絜綷綠緖繒罇羡羽茁荢荿菇菶葈蒴蕓蕙蕫﨟薰蘒﨡蠇裵訒訷詹誧誾諟諸諶譓譿賰賴贒赶﨣軏﨤逸遧郞都鄕鄧釚釗釞
　釭釮釤釥鈆鈐鈊鈺鉀鈼鉎鉙鉑鈹鉧銧鉷鉸鋧鋗鋙鋐﨧鋕鋠鋓錥錡鋻﨨錞鋿錝錂鍰鍗鎤鏆鏞鏸鐱鑅鑈閒隆﨩隝隯霳霻靃靍靏
　靑靕顗顥飯飼餧館馞驎髙髜魵魲鮏鮱鮻鰀鵰鵫鶴鸙黑畩秕緇臂蘊訃躱鐓饐鷁

■ マルチバイト文字（日本語など）のフォルダーやファイル名を作成するときは、UTF 換算で 255bytes 以内にしてください。255bytes を越える名前のフォルダーやファイルは、コピー操作ができないことがあります。

■ TeraStation のフォルダーやファイルに Windows 上から属性（隠し / 読取専用）を設定することはできません。TeraStation の共有フォルダーに属性と設定したいときは、TeraStation の設定画面で行ってください。TeraStation の設定画面［共有フォルダー］-［共有フォルダー］で設定したい共有フォルダーをクリックし、［共有フォルダー属性］から、「読取専用」「書込可能」「隠し共有（SMB のみ）」を選択することができます。

■ 共有フォルダー名とワークグループ名に漢字を使用すると、使用した文字によっては共有フォルダーやワークグループが正常に表示されないことがあります。そのようなときは漢字以外の文字をお使いください。

■ Macintosh からアクセスされた共有フォルダーには、Macintosh 用の情報ファイルが自動生成されることがあります。これらを Windows から削除した場合、Macintosh からアクセスできなくなることがありますので削除はしないでください。

■ Mac OS X10.3.9 から SMB 接続すると、Finder などでマウントされるボリューム名が文字化けすることがあります（ファイル名、データに問題はありません）。

■ Mac OS X 10.5 ～ 10.5.6 では Spotlight にて検索を行う場合、AFP 接続では検索できません。このようなときは SMB 接続をご利用するか、Mac OS X 10.5.7 以降をお使いください。

■ TeraStation は、AppleShareServer が指定するデフォルトゾーンに属します。ゾーンを指定することはできません。

■ TeraStation に搭載されている OS の仕様上、TeraStation 内ハードディスク、および接続した USB ハードディスクへ保存したファイルの日付情報は更新されることがあります（作成日時、更新アクセスなどの日付情報は保持されません）。

■ ハードディスクの容量をブラウザーから確認したときと、Windows のドライブのプロパティーから確認したときで、値が異なる場合があります。

■ ファイルの転送中に TeraStation の設定画面で設定を変更すると、ファイルの転送が中断されることがあります。

■ TeraStation へのファイルコピーは、ジャーナリングファイルシステムにより保護されますが、コピー中にキャンセルしたり、コピーを途中で終了（LAN ケーブルが抜けた、停電など）すると次の現象が発生することがあります。
・設定したデータ（TeraStation の名称、ユーザー、グループ）が消えてしまうことがあります。
・不完全なファイルがコピーされ、ファイルが削除できなくなることがあります。その場合は、TeraStation を再起動してからファイルを削除し、コピー操作をもう一度行ってください。

■ TeraStation のハードディスクをフォーマットしても、設定画面での HDD 使用率および HDD 使用量は 0（ゼロ）にはなりません。これはシステム領域として使用しているためです。

■ Windows のネットワークログイン時のユーザー名、パスワードを TeraStation と同じユーザー名、パスワードにしてください。異なる場合、TeraStation のアクセス制限を設けた共有フォルダーにアクセスできないことがあります。

■ TeraStation の設定画面で、[共有フォルダー]-[共有フォルダー]-[全ての共有フォルダー内のごみ箱を空にする] をクリックすると、共有フォルダー内の [trashbox] フォルダーは全て消去されます。[trashbox] フォルダー内に必要なファイルがないか確認した上で実行してください。

■ LAN ポート 1 と LAN ポート 2 に同じネットワークアドレスを設定しないでください。同じネットワークアドレスとなるような IP アドレスを設定すると、通信が不安定になることがあります。このようなときは、TeraStation の初期化スイッチにより設定を初期化してください。

■ TeraStation からセグメントを越えるようなネットワークへアクセスしたいときは、LAN ポート 1 をお使いください。LAN ポート 2 からは、セグメントを越えるようなネットワークへのアクセスはできません (LAN ポート 2 にデフォルトゲートウェイは設定されません)。

例）メール通知機能が使用できない (メールサーバーが見つからない)
バックアップ先の TeraStation/LinkStation が見つからない (特に IP アドレスを指定してバックアップ先を選択する場合など)
メールサーバーやバックアップ先の TeraStation/LinkStation が同一ネットワークとなるように TeraStation を設置することで上記問題を回避することができます。

ユーザーを追加する

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1

1 TeraStation の設定画面で、[ユーザー / グループ]-[ユーザー] をクリックします。

2 [ユーザーの作成] をクリックします。

2

1 ユーザー名、パスワード、ユーザーの説明を入力します。

NOTE: ユーザー ID が空欄の場合、自動的にユーザー ID が割り当てられます。手動でユーザー ID を設定するときは、手動で 1000 ～ 1999 の間の番号を他のユーザーと重複しないよう設定してください。
ユーザー単位で使用可能な容量を制限する場合は、ユーザークオータを［設定する］にチェックマークをつけ、使用可能な容量を [クオータ容量] に設定します。

2 [保存] をクリックします。

NOTE:
- ユーザー名は、UTF-8 換算で 20bytes まで入力できます。マルチバイト文字を使用することはできません。-(ハイフン)、_(アンダーバー)、.(ドット)、!、#、&、@、$、*、^、%を使用することもできます。先頭文字に記号を使用することはできません。
ユーザーの説明は、UTF-8 換算で 75bytes まで入力できます。-(ハイフン)、_(アンダーバー)、半角スペースを使用することもできます。先頭文字に記号を使用することはできません。
- アクセス制限をかけて使用する場合、TeraStation に登録できるユーザー数は管理者ユーザー、guest を含めて 300 名までです。
- ユーザー (管理者含む) パスワードは、UTF-8 換算で 20bytes まで入力できます。マルチバイト文字を使用することはできません。-(ハイフン)、_(アンダーバー)、@、!、#、$、%、&、'、(、)、*、+、,、.、/、;(セミコロン)、<、>、=、?、[、]、^、{、}、|(パイプ)、~(チルダ) を使用することもできます。先頭文字に記号 (アンダーバー除く) を使用することはできません。

以上でユーザーの追加は完了です。

NOTE: Windows のネットワークログイン時のユーザー名、パスワードと同じユーザー名、パスワードにしてください。異なる場合、アクセス制限を設定した共有フォルダーにアクセスできません。

また、Windows 7/Vista/XP/2000、Windows Server2003/Server2008 では、ネットワークログイン名が異なっていた場合、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されますが、入力しても共有フォルダーにアクセスできません。必ずこちらで設定したユーザー名、パスワードで Windows にログインしてください。

NOTE: クオータ機能は、使用可能容量の制限のみをおこないます。それぞれのユーザーが使用している容量は確認できませんので、各自にて管理してください。

なお、所有者の確認は、次の手順で確認することができます。

- 各ファイルやフォルダーのプロパティ画面から、［セキュリティ］タブ　ー　［詳細設定］ボタンにて新たなウィンドウを開き、［所有者］タブにて確認する。
- マイコンピュータ、エクスプローラーの [名前][サイズ][種類][更新日時] などが表示されているバーを右クリックすると、表示させる情報を選択することができます。右クリックしたメニューから [所有者] を確認できます。（所有者の確認手順は、OS ごとに異なります。上記は Windows XP の場合の例です。）

ユーザーの削除、追加を繰り返し行うとクオータ機能が正常に動作しなくなることがあります。TeraStation のバックアップ機能でコピーされたデータを他の TeraStation にコピーした場合でもユーザー ID/ グループ ID が重複すると正常にクオータ機能が動作しなくなることがあります。このようなときは、未使用のユーザー ID、グループ ID のユーザー名 / グループ名を使用してください。

ユーザー情報のインポート

[ユーザー / グループ]-[ユーザー] 画面の [CSV 形式のデータを入力] に次の情報を入力して、[インポートを開始] をクリックすれば、ユーザー情報を一括で取り込むことができます。

ユーザ情報書式：ユーザー名 (必須入力), パスワード (必須入力), ユーザーの説明 (任意入力)

例)
username1,password1,comment1
username2,password2,comment2
username3,password3,comment3
…
…
…

NOTE:
- 取り込むユーザー数によっては、最大 1 時間程度かかることがあります。
  取り込み中は TeraStation の設定画面を操作することができなくなるのでご注意ください。
- 書区切りはカンマ「,」を用い、前後にスペースを入れません。
- 書式が間違っている行はユーザーに登録されません。
- 既に同一名称のユーザーがある場合は上書き登録されます。
- ユーザー名、パスワード、ユーザーの説明の入力文字制限は前ページをご参照ください。またユーザー名、パスワード、ユーザーの説明にカンマ「,」を使用することはできません。

グループを追加する

NOTE:　設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1

1 TeraStation の設定画面で、[ユーザー / グループ]-[グループ] をクリックします。

2 [グループの作成] をクリックします。

2

1 グループ名、グループの説明を入力します。

NOTE: グループ ID が空欄の場合、自動的にグループ ID が割り当てられます。手動でグループ ID を設定するときは、手動で 1000 ～ 1999 の間の番号を他のユーザーと重複しないよう設定してください。
グループ単位で使用可能な容量を制限する場合は、グループクオータを［設定する］にチェックマークをつけ、使用可能な容量を設定します。

2 グループに参加するユーザーを選択し、[追加] をクリックします。

3 [保存] をクリックします。

NOTE:
- グループ名は、UTF-8 換算で 20bytes まで入力できます。マルチバイト文字を使用することはできません。-(ハイフン)、_(アンダーバー)、.(ドット) 以外の記号は使用できません。先頭文字に記号 (アンダーバー除く) を使用することはできません。
  グループの説明は、UTF-8 換算で 75bytes まで入力できます。-(ハイフン)、_(アンダーバー)、半角スペースを使用することもできます。先頭文字に記号を使用することはできません。
- TeraStation に作成できるグループ数は最大 300 です。
- グループの削除、追加を繰り返し行うとクオータ機能が正常に動作しなくなることがあります。TeraStation のバックアップ機能でコピーされたデータを他の TeraStation にコピーした場合でもユーザー ID/ グループ ID が重複すると正常にクオータ機能が動作しなくなることがあります。このようなときは、未使用のユーザー ID、グループ ID のユーザー名 / グループ名を使用してください。

以上でグループの追加は完了です。

TeraStation に手動で登録したユーザー / グループにアクセス制限

TeraStation は、共有フォルダーごとにアクセスできるユーザーやグループを設定できます。大切なデータを公開したくないときなどに設定ください。

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1 **P.42 ～ 44 の手順で TeraStation にユーザー、グループを登録します。**

NOTE: Windows をお使いの場合、登録するユーザー名 / パスワードは、Windows のユーザーアカウント / パスワードと同じものにしてください。Windows のユーザーアカウント / パスワードは、コントロールパネルの [ユーザーアカウント] から作成することができます。

2

1 TeraStation の設定画面で、[共有フォルダー]-[共有フォルダー] をクリックします。

2 アクセス制限を設定したい共有フォルダーをクリックします。

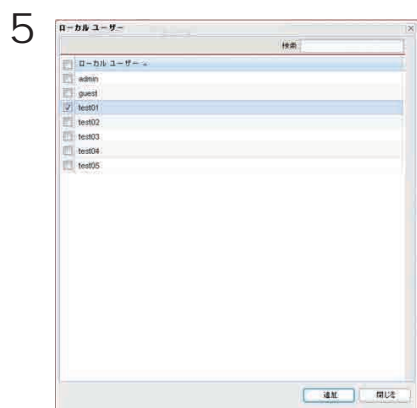
3

[アクセス制限] をクリックします。

4

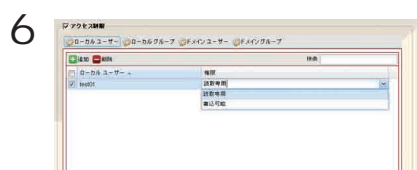
[追加] をクリックします。

NOTE: ここでの手順はローカルユーザーでアクセス制限した例です。ローカルグループでアクセス制限したいときは、[ローカルグループ]-[追加] をクリックします。

5

1 公開したいユーザーをクリックし、チェックマークを表示させます。

NOTE: 手順 6 で [ローカルグループ] を選択しているときは、公開したいグループをクリックします。

2 [追加] をクリックします。

6

追加したユーザーまたはグループの権限を選択します。

7 [保存] をクリックします。

以上でアクセス制限の設定は完了です。

NOTE: ・Microsoft ネットワークドメインでログオンしたときは、ドメインに登録されたユーザー名でアクセス制限を設定することができます。

・特定のユーザーに読取専用と書込可能が重複した場合は、読取専用となります。

ActiveDirectory 環境でのアクセス制限

複数の TeraStation のアカウント情報を一元管理

TeraStaion には ActiveDirectory との連携機能が搭載されています。ActiveDirectory ドメイン環境であれば、本製品は ActiveDirectory サーバーに登録されているアカウント情報を利用して本製品内のファイルやフォルダーに対してアクセス制限を行います。そのため、本製品で個別にアカウント管理をする必要がありません。本製品を複数導入した場合でも、アカウント情報は ActiveDirectory で一元管理されますので、非常に導入・管理の手間が省けます。

※ ActiveDirectory との連携機能で取得できるドメインユーザー・グループはそれぞれ最大 1000 名 /1000 グループとなります。

TeraStation を 1 台毎に設定する必要が無くなり、管理が簡素化

TeraStation を ActiveDirectory ドメインでネットワークに参加させるときは、次の手順で行います。

NOTE:ここで説明する手順は、ネットワーク管理者を対象にしています。設定を行うには、Microsoft ネットワークドメインについて、ある程度精通している必要があります。
設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1

TeraStationの設定画面で、[ネットワーク]-[ワークグループ /ドメイン]-[設定変更] をクリックします。

2

1 [ActiveDirectory ドメイン] を選択します。

2 ActiveDirectory ドメイン名 (NetBIOS) を入力します。

3 ActiveDirectory ドメイン名 (DNS 名) を入力します。

4 ActiveDirectory ドメインコントローラー名 (コンピューター名) を入力します。

5 Administrator ユーザー名を入力します。

6 Administrator パスワードを入力します。

7 WINS サーバーアドレスを入力します。

8 [保存] をクリックします。

NOTE: ・TeraStation の名称を変更すると、ActiveDirectory ドメインでネットワークに参加できなくなります。その場合は、上記の手順を再度行ってください。

・セキュリティー設定によっては、ActiveDirectory ドメインで 参加できない、参加できても認証できないことがあります。このようなときは認証サーバー連携での管理を行うことをおすすめします。

・取得したドメインユーザー / ドメイングループで共有フォルダーのアクセス制限をすることができます。

3 **P.45 ～ 46 の手順でドメインのユーザー / グループをアクセス制限に追加してください。**

以上で設定は完了です。

ActiveDirectory ドメインで管理するときの制限事項

■ ActiveDirectory ドメインへ TeraStation を参加させる場合は、必ず ActiveDirectory ドメインの名前解決を行うことができる DNS サーバーを指定する必要があります。

■ ActiveDirectory ドメインの仕様のため、ActiveDirectory ドメイン参加時に必要な Administrator のパスワードは ActiveDirectory ドメイン構築後 1 度以上変更されている必要があります。Administrator のパスワードが変更されていない場合、ActiveDirectory ドメインへの参加は失敗します。

■ ActiveDirectory ドメインの DNS 名と NetBIOS 名が異なる環境はサポートしていません。

■ TeraStation とドメインコントローラーとの時刻の差が約 5 分以上の場合、ドメインへの参加、又はドメインユーザー / グループの認証に失敗する場合があります。

NT ドメインログオン環境でのアクセス制限

複数の TeraStation のアカウント情報を一元管理

TeraStaion には NT ドメインとの連携機能が搭載されています。NT ドメイン環境であれば、本製品は NT ドメインサーバーに登録されているアカウント情報を利用して本製品内のファイルやフォルダーに対してアクセス制限を行います。そのため、本製品で個別にアカウント管理をする必要がありません。本製品を複数導入した場合でも、アカウント情報は NT ドメインで一元管理されますので、非常に導入・管理の手間が省けます。

※ NT ドメインとの連携機能で取得できるドメインユーザー・グループはそれぞれ最大 1000 名 /1000 グループとなります。

TeraStation を 1 台毎に設定する必要が無くなり、管理が簡素化

TeraStation をドメインでネットワークに参加させるときは、次の手順で行います。

NOTE: ここで説明する手順は、ネットワーク管理者を対象にしています。設定を行うには、Microsoft ネットワークドメインについて、ある程度精通している必要があります。
設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1 ドメインコントローラー上で TeraStation のコンピューターアカウントを作成します。

NOTE:「Windows 2000 以前のコンピューターにこのアカウントを許可」のチェックボックスがある場合は、チェックを入れてください。

2

TeraStation の設定画面で、[ネットワーク]-[ワークグループ / ドメイン]-[設定変更] をクリックします。

3

1 [NT ドメイン] を選択します。
2 NT ドメイン名 (NetBIOS 名) を入力します。
3 NT ドメインコントローラー名 (コンピューター名) を入力します。
4 Administrator ユーザー名を入力します。
5 Administrator パスワードを入力します。
6 WINS サーバーアドレスを入力します。
7 [保存] をクリックします。

NOTE:
- TeraStation の名称を変更すると、ドメインでネットワークに参加できなくなります。その場合は、上記の手順を再度行ってください。
- セキュリティー設定によっては、ドメインで参加できない、参加できても認証できないことがあります。このようなときは認証サーバー連携での管理を行うことをおすすめします。
- 取得したドメインユーザーで共有フォルダーのアクセス制限をすることができます。

4 P.45 ～ 46 の手順でドメインのユーザー / グループをアクセス制限に追加してください。

以上で設定は完了です。

ドメインに関する全般的な制限事項

■ TeraStation の名称を変更すると、ドメインユーザー / グループを使用したアクセス制限ができなくなります。再度ドメインへの参加を行ってください。

■ ドメインユーザー名が 20 文字を超える場合、TeraStation は Windows 2000 以前のユーザー名（20 文字のユーザー名）を取得します。

■ 本製品では、1000 件以下のユーザー数 /1000 件以下のグループ数のドメイン環境をサポートしています。(10000 件のユーザー数 /10000 件のグループ数をドメインコントローラーから取得することもできますが、1001 件以上のユーザー数 /1001 件以上のグループ数となるようなドメイン環境での動作はサポートしておりません。)

■ TeraStation を NT ドメイン /ActiveDirectory ドメインのメンバーサーバーとして運用する場合、TeraStation へアクセスするためには下記条件件を満たす必要があります。
・NT ドメイン /ActiveDirectory ドメインにログインした状態で TeraStation にアクセスする
・NT ドメイン /ActiveDirectory ドメインの メンバーではないパソコンからドメインにログインできるアカウント情報を利用して Windows にログインし TeraStation へアクセスする
　上記条件を満たさない場合、TeraStation の共有フォルダー等へアクセスできません（アクセス制限を設定していない共有フォルダーもアクセスすることはできません）。

■ TeraStation を NT ドメイン /ActiveDirectory ドメインのメンバーサーバーとして運用する場合、AFP 接続時にゲスト接続することはできません。

■ ドメインコントローラー上でユーザーやグループの設定を変更した際、TeraStation 上ですぐに変更が反映されない場合があります。ドメインコントローラー上の設定変更をすぐに反映させる必要のある場合は TeraStation を再起動してください。

■ TeraStation を NT ドメイン /ActiveDirectory ドメインのメンバーサーバーとして運用している状態で、Web 設定画面の「ネットワーク」－「ワークグループ設定」の「ネットワーク参加方法」を「ワークグループ」に変更した場合、ドメインコントローラー上のコンピューターアカウントは自動的に削除されません。

■ ドメインネットワークに参加している場合、ローカル / ドメインユーザーアカウントを使用して、TeraStation に FTP 接続することができません。

外部の SMB サーバーに認証を委任してアクセス制限

TeraStation にアクセスするユーザーのアカウントとパスワードを認証サーバーと連携して一括管理してアクセス許可をしたいときは、次の手順で行います。

NOTE:ここで説明する手順は、ネットワーク管理者を対象にしています。設定を行うには、Micorosoft ネットワークについて、ある程度精通している必要があります。詳しくはネットワーク管理者にご確認ください。

サーバー認証の概念解説

イラストは TS-XL シリーズの例です。

NOTE: Windows 7/Vista、Windows Server2003/Server2008 をお使いの方へ

アクセス制限を設定するときは、Windows 7/Vista、Windows Server2003/Server2008 のセキュリティを変更する必要があります。

[スタート]-[すべてのプログラム]-[BUFFALO]-[ファイル共有セキュリティレベル変更ツール]-[ファイル共有セキュリティレベル変更ツール] で「ファイル共有のセキュリティレベルを変更する」を選択すると変更することができます (元に戻すときは、「元に戻す」を選択します)。

NOTE:「ファイル共有セキュリティレベル変更ツール」は、付属の CD で Windows 7/Vista、Windows Server2003/Server2008 にのみインストールされます。

初期セットアップ中、「セキュリティレベルを変更します。よろしいですか？」と表示されます。[はい] をクリックしたときは、画面の指示にしたがってパソコンを再起動してください。

外部認証サーバー設定への保存変更時に、ローカルユーザーの変換メッセージで [はい] をクリックすると、TeraStation に登録しているローカルユーザーは全て外部認証ユーザーに変換されます。また、外部認証を解除した際は、ローカルユーザーのパスワードを再度設定しなおす必要があります。

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1 TeraStationの設定画面で、[ネットワーク]-[ワークグループ/ドメイン]-[設定変更]をクリックします。

2

1 [ワークグループ] を選択します。

NOTE: ドメイン環境で使用する場合でも、[ワークグループ] を選択します。

2 [外部の SMB サーバーに認証を委任する] を選択します。

3

1 ［ユーザーの自動登録を有効にする］、［認証テスト用共有フォルダーを使用する］をクリックし、チェックマークを表示させせます。Windows ドメインコントローラーを使用する場合は、［認証サーバーとして Windows ドメインコントローラーを使用する］をクリックし、チェックマークを表示させせます。

2 認証サーバー名、または IP アドレスを入力します。

NOTE:AFP 接続や FTP 接続時は IP アドレスで指定してください。サーバー名では認証できないことがあります。

3 認証テスト用の共有フォルダー名を入力します。

4 外部認証ユーザーに加えてローカルユーザーもアクセスを許可したいときは、[許可する] を選択します。

5 ［保存］をクリックします。

NOTE: Windows ドメインコントローラーを外部 SMB 認証サーバーとして指定する場合は、本製品のワークグループ名を Windows ドメインコントローラーのドメイン名と一致させる必要があります。

4 TeraStation に認証テスト用共有フォルダーが作成されています。

指定した認証サーバーに登録されたユーザーが､認証用共有フォルダーを開くと自動的に TeraStation のユーザーとして登録されます。

NOTE: ・自動登録されたユーザーは「hdusers」グループに所属します。また、グループ設定から任意のグループへ所属させることができます。

・取得したユーザー名で共有フォルダーのアクセス制限をすることができます。

・登録されたユーザー名は、［ユーザー / グループ］－［外部認証ユーザー］をクリックすると表示されます。ユーザーを選択し、［外部認証ユーザーの削除］をクリックすると、自動登録されたユーザーを削除することができます。

・AFP接続やFTP接続時はIPアドレスで指定してください｡サーバー名では認証できないことがあります。

・別セグメント（ルーター越えのネットワークなど）のサーバーを指定する際は IP アドレスを入力してください。

・AFP 接続、FTP 接続では、認証サーバー連携でユーザー情報を取得することはできません。

5 P.45 ～ 46 の手順で外部認証のユーザー / グループをアクセス制限に追加してください。

以上で認証サーバー連携の設定は完了です。

認証サーバー連携で管理するときの制限事項

■ 認証サーバーに登録されているアカウント情報を利用して Windows にログインし TeraStation へアクセスしていないと、TeraStation の共有フォルダー等へアクセスできません（アクセス制限することはできません）。

■ 認証連携機能を利用する場合、AFP 接続時にゲスト接続することはできません。

■ 認証連携機能を利用する場合、FTP 接続時に Anonymous 接続することはできません。

Chapter 8
TeraStation のメンテナンスをする

TeraStation の名称 (ホスト名)・時刻を設定する

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1

1 TeraStation の設定画面で、[システム]-[基本] をクリックします。

2 [名称設定] にある [設定変更] をクリックします。

2

1 TeraStation 名称、説明を入力します。

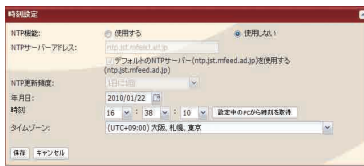
2 [保存] をクリックします。

NOTE: TeraStation の名称は、UTF-8 換算で 15bytes まで入力できます。マルチバイト文字を使用することはできません。-(ハイフン)、_(アンダーバー) を使用することもできます。先頭文字に記号を使用することはできません。
TeraStation の説明は UTF-8 換算で 75bytes まで入力できます。-(ハイフン)、_(アンダーバー)、半角スペースを使用することもできます。

3

1 [時刻設定] をクリックします。

2 [時刻設定] にある [設定変更] をクリックします。

4

1 TeraStation の時刻を設定します。

NOTE:[設定中の PC から時刻を取得] をクリックすると、入力欄にパソコンの時刻が入力されます。

2 [保存] をクリックします。

NOTE: TeraStation 内蔵の時計は長期間使用すると時間がずれることがあります。また NTP サーバーを指定すれば、自動的に時刻を修正することもできます。

NTP 機能について
ネットワーク環境によっては NTP 機能が使用できない場合があります。
デフォルトの NTP サーバー (ntp.jst.mfeed.ad.jp) は、インターネットマルチフィード株式会社のものです。
詳しくは http://www.jst.mfeed.ad.jp/ をご参照ください。
本サービスのご利用につきましては利用者ご自身の責任において行って頂くよう、お願いいたします。本サービスの利用、停止、欠落及びそれらが原因となり発生した損失や損害については一切責任を負いません。

※ NTP サーバーへのアクセスには、DNS サーバーアドレスを設定することが必要な場合があります。

以上で TeraStation の名称、時刻の設定は完了です。

RAID メンテナンスを使用する

RAID メンテナンスとは、RAID1、5、6、10（製品によっては対応する RAID モードは異なります）を構築しているアレイに対して、問題なく読み取りできるか、不良セクターがないかをチェックし、問題があったときには自動的に修復する機能です。

RAID1、5、6、10 で TeraStation を使用しているときは、定期的に RAID メンテナンスを実行することをおすすめします。

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1

1 TeraStation の設定画面で、[システム]-[ディスク]-[RAID メンテナンス] をクリックします。

2 [RAID メンテナンス] にある [設定変更] をクリックします。

2

1 [使用する] をクリックします。

2 RAID メンテナンスを実行するスケジュールを選択します。

NOTE:RAID アレイ障害発生時、自動的に TeraStation をシャットダウンしたいときは、[行う] を選択します。

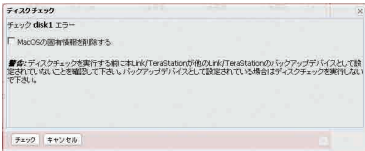
RAID アレイチェックの速度は次から選択できます。
高：ハードディスク 1 台あたり 1TB の製品でおよそ 10 時間
中：ハードディスク 1 台あたり 1TB の製品でおよそ 20 時間
低：ハードディスク 1 台あたり 1TB の製品でおよそ 100 時間

3［保存］をクリックします。

NOTE:
- ［今すぐ実行］を選択した状態で [保存] をクリックすると、すぐに RAID メンテナンスが実行されます。
- RAID メンテナンスの実行を中止したいときは、[RAID メンテナンスの中断] をクリックしてください。

以上で RAID メンテナンスの設定は完了です。

TeraStation のハードディスクをチェックする

NOTE:・TeraStation および USB コネクターに増設したハードディスク内のデータをチェックします。異常があったときには自動的に修復します。チェックには数十分間〜数十時間かかります。
・チェック中は TeraStation の共有フォルダーを利用できません。
・チェック中は TeraStation の電源スイッチを絶対に OFF にしないでください。

設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。
画面は TS-XL シリーズの例です。

1 TeraStation の設定画面で、[システム][ディスク] をクリックします。

2 1 チェックを行うハードディスクを選択します。
2 [ディスクチェック] をクリックします。

3

[チェック] をクリックします。

NOTE: Mac OS から接続中に、停電など正常な手段で接続が解除できなかった場合、Mac OS が作成するデータベース等が破損し、接続できなくなることがあります。このようなときは、[Mac OS の固有情報を削除する] を選択し、ディスクチェックを実行してください。

チェック中は、TeraStation 前面の液晶ディスプレイに「Checking」と表示されます。チェックが終わるまで TeraStation の共有フォルダーはアクセスできません。

以上でハードディスクのチェックは完了です。

TeraStation のハードディスクを暗号化する

TeraStatioon に内蔵されているハードディスクをフォーマットする際に、設定画面で [暗号化] を選択してフォーマットすると AES128bit で暗号化され、ハードディスクを本製品以外の機器に取り付けてもデータを読み出せなくなります。暗号化したハードディスクを元に戻したいときは、[暗号化] のチェックを外して再度フォーマットしてください。

詳しくは次ページ「TeraStation のハードディスクをフォーマットする」をご参照ください。

NOTE: ・暗号化した RAID アレイ / ディスクに対するアクセスはパフォーマンスが低下します。
・USB ディスクは暗号化することはできません。

TeraStation のハードディスクをフォーマットする

NOTE: ・TeraStation および USB コネクターに増設したハードディスクのデータ、共有フォルダーに関する設定が全て消去されます。誤って実行しないようご注意ください。フォーマットには数分かかります。
・フォーマット中は TeraStation の共有フォルダーを利用できません。
・フォーマット中は TeraStation の電源スイッチを絶対に OFF にしないでください。

設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。
画面は TS-XL シリーズの例です。

1 TeraStation の設定画面で、[システム]-[ディスク] をクリックします。

2

1 フォーマットを行うハードディスクとを選択します。
2 [ディスクフォーマット] をクリックします。

3

1 フォーマット形式を選択します。
NOTE: ・[暗号化] にチェックマークをつけると、ハードディスクが AES128bit で暗号化され、暗号化を設定した TeraStation 以外の機器に取り付けても読み出すことができなくなります。暗号化したハードディスクを元に戻したいときは、[暗号化] のチェックを外して再度フォーマットしてください。
・対応フォーマット形式については、P.130 をご参照ください。
2 [フォーマット] をクリックします。

4 [通信の確認] 画面が表示されます。
60 秒以内に確認番号欄に表示されている数字を正確に入力し、[設定] をクリックします。

5 以降は画面の指示にしたがって操作します。

フォーマット中は、TeraStation 前面の液晶ディスプレイに「Formatting」と表示されます。フォーマットが終わるまで TeraStation の共有フォルダーはアクセスできません。
USB コネクターに増設したハードディスクをフォーマットした場合、パーティションを作成しなおします。

NOTE:フォーマットの所要時間はハードディスクの容量によって異なります (数分)。

以上でハードディスクのフォーマットは完了です。

NOTE: ハードディスク内のデータが完全に削除されていないために起こるデータの漏洩が心配な場合は、[システム]-[初期化]-[ディスク完全フォーマット]-[Link/TeraStation のディスク完全フォーマットを実行] をクリックしてください。

メール通知機能を使用する

TeraStation の設定を変更したときや異常が発生したとき、指定のメールアドレスにメッセージを送信するよう設定することができます。

NOTE: メール送信される内容は次のとおりです。

・指定した時刻にハードディスクの状態を送信・バックアップ完了のお知らせ
・RAID 構成変更時のお知らせ　・RAID エラー発生時の連絡
・ファンの異常発生時の連絡　・ハードディスクリードエラー
・ハードディスク交換警告　・クオータ通知

設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1 **TeraStation の設定画面で、[システム][メンテナンス] をクリックします。**

2 **メール通知設定の [設定変更] をクリックします。**

3

1 **メール通知機能［使用する］をクリックします。**

2 **SMTP サーバアドレス、SMTP ポート番号を入力します。**
NOTE:pop before smtp を使用しているときは、POP3 サーバーアドレス、POP3 ポート番号を入力します。

3 **ユーザー認証方式（使用しない /pop before smtp/login（SMTP-AUTH）/cram-md5（SMTP-AUTH））を選択します。**

4 **認証で使用するユーザー名を入力します。**

5 **認証で使用するパスワードを入力します。**
NOTE: パスワードに　'(シングルクォーテーション) を使用することはできません。

6 **保護された接続を使用する場合、その方式（SSL/TLS）を選択します。**

7 **通知メールの件名を入力します。**
NOTE: 半角英数字にしてください。それ以外では文字化けすることがあります。

8 **送信先メールアドレスを入力します。最大 5 つのアドレスまで送信できます。**
NOTE: 誤ったメールアドレスを入力しないようご注意ください。

9 **送信条件設定を選択します。**

HDD 状態定期報告 .... 指定時刻にハードディスク状態を送信します。
システム通知 .... システムの起動、シャットダウン時、RAID 構成変更時に送信します。
ディスクに異常が発生した時 ... ハードディスクに異常が発生したときに送信します。
ファンに異常が発生した時 ...... ファンに異常が発生したときに送信します。
バックアップが完了した時 .... バックアップが完了したときに送信します。
クオータ警告通知 .... クオータの容量制限を越えているときは、HDD 状態定期報告で指定した時刻に送信します。

10 **［保存］をクリックします。**

以上でメール通知機能の設定は完了です。

NOTE: 送信されるメール例は次の通りです。

こちらに掲載の内容は例です。実際のメールの内容とは異なることがあります。

- 「HDD 状態定期報告」を選択した場合の定期報告されるメールの内容

  TeraStation Status Report: 定期報告 : 情報 :
  [TeraStation 情報]
  TeraStation 名称 : TS-xxxxx
  時刻 : 2009/03/23 00:00:01
  IP アドレス : 172.16.37.62
  設定画面 : http://172.16.37.62/
  連続稼動時間 : 13:51:57
  ハードディスク使用状況
  ディスク 1 使用量 : 80116 kbytes / 975464216 kbytes (使用率 0%)
  DISK エラー発生状況（状況説明、対応方法）
  クオータ使用状況（クオータ設定時のみ）

- 「ディスクに異常が発生した時」を選択した場合の定期報告されるメールの内容

  TeraStation Status Report:DISK エラー通知 : 異常 : ディスクマウント失敗
  DISK エラー通知
  HDD でエラーが発生しました。
  エラー発生ディスク : ディスク 1
  ディスクがマウントできませんでした。

- 「ファンに異常が発生した時」を選択した場合の定期報告されるメールの内容
  TeraStation Status Report:FAN エラー通知 : 異常 :FAN が停止しました。
  FAN エラー通知
  FAN が停止しました。
  内部温度が閾値を超えたため、シャットダウンします。
  システム温度 : 52[℃]

UPS(無停電電源装置) と併用する

別途 UPS を用意することで、停電時に TeraStation を自動でシャットダウンしデータを保護できます。UPS と併用するときは、必ず以下の設定をおこなってください。

NOTE: 対応 UPS 製品名は、弊社ホームページ (buffalo.jp) にてご確認ください。

設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1 UPS の電源ケーブルをコンセントに接続します。

2 TeraStation の AC ケーブルを UPS に接続します。

3 UPS と TeraStation を USB ケーブルまたは専用ケーブルで接続します。

NOTE: USB ケーブルをご使用の場合は、背面の USB コネクターへ接続してください。
専用ケーブルをご使用の場合は、背面の UPS 専用ポートへ接続してください。
TS-XEL シリーズでは、UPS 専用ポートは搭載されていません。

4 UPS → TeraStation の順に電源を ON にします。

5 TeraStation の設定画面で、[システム]-[電源管理]-[UPS 連動設定] をクリックします。

6 [設定変更] をクリックします。

7

1 [使用する] を選択します。
2 各設定項目を設定します。
3 [保存] をクリックします。

以上で UPS の設定は完了です。

NOTE: ・停電など電源異常発生により TeraStation が自動シャットダウンした後に TeraStation の電源を ON にするときは、必ず電源異常から復旧したことを確認してから行ってください。復旧せずに UPS のバッテリーで動作している状態のまま TeraStation の電源を ON にすると、指定時間経過しても自動シャットダウンしません。

・UPS リカバー機能を使用するに設定した場合、UPS から TeraStation への電源供給が停止、再開した後、自動的に TeraStation を再起動します。

警告音を設定する

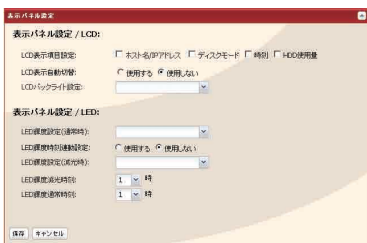
TeraStation に異常があった際に警告音を鳴らすこともできます。

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1 TeraStation の設定画面で、[システム]-[メンテナンス]-[警告音設定]-[設定変更] をクリックします。

2

1 警告音を鳴らす事項を温度超過、ディスク異常、ファン異常、UPS 停電検知から選択します。

2 [保存] をクリックします。

以上で警告音の設定は完了です。

表示パネルを設定する

TeraStation に前面の液晶ディスプレイ、ランプの表示について設定します。

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1 TeraStation の設定画面で、[システム]-[メンテナンス]-[表示パネル設定]-[設定変更] をクリックします。

2

1 LCD(表示項目、表示自動切替、バックライト)、LED（輝度、輝度時刻連動）を設定します。

2 [保存] をクリックします。

以上で表示パネルの設定は完了です。

TeraStation の管理者ユーザー名・パスワードを変更する

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1

TeraStation の設定画面で、[ユーザー / グループ]-[ユーザー] をクリックします。

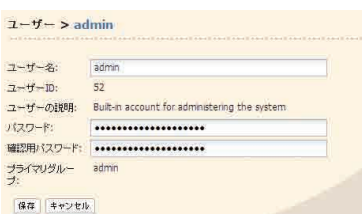
2

1 一番上のユーザー名（初期設定では [admin]）をクリックします。

2 [ユーザーの編集] をクリックします。

3

1 ユーザー名、パスワード、確認用パスワードを入力します。

2 [保存] をクリックします。

NOTE:
- ユーザー名は、UTF-8 換算で 20bytes まで入力できます。マルチバイト文字を使用することはできません。-(ハイフン)、_(アンダーバー)、.(ドット)、!、#、&、@、$、*、^、%を使用することもできます。先頭文字に記号を使用することはできません。
  ユーザーの説明は、UTF-8 換算で 75bytes まで入力できます。-(ハイフン)、_(アンダーバー)、半角スペースを使用することもできます。先頭文字に記号を使用することはできません。
- ユーザー (管理者含む) パスワードは、UTF-8 換算で 20bytes まで入力できます。マルチバイト文字を使用することはできません。-(ハイフン)、_(アンダーバー)、@、!、#、$、%、&、'、(、)、*、+、,、.、/、;(セミコロン)、<、>、=、?、[、]、^、{、}、|(パイプ)、~(チルダ) を使用することもできます。先頭文字に記号 (アンダーバー除く) を使用することはできません。
- 管理者ユーザーを指定してのアクセス制限、Web アクセス機能の利用はできません。管理者ユーザー名は TeraStation 設定画面にログインするときのユーザー名としてお使いください。

以上で管理者パスワードの設定は完了です。

TeraStation のデータを完全消去する

「削除」や「フォーマット」したハードディスク上のデータは、完全には消去されていません。お客様が、廃棄・譲渡・交換・修理等を行う際に、データを完全に消去したいときには次の操作を行ってください。

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1 TeraStation の設定画面で、[システム]-[初期化]-[ディスク完全フォーマット] をクリックします。

2 [TeraStation のディスク完全フォーマットを実行] をクリックします。

3 [通信の確認] 画面が表示されます。
60 秒以内に確認番号欄に表示されている数字を正確に入力し、[設定] をクリックします。

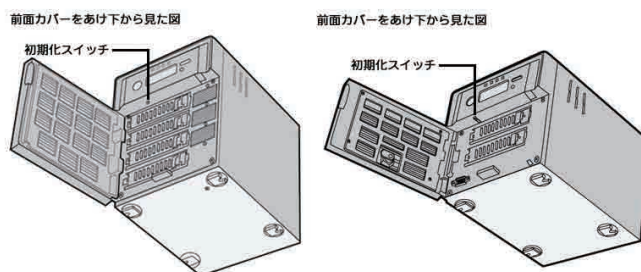
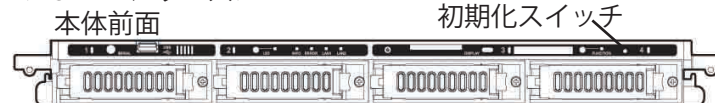
4 以降は画面の指示にしたがって操作します。

NOTE:
- [TeraStation のディスク完全フォーマットを実行］をクリックすると、TeraStation 内のハードディスクのデータ領域を完全に消去します（ディスク消去終了後、自動的に TeraStation はシャットダウンします）。また、ディスク消去を行うと TeraStation は次の状態になります。
  TeraStation 内ハードディスク：通常モード
  ディスク消去を行うとそれぞれのディスクの中に共有フォルダー (TS-XHL、TS-XL、TS-XEL、TS-RXL シリーズでは share1 ～ 4、TS-WXL シリーズでは share1、2) が作成されます。共有フォルダーは作成されますが、データは消去されています。
  TeraStation の全設定：出荷時状態
  ログ：全消去
- TeraStation 内蔵のハードディスクを取り外した状態で、[TeraStation のディスク完全フォーマットを実行] をクリックすると、完全フォーマット完了後、前面の液晶ディスプレイに「HDx Error E22 HDx Can't Mount」(x は取り外したハードディスクの番号です) と表示されます。TeraStation の動作には問題ありませんのでそのままお使いください。

設定を初期化する

TeraStation の初期化スイッチ

TeraStation の設定を出荷時に戻したいときは、TeraStation 動作時 (電源ランプ点灯) に付属の鍵で前面カバーをあけ、初期化スイッチを押してください。

初期化スイッチをピッと音がするまで (約 5 秒間) 押し続けると、本製品の設定内容が出荷時設定に変更されます。

＜ TS-XHL、TS-XL、TS-XEL シリーズ＞　＜ TS-WXL シリーズ＞

※前面カバーをあけた図です。

TS-RXL シリーズの初期化スイッチを押すには、クリップを伸ばしたものなどを差し込んで押してください。

NOTE: 初期化スイッチでは以下の項目が初期化されます (他項目の初期化は、TeraStation 設定画面で初期化します)。

・IP アドレス
・イーサネットフレームサイズ設定
・管理者ユーザー名、パスワード
・SSL キー
・ポートトランキング機能 (初期設定：無効)
・ネットワークサービス (ネットワークサービスは P.124 参照)

NOTE: TeraStation の初期化スイッチを押しても管理者ユーザー名・パスワードを初期化させたくないときは、[システム]-[初期化] 画面で、[設定変更] → [管理者ユーザー名 / パスワードを初期化しない] → [保存] の順にクリックしてください。

初期化スイッチで管理者ユーザー名・パスワードを初期化しないよう設定した場合、管理者ユーザー名・パスワードを忘れると TeraStation の設定ができなくなります。必ず忘れないようにしてください。

設定画面で行う初期化

TeraStation の設定画面では、初期化スイッチで行なう初期化項目を含め、次の項目を初期化することができます。

初期化される内容：
TeraStation 名、説明、NTP 設定、ワークグループ設定、ネットワークサービス、
共有フォルダーの設定、USB ディスクの設定、RAID メンテナンス、タイマー ON/OFF、
本体初期化スイッチの設定、共有フォルダーのアクセス制限、ユーザー設定、
ユーザーグループ、メール通知機能設定、UPS 連動機能設定、バックアップ設定、
管理者ユーザー名・パスワード、ネットワーク設定 (IP アドレス、サブネットマスク等)、
Time Machine、Web アクセス、DFS、ダイレクトコピー、NFS、TeraSearch、
警告音、表示パネル、言語設定、システムログ、プリントサーバー、ネットワークサービス

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1 TeraStation の設定画面で、[システム]-[初期化] をクリックします。

2

[TeraStation の初期化を実行] をクリックします。

NOTE: TeraStation の初期化スイッチを押しても管理者ユーザー名・パスワードを初期化させたくないときは、[システム]-[初期化] 画面で、[設定変更]-[管理者ユーザー名 / パスワードを初期化しない] を選択し、[保存] をクリックしてください。

3 [通信の確認] 画面が表示されます。
60 秒以内に確認番号欄に表示されている数字を正確に入力し、[設定] をクリックします。

4 以降は画面の指示にしたがって操作します。

TeraStation の IP アドレスを変更する

TeraStation と他のネットワーク製品の IP アドレスが競合している場合、TeraStatin の IP アドレスを変更しないと使用できません。
TeraStation の IP アドレスの変更には、付属の NAS Navigator2 をお使いください。

NOTE:NAS Navigator2 で変更できるのはパソコンと同じローカルエリア側に接続している LAN ポートのみです。違うローカルエリア側の LAN ポートを変更する場合は、TeraStation の設定画面 [ネットワーク]-[ネットワーク]-[IP アドレス設定] を設定してください。

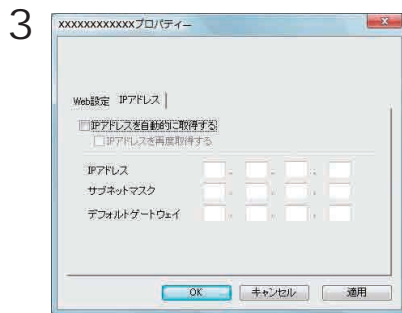
1 **デスクトップの［BUFFALO NAS Navigator2］アイコンをダブルクリックします。**

NOTE: Mac OS をお使いの場合は、Dock 内の [NAS Navigator2] アイコンをクリックします。

NAS Navigator2 が起動します。

2 **TeraStation のアイコンを右クリックし、[プロパティー] をクリックします。表示された画面から [IP アドレス] をクリックします。**

NOTE: Mac OS をお使いの場合は、コントロールキーを押しながら TeraStation のアイコンをクリックし、[機器設定画面を開く]-[IP アドレス] タブをクリックします。

3

1 変更したい IP アドレス、サブネットマスクを入力します。

NOTE:[IP アドレスを自動的に取得する] にチェックを入れると IP アドレスを DHCP サーバーから再度自動的に割り当てられるようにします。ネットワーク内に DHCP サーバーが無いときは、この機能は使用できません。
[IP アドレスを再取得する] にチェックを入れると IP アドレスを DHCP サーバーから再度取得します。

2 [OK] をクリックします。
NOTE: Mac OS をお使いの場合は、[今すぐ適用] をクリックします。

以上で IP アドレスの変更は完了です。

Jumbo Frame で転送するには

Jumbo Frame で転送したいときは、TeraStation 設定画面で [ネットワーク]-[ネットワーク]-[イーサネットフレームサイズ]-[設定変更] でイーサネットフレームサイズ (1 回で転送できるデータの最大サイズ) を Jumbo Frame(4102/7422/9694bytes) に変更してください。

NOTE: ・**Jumbo Frame(4102/7422/9694bytes) を使用して、TeraStation にハブを接続する場合、Jumbo Frame 非対応のスイッチングハブは使用しないでください。使用するとデータの転送ができなくなります。**

・**Jumbo Frame(4102/7422/9694bytes) を使用するには、パソコン (LAN アダプター) および通信経路上の機器 (スイッチングハブなど) が Jumbo Frame に対応している必要があります。非対応の機器があったときは、通常 (1518bytes) の転送が行われます。**

接続機器	対応	
本製品 Jumbo Frame 4102/7422/9694 / Jumbo Frame 対応スイッチングハブ / Jumbo Frame 対応パソコン	○	Jumbo Frame (4102/7422/9694)で転送が行われます。
本製品 Jumbo Frame 4102/7422/9694 / Jumbo Frame 対応スイッチングハブ / Jumbo Frame 非対応パソコン	△	通常(1518)で転送が行われます。
本製品 Jumbo Frame 4102/7422/9694 / Jumbo Frame 非対応スイッチングハブ / Jumbo Frame 非対応パソコン	△	通常(1518)で転送が行われます。
本製品 Jumbo Frame 4102/7422/9694 / Jumbo Frame 非対応スイッチングハブ / Jumbo Frame 対応パソコン	×	転送することはできません。ご注意ください。

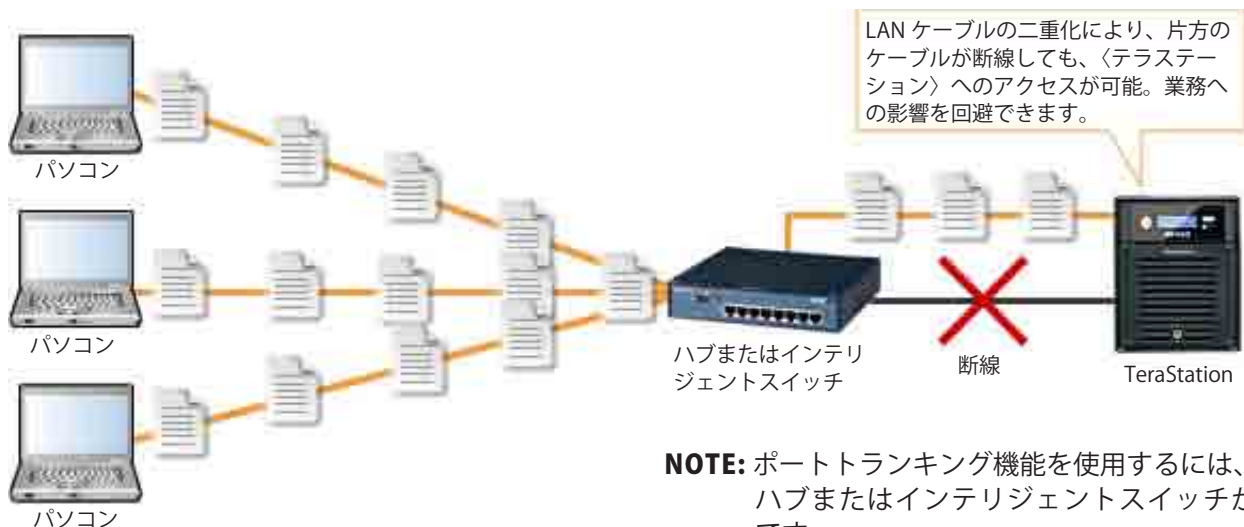
イラストは TS-XL シリーズの例です。

制限事項

■ Jumbo Frame（4102/7422/9694bytes）を使用して、TeraStation にスイッチングハブを接続する場合、Jumbo Frame 非対応のスイッチングハブは使用しないでください。

ポートトランキング機能を使用する

2 本の LAN ケーブルを使用して二重に通信経路を確保することで LAN ポートを冗長化し、通信の信頼性を高めることができます。LAN ケーブルの二重化により、片方のケーブルが断線しても、TeraStation へのアクセスが可能です。

NOTE: ポートトランキング機能を使用するには、別途ハブまたはインテリジェントスイッチが必要です。

TeraStation で設定できるポートトランキングのモードは次の通りです。

無効：ポートトランキングを使用しません。
Round-robin policy(※ 1)：
耐障害性と負荷バランシングに対するラウンド ロビン ポリシーで設定します。
Active-backup policy：
耐障害性に対するアクティブバックアップポリシーで設定します。
XOR policy(※ 1)：
耐障害性と負荷バランシングに対する XOR (exclusive-or) ポリシーで設定します。
Broadcast policy：
対障害性用のブロードキャストポリシーで設定します。
Dynamic link aggregantion(※ 2)：
IEEE 802.3ad ダイナミックリンク集合ポリシーで設定します。
Adaptive transmit load balancing(TLB)：
対障害性とロードバランシング用の送信ロードバランシング (TLB) ポリシーで設定します。

※ 1　EtherChannel などのポートトランクをサポートするインテリジェントスイッチが別途必要です。あらかじめインテリジェントスイッチの LAN ポート 2 つをポートトランキング (ポートトランク) として設定してください。設定手順はインテリジェントスイッチに付属のマニュアルをご参照ください。

※ 2　IEEE802.3ad に対応したインテリジェントスイッチが別途必要です。あらかじめインテリジェントスイッチの LACP(Link Aggregation Control Protocol) 機能を有効に設定してください。設定手順はインテリジェントスイッチに付属のマニュアルをご参照ください。

ポートトランキング機能の設定手順は次のとおりです。

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1 ハブの LAN ポートと TeraStation の LAN ポート 1 を LAN ケーブルで接続します。

NOTE: ・まだ TeraStation には 2 本目の LAN ケーブルは接続しないでください。

・インテリジェントスイッチをお使いの場合、あらかじめポートトランキングに設定した LAN ポートに接続してください。

2 TeraStation の設定画面で、[ネットワーク]-[ネットワーク]-[ポートトランキング] をクリックします。

3 ポートトランキングの [設定変更] をクリックします。

4 1 ポートトランキングの設定項目を選択します。
2 [保存] をクリックします。

5 ハブの LAN ポートと TeraStation の LAN ポート 2 を 2 本目の LAN ケーブルで接続します。

NOTE: インテリジェントスイッチをお使いの場合、あらかじめポートトランキングに設定した LAN ポートに接続してください。

6 TeraStation 前面の電源スイッチを長押し (約 3 秒間) して電源を OFF にします。再度電源スイッチを押して TeraStation を起動します。

以上でポートトランキングの設定は完了です。

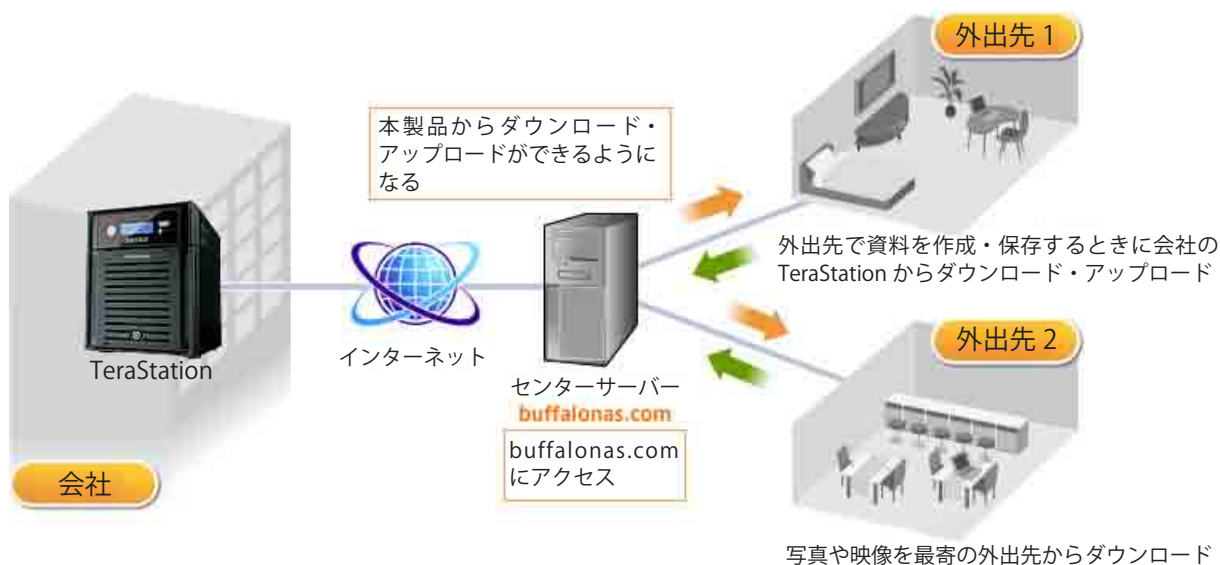
制限事項

■ TeraStation の設定画面でポートトランキングを設定したときは、一度 TeraStation の電源スイッチで TeraStation を再起動してください。再起動を行わない場合、ネットワーク通信が不安定になることがあります。

Chapter 9
便利な TeraStation の機能

Web アクセス機能を使用する

< Web アクセス機能とは >

TeraStation の共有フォルダー内のファイルをインターネット経由でアクセスできるようにします。公開対象共有フォルダー毎にアクセス制限の設定が可能で、UPnP によるルーターの自動設定や、buffalonas.com サーバーを使用することによる (DynamicDNS に類する) リダイレクト機能を搭載しています。

NOTE: 設定によっては、アクセス制限なしで共有フォルダー内のファイルをインターネット上に公開することになります。ご注意ください。

■ Web アクセス設定手順

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1 TeraStation の設定画面で、[その他] ー [Web アクセス] をクリックします。

2

公開したい共有フォルダーをクリックします。

NOTE: ・公開用の共有フォルダーは、あらかじめ専用に作成しておくことをおすすめします (普段使う共有フォルダーと分けておけば誤って公開することを防ぐことができます)。
・Web アクセス画面での [rename][delete][Create Folder][Upload] の操作にはユーザー名とパスワードが必要になります。あらかじめ TeraStation でユーザーの登録 (ユーザー名、パスワード) をしておいてください。

3

1 公開する共有フォルダーの名称、説明を確認します。
2 [Web アクセス] からアクセス制限について選択します。
　無効：
　　共有フォルダーを公開しません。
　アクセス制限なし：
　　誰でも共有フォルダーをアクセス（閲覧）できるようにします。
　登録グループ / ユーザーのみ：
　　TeraStation に登録したグループ / ユーザーのみアクセス（閲覧）できるようにします。
　共有フォルダー設定と同期：
　　共有フォルダー画面で設定したアクセス制限と同じ制限とします。共有フォルダー画面でアクセス制限を設定していない場合は表示されません。
3［保存］をクリックします。

4 Web アクセスサービスの [設定変更] をクリックします。

5

1 [Web アクセス] から [使用する] を選択します。
2 [BuffaloNAS.com 登録機能] から [使用する] を選択します。
3 [BuffaloNAS.com ネーム] に、公開する TeraStation 名を入力します。
NOTE: BuffaloNAS.com にアクセスした際に入力する名称です。実際の TeraStation の名称と異なっていても問題ありません。
4 [BuffaloNAS.com キー] に、ネームを保存 / 使用するためのパスワードを入力します。
5 [ルーター自動設定機能（UPnP）] から [使用する] を選択します。
NOTE: ルーターの UPnP が有効に設定されていないと動作しません。
6 [保存] をクリックします。

NOTE:・SSL 暗号化を使用し、より安全に転送したいときは、[HTTPS/SSL 暗号化] をクリックしチェックマークを表示させてください。この際にセキュリティの警告メッセージが表示されることがありますが、動作に問題はありませんのでそのまま操作を続行してください。
・BuffaloNAS.com を使用せずに、一般的な DNS サービスを利用する場合は、[その他 DNS サービスホスト名] にホスト名を入力してください (推奨しません。BuffaloNAS.com への登録をご利用ください)。
・UPnP を使用せずに手動で設定する場合に、ルーター側の外部ポートを入力します。
ルーター側の外部ポートを TeraStation のポート 9000 に転送します
（TeraStation 側のポートは 9000 に固定されています）。
・一定時間 TeraStation をインターネットから切り離すと、BuffaloNAS.com サーバーからネーム登録が削除されます。

以上で Web アクセス機能の設定は完了です。

■ Web アクセス機能で設定した公開フォルダーのアクセス (閲覧) 手順

1 インターネットブラウザーで次の URL ホームページを表示させせます。
【BuffaloNAS.com】http://buffalonas.com/

NOTE: iPhone/iPod touch で「buffalonas.com」にアクセスするには
1.「ホーム」画面から [Safari] をタップし、インターネットに接続します。
2.「Safari」画面上に表示されたアドレスバーをタップします。
3. アドレスバーに「http://buffalonas.com/」と入力し、[Go] を選択します。

- ・手順 2 以降の画面はパソコンからの画面例です。iPhone での表示と異なります。
- ・DRM の設定された動画ファイルや音楽ファイルを、本機能を利用して再生することはできません。
- ・アクセス制限の設定された Web アクセスフォルダー内に保存されている動画ファイルや音楽ファイルを再生することはできません。
- ・HTTPS/SSL 暗号化を使用している場合は、Web アクセスフォルダー内に保存されている動画ファイルや音楽ファイルを再生することができません。
- ・本機能を利用して、TeraStation 上のファイルをダウンロードして iPhone/iPod touch に保存することはできません (動画ファイルや音楽ファイルはストリーム再生、写真ファイルはブラウザ上での表示になります)。
- ・動画ファイル、音楽ファイルの再生互換性は iPhone/iPod touch に搭載される Safari と QuickTime の仕様に依存します。
- ・iPhone で再生可能な動画ファイルを作成するには、市販ソフトウェア等で iPhone/iPod touch で再生可能な動画形式に変換を行ってください。
- ・ファイルのアップロード / ファイル名の変更 / 削除は対応していません。
- ・iPhone および iPod touch は Apple Inc. の商標です。
- ・iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。

2

1 TeraStation の Web アクセスサービス設定で設定した、BuffaloNAS.com ネームを入力します。

2 [接続] をクリックします。

3

インターネットブラウザーにて、公開した TeraStation のフォルダー、ファイルを閲覧することができます。

NOTE: BuffaloNAS.com を使用せずに閲覧するには、次の URL をインターネットブラウザーで開いてください。
http://(TeraStation のグローバル IP アドレス): ルーター外部ポート番号 /
(SSL の場合 https://(TeraStation のグローバル IP アドレス): ルーター外部ポート番号 /)

グローバル IP アドレスは、お使いのルーターの設定画面にてご確認ください。確認手順についてはルーターに付属のマニュアルをご参照ください。ルーター外部ポート番号は、Web アクセス設定画面 [ルータ外部ポート番号] で入力したポート番号となります。

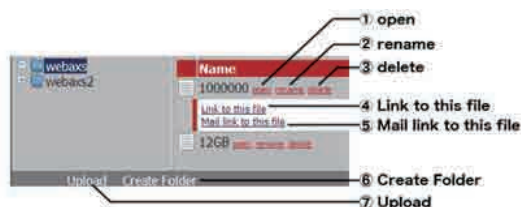
以上で公開した TeraStation の共有フォルダーへのアクセス（閲覧）は完了です。

■ Web アクセスの画面でできること

Web アクセスの画面では次の操作をすることができます。

[open] [rename] [delete] [Link to this file] [Mail link to this file] [Create Folder] [Upload]

NOTE:・P.73 の手順 3[Web アクセス] の項目でアクセス制限を設定していないときは、[open] のみ表示されます。

・下の画面が表示されないときは、画面左上の [ログイン] をクリックし、ユーザー名 / パスワードを入力してください。

1 [open]　ファイル・フォルダーを開きます。

[open] をクリックすると、指定のファイル、フォルダーを開きます。

2 [rename]　ファイル・フォルダー名を変更します。

[rename] をクリックすると、次の画面が表示されます。[ファイル名] に変更したいファイル名、フォルダー名を入力し、[変更] をクリックします。

操作には管理者ユーザー名、guest 以外の TeraStation に登録しているユーザー名とパスワードが必要です (新規に作成したユーザー名、パスワードが必要です)。

NOTE:・ファイル名・フォルダー名の文字に、"\/:<>*?| を使用することはできません。

・ファイル名・フォルダー名に使用できる文字数はマルチバイト文字、半角文字に関係なく合計 80 文字までです (拡張子含む)。

3 [delete]　ファイル・フォルダーを削除します。

[delete] をクリックすると、次の画面が表示されます。[はい] をクリックすると選択したファイルが削除されます。

操作には管理者ユーザー名、guest 以外の TeraStation に登録しているユーザー名とパスワードが必要です (新規に作成したユーザー名、パスワードが必要です)。

4 [Link to this file]　ファイル・フォルダーへのリンクです。

ファイル名、フォルダー名をクリックすると白い部分が表示されます。白い中から [Link to this file] を右クリックし、[ショートカットをコピー] を選択すると、そのファイルへ外部から直接アクセス可能なリンクアドレスをコピーします。リンクアドレスを配布したいときにお使いください。右クリックメニューから [お気に入りに追加] を選択すると直接アクセス可能なリンクアドレスをお気に入りとしてブックマークしておくこともできます。

5 [Mail link to this file]　リンクアドレスをメールします。

ファイル名、フォルダー名をクリックすると白い部分が表示されます。白い中から[Mail link to this file]をクリックすると、そのファイルへ外部から直接アクセス可能なリンクアドレスを本文としたメールソフトが起動します。リンクアドレスをメールで配布したいときにお使いください。

6 [Create Folder]　フォルダーを作成します。

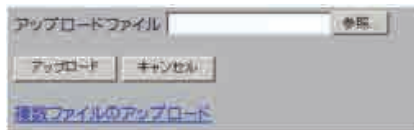
[Create Folder] をクリックすると、次の画面が表示されます。[フォルダー名] に作成するフォルダーの名称を入力し、[作成] をクリックすると新規にフォルダーを作成します。

操作には管理者ユーザー名、guest 以外の TeraStation に登録しているユーザー名とパスワードが必要です (新規に作成したユーザー名、パスワードが必要です)。

NOTE:・ファイル名・フォルダー名の文字に、"\/:<>*?| を使用することはできません。
・ファイル名・フォルダー名に使用できる文字数はマルチバイト文字、半角文字に関係なく合計 80 文字までです (拡張含む)。

7 [Upload]　ファイルをアップロードします。

[Upload] をクリックすると、次の画面が表示されます。アップロードファイル欄の [参照] をクリックし、アップロードするファイルを選択し、[アップロード] をクリックすると選択したデータをアップロードします。

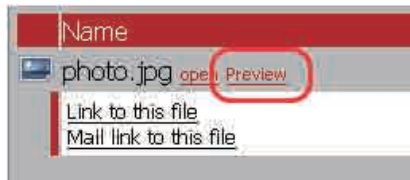
操作には管理者ユーザー名、guest 以外の TeraStation に登録しているユーザー名とパスワードが必要です (新規に作成したユーザー名、パスワードが必要です)。

[複数ファイルのアップロード] をクリックすると次の画面が表示されます。

NOTE: 複数のファイルをアップロードする場合、Adobe Flash plugin9.0 以上が必要です。

[ファイルの追加] でアップロードしたいファイルを選択し、[アップロード開始] をクリックします。

NOTE:　弊社で確認しているアップロードの条件は次の通りです。
・最大ファイルサイズ 2GB まで
・1 回のアップロードにつき 100 ファイルまで
アップロード先に同名ファイルが存在する場合、アップロードすることができません。アップロード先の同名ファイルを削除した後にアップロードしてください。

[Preview]　プレビュー機能について

選択したファイルが画像データの場合、ファイル名の横に [Preview] が表示されます。[Preview] をクリックすると、選択したファイルをブラウザーの画面上にプレビュー表示します。

Preview プレビュー機能の対応拡張子：.jpg、.jpeg、.bmp、.gif、.png

プレビューされた画像下にある CLOSE ✕ をクリックするとプレビュー表示を終了します。

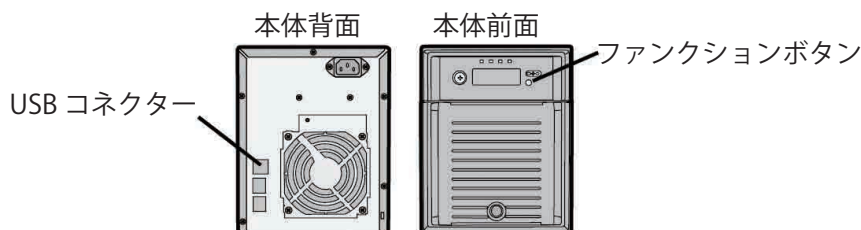
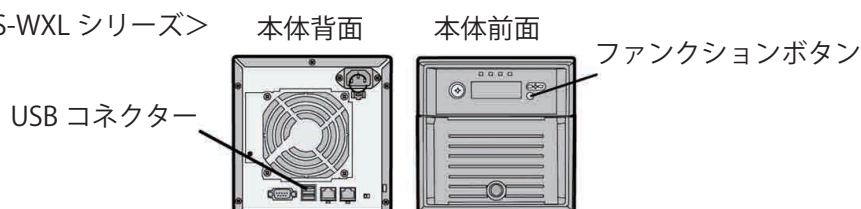
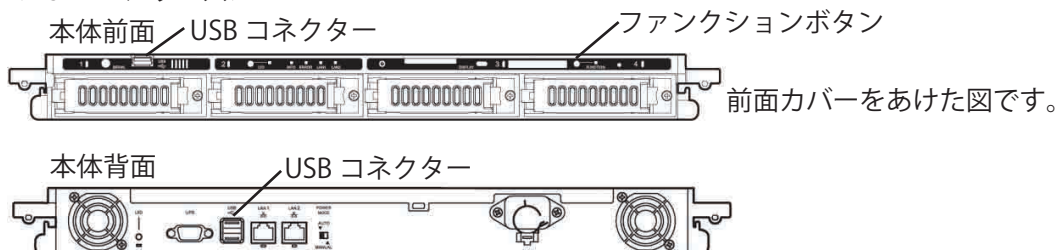
プレビュー画像の右上にマウスカーソルを移動させると、 NEXT が表示されます (次画像ファイルがない場合は表示されません)。 NEXT をクリックすると次の画像データをプレビューします。

プレビュー画像の左上にマウスカーソルを移動させると、 PREV が表示されます (前画像ファイルがない場合は表示されません)。 PREV をクリックすると前の画像データをプレビューします。

ダイレクトコピー機能を使用する

ダイレクトコピー機能を使用すると、TeraStation の USB ポートに USB 機器を接続して、パソコンを使わずに直接 TeraStation に USB 機器のデータをコピーすることができます。

NOTE: **TeraStation の USB コネクターに接続できるのは、USB マスストレージクラス、カードリーダー (2 個以上のメモリーカードを認識できるカードリーダーを除く)、デジタルカメラなどの PTP デバイス、対応を明記してある UPS デバイス、USB 接続プリンターです。それ以外の USB 機器（USB ハブ、マウス、キーボードなど）を接続して使用することはできません。**

1 **TeraStation の USB コネクターに USB 機器(USB フラッシュ / デジタルカメラ / ハードディスク / カードリーダー等）を接続します。**

USB 機器が認識されるとファンクションボタンが青色に約 60 秒点灯します (TS-RXL シリーズでは、ファンクションボタン横のランプが青色に点灯します)。青色に点灯した後から USB 機器にアクセスできます。

NOTE: **USB マスストレージクラスに該当しない USB デバイスの場合、以下の制限があります。**
・ファンクションボタン (TS-RXL シリーズでは、ファンクションボタン横のランプ) は点滅しません。
・パソコンの画面には表示されません（マウントされません）。

2 USB 機器を接続した後、ファンクションボタンが青色に約 60 秒点灯中 (TS-RXL シリーズでは、ファンクションボタン横のランプが青色に点灯します) に、TeraStation のファンクションボタンを長押し (3 秒以上) すると、USB デバイスからダイレクトコピーフォルダーへデータがコピーされます。

NOTE: コピー中は、ファンクションボタンが青色に点滅します (TS-RXL シリーズでは、ファンクションボタン横のランプ)。このときもう一度ファンクションボタンを押すとダイレクトコピーを中断できます。

コピー先の共有フォルダーは出荷時設定では [share] フォルダーに設定されています。
TeraStation の設定画面 [共有フォルダー]-[ダイレクトコピー]-[設定変更] で共有フォルダーを選択し、[保存] をクリックすると、コピー先の共有フォルダーを変更することができます。

また、コピー先の共有フォルダーには、以下のコピー先フォルダーが自動的に生成されます。
＜ダイレクトコピーフォルダー＞ /yyyymmdd
yyyy：コピーした年
mm：コピーした月
dd：コピーした日

コピー 2 回目以降は次のように日付フォルダーの下にフォルダーが作成されます。
＜ダイレクトコピーフォルダー＞ /yyyymmdd/n
yyyy：コピーした年
mm：コピーした月
dd：コピーした日
n：1 回目 n=0、2 回目 n=1、3 回目 n=2・・・

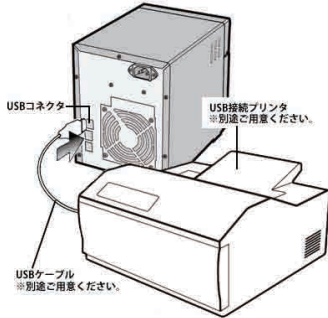
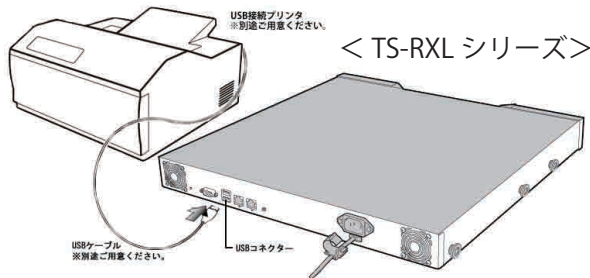
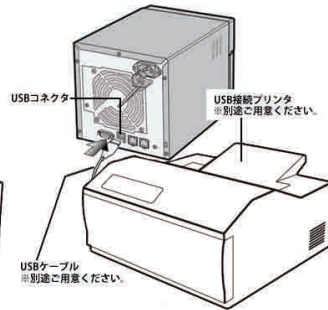
※ USB マスストレージクラスに該当しないデジタルカメラでは、
デジタルカメラの中にあるすべてのファイルがコピー対象となります。

3 コピーが終了したら、USB 機器のアクセスランプが点灯していないことを確認し、USB 機器を取り外します。

NOTE: USB 機器を取り外すときは
TeraStation の電源が ON のときは、TeraStation 前面のファンクションボタンを 6 秒以上長押しします。ファンクションボタンが青色に点灯します (TS-RXL シリーズでは、ファンクションボタン横のランプが青色に点灯します)。青色点灯が消灯に変わった後に、USB 機器を取り外してください。
TeraStation の電源が OFF のときはそのまま取り外せます。

TeraStation にプリンターを接続する

TeraStation には背面に USB コネクター（USB2.0/1.1 シリーズ A）を装備しています。USB コネクターには USB 接続プリンターを増設して使用することができます。図のように接続をしてください。

< TS-XHL、TS-XL、TS-XEL シリーズ>　< TS-WXL シリーズ>

< TS-RXL シリーズ>

TS-RXL シリーズでは、前面カバーを取り外して、前面の USB コネクターに接続することもできます。前面の USB コネクターの場所については P.4 をご参照ください。

TeraStation の USB コネクターに関する制限事項

■ TeraStation の USB コネクターに接続して使用できる USB 接続プリンターは 1 台までです。

※双方向通信には対応しておりません (インク残量などプリンターのステータスは取得できません)。

※複合機能搭載プリンターを接続した場合、プリンター機能のみ使用できます。その他の機能 (スキャナー、カードリーダー、FAX など) を使用することはできません。

※双方向通信のみ対応のプリンター、WPS(Windows Printing System) プリンターは使用できません。

※ Macintosh では TeraStation にプリンターを接続して使用することはできません。

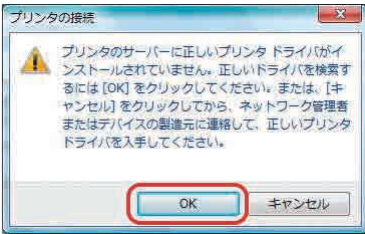
■プリンターの接続　Windows 7/Vista

Windows 7/Vista では、次のように設定します。

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1 **TeraStation の設定画面で、[その他] ─ ［プリントサーバー］ をクリックします。**

2 **[設定変更] をクリックします。**

3

1 [使用する] をクリックします。
2 [保存] をクリックします。

4 プリンターに付属のマニュアルを参照してプリンターのドライバーをインストールしてください。

5 [スタート]-[ネットワーク] をクリックします。

6 TeraStation のサーバー名をダブルクリックします。

7

接続したプリンターのアイコン (共有名が表示されています) をダブルクリックします。

8

[OK] をクリックします。

9

1 接続したプリンターのドライバーを選択します。
2 [OK] をクリックします。

NOTE: 一覧にドライバーが無いときは、プリンターに付属のマニュアルを参照してドライバーをインストールし、手順 1 から再度やり直してください。

10 以降は画面の指示に従ってプリンターを登録してください。

以上でプリンターの登録は完了です。

■プリンターの接続　Windows XP

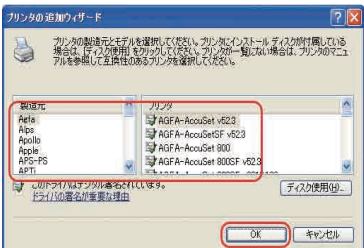
Windows XP では、次のように設定します。

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1 TeraStation の設定画面で、[その他] ─［プリントサーバー］をクリックします。

2 [設定変更] をクリックします。

3 1 [使用する] をクリックします。
2 [保存] をクリックします。

4 プリンターに付属のマニュアルを参照してプリンターのドライバーをインストールしてください。

5 [スタート]-[コントロールパネル] をクリックします。

6 [ネットワークとインターネット接続] アイコンをクリックします。

7 [マイネットワーク] ─ [ワークグループのコンピュータを表示する] ─ TeraStation のサーバー名の順にダブルクリックします。

8

接続したプリンターのアイコン (共有名が表示されています) をダブルクリックします。

9 「プリンターのサーバーに正しいプリンタードライバーがインストールされていません。正しいドライバーを検索するには [OK] をクリックしてください。」と表示されたら、[OK] をクリックします。

10 1 接続したプリンターのドライバーを選択します。
2 [OK] をクリックします。

NOTE: 一覧にドライバーが無いときは、プリンターに付属のマニュアルを参照してドライバーをインストールし、手順 1 から再度やり直してください。

11 以降は画面の指示に従ってプリンターを登録してください。

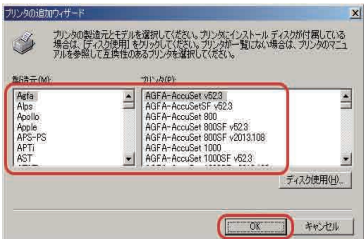
以上でプリンターの登録は完了です。

■プリンターの接続　Windows 2000

Windows 2000 では、次のように設定します。

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1 TeraStation の設定画面で、[その他] ー［プリントサーバー］をクリックします。

2 [設定変更] をクリックします。

3 1 [使用する] をクリックします。
2 [保存] をクリックします。

4 プリンターに付属のマニュアルを参照してプリンターのドライバーをインストールしてください。

5 [マイ ネットワーク] ー [ネットワークの全体] ー TeraStation のサーバー名をダブルクリックします。

6 接続したプリンターのアイコン (共有名が表示されています) をダブルクリックします。

7 [OK] をクリックします。

8

1 接続したプリンターのドライバーを選択します。
2 [OK] をクリックします。

NOTE: 一覧にドライバーが無いときは、プリンターに付属のマニュアルを参照してドライバーをインストールし、手順 1 から再度やり直してください。

9 以降は画面の指示に従ってプリンターを登録してください。

以上でプリンターの登録は完了です。

タイマー ON/OFF 機能を使用する

省電力のため指定時刻にスタンバイ状態 (ハードディスク、表示パネル、ランプが OFF) になるように設定することができます。

NOTE: TeraStation の PC 連動電源スイッチが MANUAL のときのみタイマー ON/OFF 機能を使用できます。AUTO のときは使用できません。
設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1 TeraStation の設定画面で、[システム]-[電源管理]-[タイマー ON/OFF] をクリックします。

2 タイマー ON/OFF の [設定変更] をクリックします。

3

1 タイマー間隔、起動時間、終了時間を指定します。
NOTE: ・タイマーは 3 つまで設定できます。
・終了時間は 0:00 から 27:45 まで設定可能です。
起動時間は 0:00 から 23:45 まで設定可能です。
(終了時間が 24:00 以降の場合は、起動時間は 4:00 から 23:45 までの設定となります。)
24:00 は次の日の 0:00、27:00 は設定日の次の日の 3:00 となります。
・終了時間を起動時間より早い時間または同じ時間に設定することはできません。

2 [保存] をクリックします。

NOTE: ・ディスクチェック、ディスクフォーマット、バックアップ処理中または現在時間± 5 分の間にバックアップタスクが予約されている時は、終了時間になってもスタンバイ状態には移行しません。
・タイマーの時間が重なったときは、一番広い時間間隔で動作します。
・複数タイマーを設定したときの例は次の通りです。
(例 1）現在水曜 10:00 起動している状態
タイマー 1　毎日　12:00 〜 24:00
タイマー 2　使用しない
タイマー 3　使用しない
→ 12:00 には何も起こらず 24:00 にスタンバイ状態へ移行します。
(例 2）現在水曜 10:00 起動している状態
タイマー 1　毎日　9:00 〜 18:00
タイマー 2　曜日指定　水曜　10:00 〜 20:00
タイマー 3　使用しない
→水曜以外では 9:00 に起動し 18:00 にスタンバイ状態へ移行します。
水曜は 20:00 にスタンバイ状態へ移行します。
(例 3）現在水曜 10:00 起動している状態
タイマー 1　毎日　9:00 〜 18:00
タイマー 2　曜日指定　水曜　10:00 〜 25:00
タイマー 3　使用しない
→水曜以外では 9:00 に起動し、18:00 にスタンバイ状態へ移行します。
水曜は 9:00 に起動し、その翌日 1:00 にスタンバイ状態へ移行します。
(例 4）現在水曜 10:00 起動している状態
タイマー 1　毎日　9:00 〜 18:00
タイマー 2　曜日指定　水曜　7:30 〜 22:00
タイマー 3　使用しない
→水曜以外では 9:00 に起動、18:00 にスタンバイ状態へ移行します。
水曜は 7:30 に起動し、22:00 にスタンバイ状態へ移行します。
・スタンバイ中、TeraStation の電源スイッチを長押し (約 3 秒間) するとスタンバイ状態から電源 ON の状態に移行します。

以上でタイマー設定は完了です。

使用できる容量を制限する

NOTE:
- 容量を制限するときは (クオータ機能を使用するときは)、ゴミ箱機能を無効にするか、ゴミ箱を空にしてください。制限される容量には、ゴミ箱で使用している容量も含まれます。
- 容量制限は、ドライブまたはアレイごとへの制限となります。容量制限 (クオータ容量) を 1GB と設定した場合、各アレイまたはドライブごとに使用できる最大容量が 1GB となります。
- TeraStaiton に接続した USB ハードディスクには、容量制限 (クォータ機能) の設定はできません。容量制限は、TeraStation 内蔵のハードディスクへの設定となります。

■ユーザーごとに書き込める容量を制限する手順

ユーザーごとに TeraStation の共有フォルダーを使用できる容量制限するときは、次の手順で行います。

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1

1 TeraStation の設定画面で、[ユーザー / グループ]-[ユーザー] をクリックします。

2 [ユーザーの作成] をクリックします。

2

1 ユーザー名、ユーザー ID、パスワード、ユーザーの説明を入力します。

NOTE: ユーザー ID は 1000 ～ 1999 の間の番号を入力します。他のユーザーと重複しないよう設定してください。

2 ユーザークオータの [設定する] のチェックボックスをクリックし、チェックマークを表示させます。

3 クオータ容量に使用可能な容量サイズを入力します。

4 [保存] をクリックします。

NOTE: Windows のネットワークログイン時のユーザー名、パスワードと同じユーザー名、パスワードにしてください。異なる場合、アクセス制限を設定した共有フォルダーにアクセスできません。また、Windows 7/Vista/XP/2000、Windows Server2003/Server2008 では、ネットワークログイン名が異なっていた場合、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されますが、入力しても共有フォルダーにアクセスできません。必ずこちらで設定したユーザー名、パスワードで Windows にログインしてください。

ユーザーの削除、追加を繰り返し行うとクオータ機能が正常に動作しなくなることがあります。TeraStation のバックアップ機能でコピーされたデータを他の TeraStation にコピーした場合でもユーザー ID/ グループ ID が重複すると正常にクオータ機能が動作しなくなることがあります。このようなときは、未使用のユーザー ID、グループ ID のユーザー名 / グループ名を使用してください。

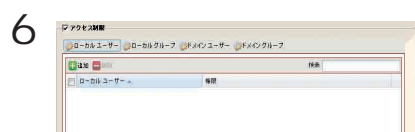
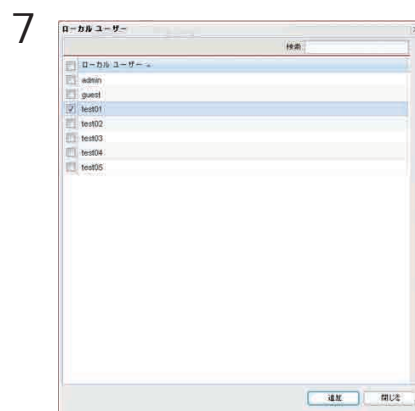
3 TeraStation の設定画面で、[共有フォルダー] をクリックします。

4 [共有フォルダーの作成] をクリックします。

5

1 共有フォルダー名、属性などを設定します。
2 [アクセス制限] をクリックします。

6 [追加] をクリックします。

7

1 手順 2 で作成したユーザーをクリックし、チェックマークを表示させます。
2 [追加] をクリックします。

8

追加したユーザーまたはグループの権限を選択します。

9 [保存] をクリックします。

以上でユーザーごとに書き込める容量の制限は完了です。

■グループごとに書き込める容量を制限する手順

グループごとに TeraStation の共有フォルダーを使用できる容量制限するときは、次の手順で行います。

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1

1 TeraStation の設定画面で、[ユーザー / グループ]-[ユーザー] をクリックします。

2 [ユーザーの作成] をクリックします。

2

1 ユーザー名、ユーザー ID、パスワード、ユーザーの説明を入力します。

NOTE: ユーザー ID は 1000 ～ 1999 の間の番号を入力します。他のユーザーと重複しないよう設定してください。

2 [保存] をクリックします。

NOTE: 複数のユーザーで同一のグループによる容量制限を行いたいときは、手順 1 ～ 2 と同様の手順でユーザーを追加します。

NOTE: Windows のネットワークログイン時のユーザー名、パスワードと同じユーザー名、パスワードにしてください。異なる場合、アクセス制限を設定した共有フォルダーにアクセスできません。また、Windows 7/Vista/XP/2000、Windows Server2003/Server2008 では、ネットワークログイン名が異なっていた場合、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されますが、入力しても共有フォルダーにアクセスできません。必ずこちらで設定したユーザー名、パスワードで Windows にログインしてください。

ユーザーの削除、追加を繰り返し行うとクオータ機能が正常に動作しなくなることがあります。TeraStation のバックアップ機能でコピーされたデータを他の TeraStation にコピーした場合でもユーザー ID/ グループ ID が重複すると正常にクオータ機能が動作しなくなることがあります。このようなときは、未使用のユーザー ID、グループ ID のユーザー名 / グループ名を使用してください。

ユーザーとグループの両方にクオータ容量を設定した場合、小さい方の容量に制限されます。

3

1 TeraStation の設定画面で、[ユーザー / グループ]-[グループ] をクリックします。

2 [グループの作成] をクリックします。

4

1 グループ名、グループ ID、グループの説明を入力します。
NOTE: グループ ID は 1000 ～ 1999 の間の番号を入力します。他のグループと重複しないよう設定してください。
2 グループクオータの [設定する] のチェックボックスをクリックし、チェックマークを表示させます。
3 クオータ容量に使用可能な容量サイズを入力します。
4 [ローカルユーザー] から手順 2 で作成したユーザーを選択し、[追加] をクリックします。
5 [保存] をクリックします。

NOTE: グループの削除、追加を繰り返し行うとクオータ機能が正常に動作しなくなることがあります。TeraStation のバックアップ機能でコピーされたデータを他の TeraStation にコピーした場合でもユーザー ID/ グループ ID が重複すると正常にクオータ機能が動作しなくなることがあります。このようなときは、未使用のユーザー ID、グループ ID のユーザー名 / グループ名を使用してください。

5

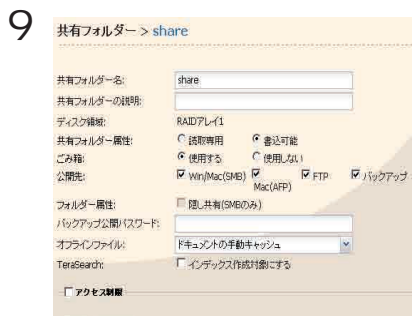
1 TeraStation の設定画面で、[ユーザー / グループ]-[ユーザー] をクリックします。
2 手順 2 で作成したユーザーを選択し、[ユーザーの編集] をクリックします。

6

[プライマリーグループ] に手順 4 で作成したグループを選択し、[保存] をクリックします。

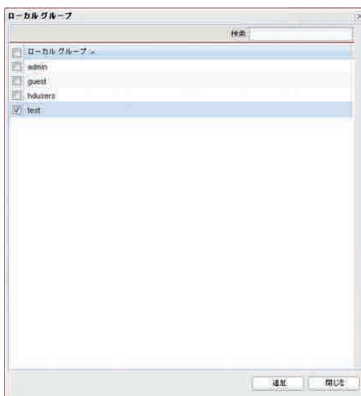
7 TeraStation の設定画面で、[共有フォルダー] をクリックします。

8 [共有フォルダーの作成] をクリックします。

9

1 共有フォルダー名、属性などを設定します。
2 [アクセス制限] をクリックします。

10

1 [ローカルグループ] をクリックします。
2 [追加] をクリックします。

11

1 手順 2 で作成したグループをクリックし、チェックマークを表示させます。
2 [追加] をクリックします。

12

追加したグループの権限を選択します。

13 [保存] をクリックします。

以上でグループごとに書き込める容量の制限は完了です。

TeraSearch 機能 (テキスト検索) を使用する

あらかじめ TeraStation の検索機能を有効にし、インデックス情報を更新すると、TeraStation の中にあるファイル（テキストファイルやワードデータなど）の中身を対象に文字列を検索することができます。

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1 TeraStation の設定画面で、[共有フォルダー]-[共有フォルダー] をクリックします。

2

インデックス作成対象にしたい共有フォルダーをクリックします。

3

1 [インデックス作成対象にする] をクリックしチェックマークを表示させます。

2 [保存] をクリックします。

4 TeraStation の設定画面で、[共有フォルダー] ー [TeraSearch] をクリックします。

5 [設定変更] をクリックします。

6 [使用する] を選択し、[保存] をクリックします。

7 [今すぐインデックスを更新する] をクリックします。

NOTE: あらかじめ定期的にインデックスを更新したいときは、[設定変更] をクリックし、インデックス更新時間を設定してください。

8 インターネットブラウザーで次の URL ホームページを表示させます。

http://(TeraStation の IP アドレス):3000/

NOTE: TeraStation の IP アドレスは NAS Navigator2 のトップ画面で確認することができます。

9 表示された画面で、TeraStation のユーザー名とパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

10 [検索文] に検索したいキーワードを入力します。

NOTE:[拡張検索] をクリックすると、ファイル名、所有者、更新日時、サイズを特定して検索することもできます。

11 [検索] をクリックします。

検索結果が表示されます。検出したファイル名をクリックするとファイルを開きます。

NOTE: インターネットブラウザー(例:Firefox など)によっては、検出したファイル名をクリックしてもファイルが開かないことがあります。

以上で TeraStation 内のファイルの検索は完了です。

オフラインファイル機能を使用する

< オフラインファイル機能とは >

Windows 2000 以降 (Windows XP Home Edition を除く) に搭載されているオフラインファイル機能を使えば、パソコンがネットワークにつながっていない時でも、ネットワークにつながっている状態であるかのようにTeraStation のファイルにアクセスできます。再びネットワークにつながった時に更新されたファイルを同期して書き込みます。

オフラインファイル機能を使用するには、次の手順で設定します。

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1 **TeraStation の設定画面で、[共有フォルダー] ー [共有フォルダー] をクリックします。**

2

オフラインファイル機能を使う共有フォルダーをクリックします。

3

1 オフラインファイルを [ドキュメントの手動キャッシュ] または [ドキュメントの自動キャッシュ]、[プログラムとドキュメントの自動キャッシュ] を選択します。

NOTE:
- [ドキュメントの手動キャッシュ] オフラインで使用するファイルを自分で選択する必要があります。
- [ドキュメントの自動キャッシュ] 開いたファイルをローカルにキャッシュしてオフラインで使用できるにします。以前のファイルで同期が取れていないものは自動的に削除され、新しいものに置き換えられます。
- [プログラムとドキュメントの自動キャッシュ] 開いたファイルをローカルにキャッシュしてオフラインで使用できるにします。以前のファイルやネットワークから実行されるアプリケーションで同期が取れていないものは自動的に削除され、新しいものに置き換えられます。

2 [保存] をクリックします。

NOTE: Windows 7 では手順 4、5 は必要ありません。手順 6 へお進みください (通常オフラインファイル機能は有効になっています)。

オフラインファイル機能が有効になっているかは次のように確認できます。

1 Windows のフォルダーを開き、キーボードの [Alt] キーを押し、表示されたメニューから [ツール]-[同期センターを開く] をクリックします。

2 [同期センター] 画面左側の [オフラインファイルの管理] をクリックします。

3 [全般] タブ画面で「オフラインファイルは有効です」と表示されていれば有効になっています。

[オフラインファイルを無効にする] をクリックすると無効にすることができます。

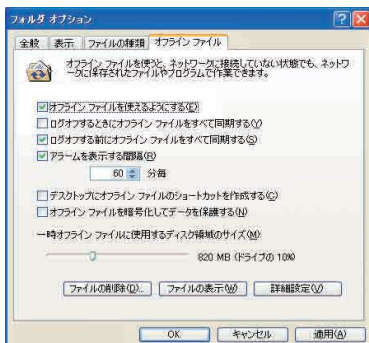
無効になっているときは、[オフラインファイルを有効にする] をクリックすると有効にすることができます。

4 Windows のフォルダーを開き、「ツール」メニューの「フォルダーオプション」を選択します。
NOTE: Windows 2000Server では、[コントロールパネル]-［フォルダーオプション］を選択します。

5

1 [オフラインファイル] タブをクリックします。

2 [オフラインファイルを使えるようにする] をクリックします。

3 [OK] をクリックします。

NOTE: Windows XP の「ユーザーの簡易切り替え」機能が有効の場合、上記画面が表示されません。このようなときは、コントロールパネル内にある [ユーザーアカウント] で［ユーザーの簡易切り替えを使用する］のチェックマークをはずしてください。

6

1 オフライン機能を設定した TeraStation の共有フォルダーのアイコンを右クリックします。

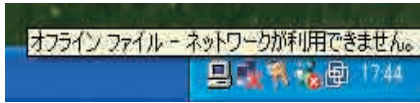
2 [オフラインで使用する] をクリックします。

7 オフラインファイルのウィザードが表示されたら、画面の指示にしたがって設定してください。詳しくは Windows のヘルプファイルをご参照ください。

8 ウィザードでオフライン設定、同期設定が完了すると、設定したファイルやフォルダーは次の表示になります。

画面は Wincows XP の例です。

9 **同期が完了した状態でネットワークを切断すると、オフラインファイル機能を利用することができます。オフラインファイルはそのデータが保存されていた元々の UNC(Universal Naming Convention) でアクセスすることができます。**

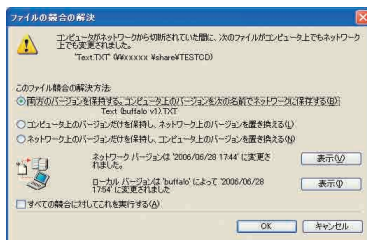
NOTE: オフラインファイルが利用できる場合はタスクトレイにアイコンが表示されます。

※オフラインファイルの編集

オフラインファイルは通常のファイルと同様に編集や削除を行うことができます。編集や削除によって生じたネットワーク上の元データとの差異は、ネットワーク再接続後の再同期により解消されます。

※オフラインファイルの同期

ネットワーク再接続時、ログオン時、ログオフ時など、設定した条件に従いオフラインファイルは自動的に同期されます。

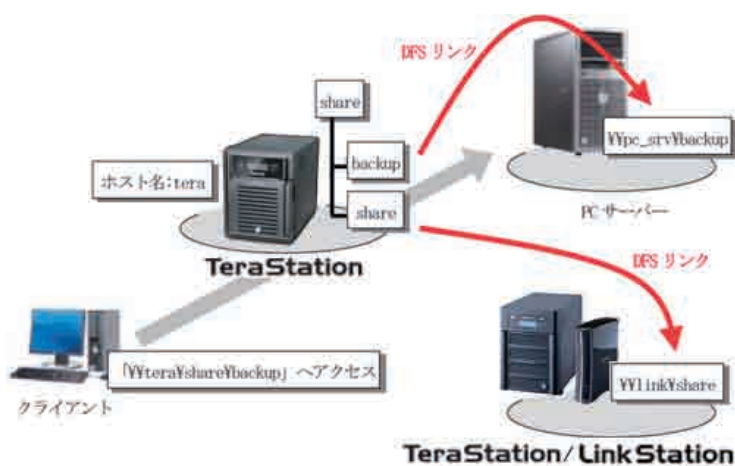
※ファイルの競合

オフラインファイルとネットワーク上の元データに対し、同時に異なる変更を行った場合、ファイルの競合が発生します。ファイルの競合が検出された場合は、下記の画面が表示されます。画面の指示にしたがって競合の解決してください。

以上でオフラインファイル機能の設定は完了です。

DFS(Distributed File System) 機能を使用する

< DFS(Distributed File System) 機能の概念解説 >

Distributed File System(以下、DFS) 機能とは、ネットワークのサーバー上に散在するファイル共有を、単一のツリー構造に集約する機能です。

下図ではクライアントパソコンから「¥¥tera ¥share ¥backup」という UNC(=Universal Naming Convention) へアクセスを行った場合、実際には全く異なる UNC の「¥¥pc_srv ¥backup」へアクセスを行いますが、クライアントパソコンから見た場合の UNC は「¥¥tera ¥share ¥backup」と表示され、実際のファイルサーバーの UNC は分かりません。また、「¥¥tera ¥share ¥backup」に「¥¥pc_srv ¥backup」への DFS リンクが設定されていますが、「¥¥tera ¥backup」という共有フォルダーに「¥¥pc_srv ¥backup」への DFS リンクを設定することもできます。

イラストは TS-XL シリーズの例です。

NOTE: ・DFS 機能は、Mac OS X では使用できません。

・Windows 2000、Server2003 をお使いの場合、アクセス制限が設定されているフォルダーが 1 つでも存在する TeraStation(または LinkStation、SMB 対応 Windows パソコン) を DFS リンク先に指定すると正常に動作しません (アクセスできません)。

・DFS 機能は SMB 接続時にのみ使用できます。AFP 接続や FTP 接続では、DFS 機能で作成された共有フォルダーやフォルダーは参照することはできません。

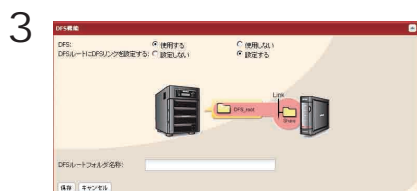
・共有フォルダーのアクセス制限は、DFS リンク先の設定が適用され、DFS ルートや DFS リンクにアクセス制限を設定することはできません。

DFS 機能を使用するには、次の手順で設定します。

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

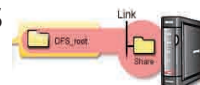
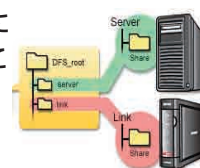
1 TeraStation の設定画面で、[共有フォルダー]-[DFS] をクリックします。

2 [DFS 機能] の [設定変更] をクリックします。

3

画面は TS-XL シリーズの例です。

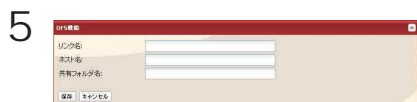
1［使用する］を選択します。

2 DFS ルートに DFS リンクを設定するかどうかを設定し、[保存] をクリックします。

[設定する] を選択した場合、DFS ルートの下に DFS リンク先共有フォルダーが 1 つ構成されます。

[設定しない] を選択した場合、DFS ルートの下に DFS リンク先共有フォルダーを 8 つまで構成することができます。

3［DFS ルートフォルダ名称］を入力します。

4［保存］をクリックします。

4 [DFS リンク] の [リンクを追加する] をクリックします。

5

1 リンク名、ホスト名、共有フォルダー名を入力します。

NOTE: DFS リンク先として指定できるのは次の通りです。

・TeraStation/LinkStation シリーズ

・SMB 対応の Windows パソコン (Mac OS、Linux は非対応)

「DFS ルートに DFS リンクを設定しない」を設定していた場合、ホスト名、DFS リンク先は最大 8 個設定できます。

2［保存］をクリックします。

以上で DFS の設定は完了です。

FTP サーバー機能を使用する

TeraStation を FTP サーバーとして使用したいときは、次の手順で行います。

NOTE: ・ローカルネットワーク以外から FTP 接続する場合、ルーターのポートを開放する必要があります。詳しくはルーターのマニュアルをご参照ください。

・設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1 TeraStation の設定画面で、[ネットワーク]-[ネットワーク]-[ネットワークサービス] をクリックします。

2 ネットワークサービスの [FTP] をクリックします。

3 [使用する] を選択し、[保存] をクリックします。

4 [共有フォルダー]-[共有フォルダー] をクリックします。

5

公開する共有フォルダーをクリックします。

6

1 読取専用にするかどうか選択します。
2 [FTP] をクリックします。
3 [保存] をクリックします。

以上で FTP サーバー機能の設定は完了です。

制限事項

■ Mac OS X で FTP を使用するとき、Windows と日本語のファイル / フォルダーの共有はできません。日本語ファイル / フォルダーの共有をしたいときは FTP 接続ではなく、AFP 接続または SMB 接続してください。

■ AFP 接続で新規作成、コピーしたフォルダーを FTP クライアントから削除できないことがあります（自動生成される「.AppleDouble」フォルダーがドットで始まるフォルダー名のため）。

■ FTP クライアントソフトウェアでファイルやディレクトリーの属性（読取 / 書込 / 実行など）を変更することはできません。

■ FTP 接続でファイル、フォルダーを作成する場合、ディレクトリーパス名を含めて UTF 換算で 250bytes を超えないようにしてください。250bytes を超えた場合、エクスプローラー等で読み出すことも削除することもできなくなります。

FTP クライアントソフトウェアで TeraStation にアクセスするには

別途 FTP クライアントソフトウェアを用意し、以下の項目を設定してください .

・ホスト名 TeraStation の IP アドレス (P.7)
・ユーザー名 TeraStation に登録しているユーザー名 (P.42)
・パスワード TeraStation に登録しているパスワード (P.42)
・ポート 21

例 ftp://192.168.11.150/

※ FTP クライアントソフトウェアの使いかたについてはソフトウェアのヘルプを参照ください。
※ TeraStation の設定で共有フォルダー、USB ハードディスクが読取専用になっていた場合、FTP でも書き込むことはできません。
※ TeraStation の共有フォルダー、USB ハードディスクにアクセス制限が設定されている場合、設定に従いアクセスが制限されます (アクセス権がないユーザーからは表示されません)。
※ ドメインネットワークに参加している場合、ドメインユーザーアカウントを使用して TeraStation に FTP 接続することはできません。
※ インターネットに FTP サーバーを公開したいときは、ルーターに付属のマニュアルをよく読みファイアウォールおよびセキュリティー設定を必ずしてください。

※ FTP で接続したとき共有フォルダーは以下のように見えます。

匿名 (ユーザー名 ANONYMOUS) で TeraStation にアクセスするには

TeraStation 設定画面 [ネットワークサービス] で FTP を使用する、共有フォルダー公開先 [FTP]、アクセス制限機能を使用しない設定になっていれば、匿名 (ユーザー名 ANONYMOUS) でもアクセスできます。

別途 FTP クライアントソフトウェアを用意し、以下の項目を設定してください .

・ホスト名 TeraStation の IP アドレス (P.7)
・ユーザー名 anonymous
・パスワード お客様の電子メールアドレス (任意の文字列でも設定できます)
・ポート 21

例 ftp://192.168.11.150/

※ FTP クライアントソフトウェアの使いかたについてはソフトウェアのヘルプを参照ください。
※インターネットに FTP サーバーを公開したいときは、ルーターに付属のマニュアルをよく読みファイアウォールおよびセキュリティ設定を必ずしてください。

NFS クライアントからアクセスする

NFS(Network File System) クライアント (UNIX 系 OS など) から TeraStation の共有フォルダーへアクセスしたいときは、次の手順で行います。

NOTE: NFS クライアント (UNIX 系 OS など) での接続については弊社はサポートしておりません。あらかじめご了承ください。

設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1 TeraStation の設定画面で、[ネットワーク]-[NFS]-[設定変更] をクリックします。

2

1 [使用する] をクリックします。

2 [保存] をクリックします。

NOTE:IP アドレスによるアクセス制限について

上記の画面で [公開先ネットワークアドレス][公開先サブネットマスク] を指定すると、IP アドレスによるアクセス制限を設定することができます。

例）192.168.11.xxx のクライアントをアクセス許可にしたい場合の設定
[公開先ネットワークアドレス] → 192.168.11.0
[公開先サブネットマスク] → 255.255.255.0
xxx は 1~254 の数字です。[公開先ネットワークアドレス] では、0 を入力します。

例）192.168.xxx.xxx のクライアントをアクセス許可にしたい場合の設定
[公開先ネットワークアドレス] → 192.168.0.0
[公開先サブネットマスク] → 255.255.0.0
xxx は 1~254 の数字です。[公開先ネットワークアドレス] では、0 を入力します。

NOTE: NFS で公開された TeraStation のフォルダーを VMware ESX/ESXi のハードディスクとして使用する場合、NFS の動作モードを「カーネルモード」(初期設定では「ユーザーモードになっています) に設定して使用する必要があります。

3 [NFS フォルダー設定] をクリックします。

4

公開する共有フォルダーをクリックします。

5

1 公開する NFS 公開パスをメモします。

2 [有効] をクリックします。

3 [保存] をクリックします。

6 [NFS クライアント設定] をクリックします。

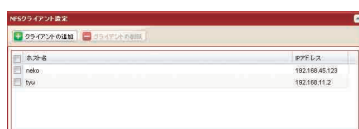
7 [クライアントの追加] をクリックします。

8

1 NFS クライアント (UNIX 系 OS など) の IP アドレスとホスト名を入力します。

NOTE:IP アドレス、ホスト名の確認方法は OS によって異なります。OS のヘルプ等をご参照ください。

2 [保存] をクリックします。

9

追加されたクライアントのホスト名と IP アドレスが表示されます。

NOTE:・登録を解除したいときは、表示されたホスト名のチェックボックスをクリックしてチェックマークを表示させ、[接続クライアントの削除] をクリックしてください。

・接続クライアントに登録されていないパソコンからも NFS 接続ができることがあります。

１０NFS クライアント (UNIX 系 OS など) から TeraStation の共有フォルダーにアクセスするコマンドを実行します。コマンドの例は次のとおりです。

Linux の場合

mount -t nfs ＜ IP アドレス＞ : ＜ TeraStation の NFS 公開パス＞＜ローカルパソコン上のマウントポイント＞

例）mkdir /mnt/tsxl
　　mount -t nfs 192.168.11.10:/mnt/array1/share /mnt/tsxl

TeraStation の IP アドレスが 192.168.11.10、NFS 公開パスが /mnt/array1/share、ローカルパソコン上のマウントポイントが tsxl の例です。

Windows Sevice for Unix 3.5 の場合

mount ＜ IP アドレス＞ : ＜ TeraStation の NFS 公開パス＞ ＜ネットワークドライブのレター（空いていないとエラーになります）＞

例）mount 192.168.11.10:/mnt/array1/share z:

TeraStation の IP アドレスが 192.168.11.10、NFS 公開パスが /mnt/array1/share、ネットワークドライブのレターが z の例です。

Solaris10 の場合

mount - ＜ F nfs IP アドレス＞ : ＜ TeraStation の NFS 公開パス＞＜ローカルパソコン上のマウントポイント＞

例）mkdir /mnt/tsxl
　　mount -F nfs 192.168.11.10:/mnt/array1/share /mnt/tsxl

TeraStation の IP アドレスが 192.168.11.10、NFS 公開パスが /mnt/array1/share、ローカルパソコン上のマウントポイントが tsxl の例です。

NOTE:
- Windows ファイル共有などと同時に利用したい場合、文字コードは UTF-8 で行うと smb でも正常に日本語ファイル名が表示されます (Windows Service for Unix ではできません)。
- ファイルアクセス権については NFS クライアント (UNIX 系 OS) での設定が適用されます。ただし root で書き込んだ場合、すべて uid,gid が 99 となります。
- TeraStation 上のユーザー管理と NFS クライアントでのユーザーの uid,gid の統一はできません。

以上で NFS クライアントからのアクセスは完了です。

通信を暗号化する

■設定画面操作の暗号化

インターネットブラウザーで、https:// ＜ TeraStation の IP アドレス＞ （「http://」の部分を「https://」に書き換える。) へアクセスすると、設定画面への通信は全て SSL 暗号化されます。

NOTE: お使いのパソコン環境によっては、「この Web サイトのセキュリティ証明には問題があります。」と表示されることがあります。そのまま設定画面の操作を続行ください。

■ FTP 通信時の暗号化

あらかじめ各共有フォルダーの設定画面で [公開先]-[FTP] のチェックボックスをクリックし、チェックマークを表示させてください。

FTP 通信を SSL/TLS で暗号化することにより、ログインパスワードやファイルを暗号化して送受信することができます。

FTP クライアントソフトの設定画面で、SSL セキュリティを有効にしてお使いください。

設定手順は FTP クライアントソフトによって異なります。

例）FTP クライアントソフトに FileZilla をお使いの場合、設定画面でサーバーの種類を [FTP over TLS (explicit encryption)] に設定してください。
SmartFTP をお使いの場合、設定画面で [FTP over SSL explicit] を選択してください。

NOTE:
- **暗号化処理のため、お使いのパソコン環境によっては転送スピードは通常接続に比べて 10 分の 1 程度に低下します。**
- **お使いのパソコン環境によっては、「この Web サイトのセキュリティ証明には問題があります。」と表示されることがあります。そのまま設定画面の操作を続行ください。**

■ SSL キーについて

NOTE:ここで説明する手順は、ネットワーク管理者を対象にしています。設定を行うには、SSL について、ある程度精通している必要があります。

設定画面操作、FTP 通信時に使用できる暗号化 (https,FTPS) キーについて説明します。

SSL(Secure Socket Layer) とは公開鍵暗号方式と呼ばれる暗号化方式の一種です。SSL は基本的に次の二つのファイルで管理されます。

1 server.crt(サーバー証明書)

TeraStation はこれをパソコンに送り、パソコン側でこのキーを使用して暗号化を行います。暗号化されたデータを TeraStation が受け取って server.key(秘密鍵) で暗号化を解除するという仕組みになっています。

SSL ではこのキーの中にサーバー証明書が含まれ、お使いのパソコン環境によってはその証明書が信頼できるものかどうか判断することがあります。TeraStation に初期設定で入っているサーバー証明書は弊社にて作成したものであり、ブラウザー等で「この Web サイトのセキュリティ証明書には問題があります。」と表示されることがあります。

2 server.key(秘密鍵)

server.crt(サーバー証明書) とセットで使用します。サーバー証明書で暗号化されたデータを解読するのに必要となるもので、これは通常公開しないものです。

NOTE:server.key （秘密鍵）のパスフレーズは解除したものをご用意ください。

SSL キーの更新

SSL のサーバー証明書と秘密鍵を更新するときは、次のように行います。

1 TeraStationの設定画面で、[ネットワーク]-[ネットワーク]-[ネットワークサービス]-[SSL キーの編集] をクリックします。

2 [秘密鍵] に server.key、[サーバー証明書] に server.crt を登録し、[インポート] をクリックします。

NOTE:SSL キーファイル (server.key、server.crt) は、C ドライブの直下などに置いてください (マルチバイト文字などが含まれるフォルダー、パスに置いた場合、SSL キーを更新することができないことがあります)。

以上で SSL キーの更新は完了です。

NOTE:・SSL キーには、パスワードを解除した物を使用してください。
・更新後に TeraStation の設定画面が表示できなくなったときは、TeraStation 本体の初期化スイッチで設定を初期化してください。
・ファームウェアをアップデートすると、SSL キーも初期化されます。

Wake on LAN 機能を使用する

ネットワーク経由でパソコンからTeraStationを起動させる機能(Wake on LAN機能)を本製品は搭載しています。

NOTE:TS-XEL シリーズでは、Wake on LAN 機能を搭載していません。

Wake on LAN 機能を使用するには、TeraStation の設定画面で次のように Wake on LAN 機能を有効にする必要があります。

NOTE: 設定画面の表示手順は P.7 をご参照ください。

1 **TeraStation の設定画面で、[ネットワーク]-[ネットワーク]-[IP アドレス設定]-[設定変更] をクリックします。**

2 1 **Wake on LAN の [使用する] をクリックします。**
2 **[保存] をクリックします。**

以上で Wake on LAN 機能の設定は完了です。

TeraStation の電源が OFF の状態 (AC ケーブルはコンセントに接続していてください) でも、パソコンから Wake on LAN パケットを受信すると TeraStation が起動するようになります。

TeraStation が Wake on LAN パケットを待ち受けているポートは、2304 ポートです。送信するソフトウェアから 2304 ポート向けに Wake on LAN パケットを送信してください。

NOTE:
- TeraSTation の起動処理には 5 分程度の時間がかかります。
- 停電などで電源が一時的に切断された場合、Wake on LAN で起動できる準備ができるまで 5 分程度の時間がかかります。
- Wake on LAN パケットを送信するソフトウェア (AMD 製 Magic Packet Utility など) は別途ご用意ください。
- ポートトランキング機能を使用している場合、Wake on LAN 機能で TeraStation を起動させることはできません。
- 弊社製無線 LAN 親機・ルーターに搭載されている機能で Wake on LAN パケットを送信する場合、LAN ケーブルは TeraStation の LAN1 ポートに接続してください (LAN2 ポートに接続されたネットワークでは、弊社製無線 LAN 親機・ルーターに搭載された機能からの Wake on LAN パケットに反応しません)。

Chapter 10
NAS Navigator2 について

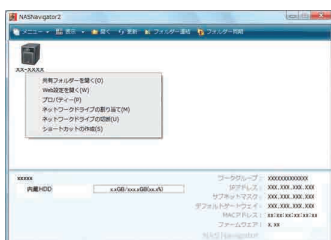
Windows

NAS Navigator2 を使えば、TeraStation の設定画面を表示したり、IP アドレスを変更したり、容量を簡単に知ることができます。

TeraNavigator でセットアップすると、NAS Navigator2 がインストールされます。

NAS Navigator2 は OS 起動時にタスクトレイに常駐します。

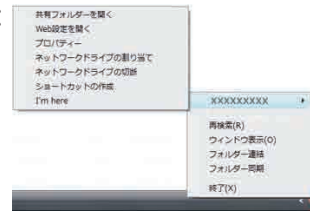
起動方法： • デスクトップにある［BUFFALO NAS Navigator2］アイコンをダブルクリックします。
•［スタート］－［(すべての) プログラム］－［BUFFALO］－［BUFFALO NAS Navigator2］－［BUFFALO NAS Navigator2］をクリックします。

画面：

画面は TS-XL シリーズの例です。

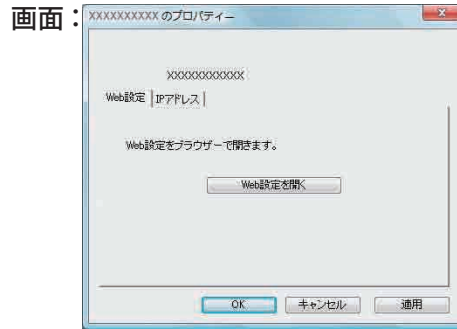
項目		機能
メニュー	ネットワークドライブの割り当て (※)	検索された TeraStation 共有フォルダーをネットワークドライブに割り当てます。
	ネットワークドライブの切断 (※)	ネットワークドライブの割り当てを解除します。
	すべての TeraStation/LinkStation のドライブの割り当て	検索された全ての TeraStation 共有フォルダーをネットワークドライブに割り当てます。
	TeraStation/LinkStation のショートカットの作成 (※)	検索された TeraStation の共有フォルダー（share）へのショートカットアイコンをデスクトップに作成します。
	常に常駐する	OS 起動時に NAS Navigator2 をタスクトレイに常駐させます。
	エラー情報を通知する	エラーが発生した際にタスクトレイの NAS Navigator2 アイコンからエラーメッセージを表示します。
	デフォルトブラウザーを使う	Web 設定画面を表示するのに OS で登録してあるインターネットブラウザーを使用します (本項目を選択しない場合、Internet Explorer を使用します)。
	フォルダー連結	TeraStation の共有フォルダーとパソコンのローカルドライブにあるフォルダーを連結して表示するための設定を行います。
	フォルダー同期	TeraStation の共有フォルダーとパソコンのローカルドライブにあるフォルダーを同期して表示するための設定を行います。
	プロパティー (※)	選択した TeraStation のプロパティー画面を開きます。
	閉じる	NAS Navigator2 の操作画面を閉じます。
表示	表示	[アイコン]：アイコンで簡単に表示します。 [詳細]：名称、製品名、ワークグループ、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを表示します。
	並び替え順序	複数 TeraStation が見つかったときの表示順序を次から選択します。 名称、製品名、ワークグループ、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ
開く (※)		表示された TeraStation の共有フォルダーを開きます。
更新		TeraStation を再検索します。
フォルダー連結		TeraStation の共有フォルダーとパソコンのローカルドライブにあるフォルダーを連結して表示するための設定を行います。
フォルダー同期		TeraStation の共有フォルダーとパソコンのローカルドライブにあるフォルダーを同期して表示するための設定を行います。
I'm here(※)		クリックすると TeraStation からメロディーが鳴ります (対応していない製品では選択できません)。

※ TeraStation のアイコンをクリックしないと表示されません。

NAS Navigator2 を最小化した場合、タスクトレイに常駐している NAS Navigator2 のアイコンから次の操作ができます。

画面：

<table>
<tr><th colspan="2">メニュー項目</th><th>機能</th></tr>
<tr><td rowspan="7">TeraStation 名</td><td>共有フォルダーを開く</td><td>TeraStation の共有フォルダーを開きます。</td></tr>
<tr><td>Web 設定を開く</td><td>選択した TeraStation の設定画面を表示します。</td></tr>
<tr><td>プロパティー</td><td>選択した TeraStation のプロパティー画面を開きます。</td></tr>
<tr><td>ネットワークドライブの割り当て</td><td>検索された TeraStation 共有フォルダーをネットワークドライブに割り当てます。</td></tr>
<tr><td>ネットワークドライブの切断</td><td>ネットワークドライブの割り当てを解除します。</td></tr>
<tr><td>ショートカットの作成</td><td>検索された TeraStation の共有フォルダー（share）へのショートカットアイコンをデスクトップに作成します。</td></tr>
<tr><td>I'm here</td><td>TeraStation からメロディーが鳴ります (対応していない製品では選択できません)。</td></tr>
<tr><td colspan="2">再検索</td><td>TeraStation を再検索します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">ウィンドウ表示</td><td>NAS Navigator2 の操作画面を表示します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">フォルダー連結</td><td>TeraStation の共有フォルダーとパソコンのローカルドライブにあるフォルダーを連結して表示するための設定を行います。</td></tr>
<tr><td colspan="2">フォルダー同期</td><td>TeraStation の共有フォルダーとパソコンのローカルドライブにあるフォルダーを同期して表示するための設定を行います。</td></tr>
<tr><td colspan="2">終了</td><td>NAS Navigator2 を終了します。</td></tr>
</table>

TeraStation のプロパティー画面では、次の操作ができます。

画面：

メニュー項目	機能
Web 設定	[Web 設定を開く] をクリックすると TeraStation の設定画面を表示します。
IP アドレス	[IP アドレスを自動的に取得する] にチェックを入れると IP アドレスを DHCP サーバーから自動的に割り当てられるようにします。ネットワーク内に DHCP サーバーが無いときは、この機能は使用できません。 [IP アドレスを再取得する] にチェックを入れると IP アドレスを DHCP サーバーから再度取得します。 IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを手動で固定入力することもできます。

フォルダー連結機能を使用する (Windows)

<フォルダー連結機能とは>

フォルダー連結機能では、Windows 7/Vista/XP/2000、Windows Server2003/Server2008 でTeraStationの共有フォルダーへのショートカットをデスクトップやマイドキュメント内のローカルフォルダーに登録することができます。
フォルダー機能を使用するには、次の手順で設定します。

1 デスクトップの [BUFFALO NAS Navigator2] アイコンをダブルクリックします。
NAS Navigator2 が起動します。

2
画面は TS-XL シリーズの例です。

[フォルダー連結] をクリックします。

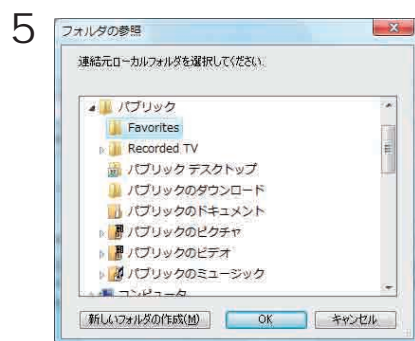
NOTE: Windows 7/Vista/XP/2000、Windows Server2003 以外の OS では、[フォルダー連結] は表示されません。

3

1 [フォルダー連結機能を使用する] をクリックし、チェックマークを表示させます。
2 [追加] をクリックします。

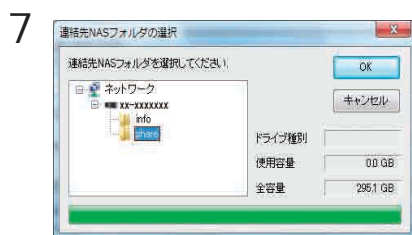
4

[連結元] の右端にあるボタンをクリックします。

5

1 連結元にするパソコンのローカルドライブ内のフォルダーを選択します。
2 [OK] をクリックします。

6

[連結先] の右端にあるボタンをクリックします。

7

1 連結先にする TeraStation 内のフォルダーを選択します。

2 [OK] をクリックします。

8

[OK] をクリックします。

9

[OK] をクリックします。

以上でフォルダー連結機能の設定は完了です。

Windows 7/Vista ではフォルダー連結したフォルダーは右図のように矢印が表示されます。
解除した場合、矢印は消えます。

Windows Vista の例

NOTE:
- フォルダー連結設定できる数は最大 10 個です。
- 1 つの連結先フォルダーに複数連結元フォルダーを指定することはできません。
- 1 つの連結元フォルダーに複数連結先フォルダーを指定することはできません。
- フォルダー連結設定を行ったユーザーとは別のアカウントで Windows にログインすると、フォルダー連結設定は無効になりますが、連結元フォルダーは別アカウントのユーザーからも見えます。別アカウントのユーザーから見えないようにしたいときは、アカウント名固有のフォルダー (マイドキュメントなど) を連結元に設定することをおすすめします。
- アクセス制限されたフォルダーへのフォルダー連結機能はサポートしておりません。
- 複数ユーザーが同一のネットワークフォルダーを連結先として設定していた場合、複数ユーザーからの読み書きはネットワーク上の共有フォルダーを読み書きする場合と同一となります。連結先のフォルダーは共有フォルダーとして動作します（他ユーザーが書き込んだものも連結元から見えます）。

フォルダー同期機能を使用する (Windows)

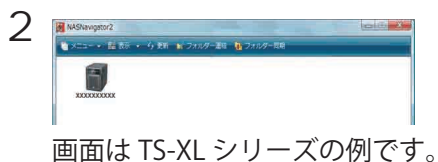
< フォルダー同期機能とは >

フォルダー同期機能では、Windows 7/Vista/XP/2000、Windows Server2003/Server2008 でTeraStationの共有フォルダーとパソコンのローカルフォルダーを同期させ、自動的にローカルフォルダーのファイルを TeraStation にアップロードすることができます。

フォルダー同期を使用するには、次の手順で設定します。

1 デスクトップの [BUFFALO NAS Navigator2] アイコンをダブルクリックします。
NAS Navigator2 が起動します。

2

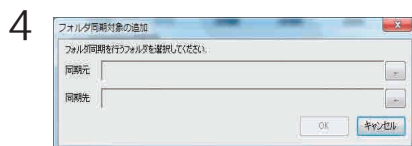
画面は TS-XL シリーズの例です。

[フォルダー同期] をクリックします。

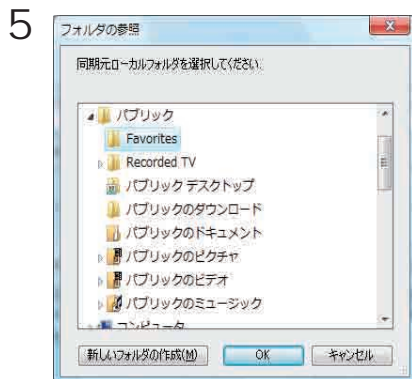
NOTE: Windows 7/Vista/XP/2000、Windows Server2003 以外の OS では、[フォルダー同期] は表示されません。

3

1 [フォルダー同期機能を使用する] をクリックし、チェックマークを表示させます。

2 [追加] をクリックします。

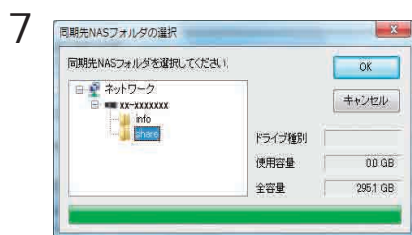
4

[同期元] の右端にあるボタンをクリックします。

5

1 同期元にするパソコンのローカルドライブ内のフォルダーを選択します。

2 [OK] をクリックします。

6

[同期先] の右端にあるボタンをクリックします。

7

1 同期先にする TeraStation 内のフォルダーを選択します。

2 [OK] をクリックします。

8

[OK] をクリックします。

9

[OK] をクリックします。

以上でフォルダー同期機能の設定は完了です。

NOTE:
- フォルダー連結と同じ設定をフォルダー同期に設定することはできません。
- フォルダー同期を設定できる数は最大 10 個です。
- 1 つの同期先フォルダーに複数同期元フォルダーを指定することはできません。
- 1 つの同期元フォルダーに複数同期先フォルダーを指定することはできません。
- フォルダー同期機能は、同期元フォルダーへのファイル・フォルダー作成、書き込みを監視し、同じ操作を同期先フォルダーに対して行います。同期先フォルダー内のファイルを別途更新しても、同期元フォルダー内の同名ファイルを更新した時点で、同期先フォルダー内のファイルは同期元フォルダー内のファイルと同じ内容となります。同期元でのファイル操作が同期先に反映されます。
- 同期先のフォルダー（TeraStation 上の共有フォルダー）を複数のネットワークユーザーが読み書きする場合の排他処理はネットワーク上の共有フォルダーを読み書きする場合と同一となります。同期先のフォルダーは他ユーザーには共有フォルダーとして動作します。
- アクセス制限されたネットワークフォルダーの認証はユーザーの接続開始時またはシステム起動時にのみ行われます。認証に失敗した場合は、次回ユーザーの接続時またはシステム起動時でないと再度ネットワーク接続認証は行われません。エクスプローラーからのアクセスとは違いフォルダーにアクセスする時に認証が行われるわけではありません。
- 複数のユーザーが同一のネットワークフォルダーを同期先として設定していた場合はファイル名の重複などが発生する可能性があるため、動作を保証できません。
- 複数のネットワークユーザーが同一のネットワークフォルダーを同期先として設定していた場合、ファイル名の重複などが発生する可能性があるため、動作を保証できません。
- 同期先フォルダーは個別のユーザーしか書き込みアクセスできないような設定を行っておくことをおすすめします。

NOTE: 同期機能の動作について

同期を開始した後に同期元に更新（ファイル／ディレクトリーの削除・作成・変更）があった場合は、その動作を同期先に反映する動作をします。以下の動作はファイルですが、ディレクトリーに対しても同じ動作となります。

同期開始前の状態	
同期元	同期先
A.txt	B.txt

①同期開始したらどのような状態になるか 同期元に更新がない場合は何もされません。	
同期元	同期先
A.txt	B.txt

② A.txt を変更したら同期先はどうなるか 同期元に存在するファイルが更新されると、同期先にそのままコピーされます。	
同期元	同期先
A.txt(更新)	B.txt A.txt(更新)

③同期元の A.txt を削除したら同期先はどうなるか 同期元に存在するファイルが削除されると、同期先のファイルも削除されます。	
同期元	同期先
	B.txt

③ ' 同期先の A.txt を削除したらどうなるか 同期先に存在するファイルが削除されても、A.txt に変化がない場合は何もしません。	
同期元	同期先
A.txt	B.txt

その後、同期元 A.txt に変化があった場合に同期先のファイルが更新されます。

同期元	同期先
A.txt(更新)	B.txt A.txt(更新)

④同期先に C.txt が追加されたらどうなるか 同期先にファイルが追加されても、同期元は何もしません。	
同期元	同期先
A.txt	B.txt A.txt C.txt

④ ' その後、同期元に C.txt が追加されたらどうなるか その後、同期元 C.txt が追加された場合に同期先のファイルが更新されます。	
同期元	同期先
A.txt C.txt(更新)	B.txt A.txt C.txt(更新)

⑤同期元に D.txt が追加されたらどうなるか 同期元に D.txt が追加された場合、同期先に D.txt がコピーされます。	
同期元	同期先
A.txt D.txt	B.txt A.txt D.txt

⑥同期元の D.txt と同期先の D.txt が同時に違う変更した場合はどうなるか 同時または同期元が少し遅く D.txt を更新した場合は、同期元の内容となります。	
同期元	同期先
A.txt D.txt(更新 1)	B.txt A.txt D.txt(更新 1)

同期先が少しでも遅く更新された場合は、同期先の更新内容となります。

同期元	同期先
A.txt D.txt(更新 1)	B.txt A.txt D.txt(更新 2)

その後、同期元の D.txt が更新された時に、同期先に D.txt がコピーされます。

同期元	同期先
A.txt D.txt(更新 3)	B.txt A.txt D.txt(更新 3)

Mac OS X 10.3.9 ～

TeraNavigator で TeraStation をセットアップすると NAS Navigator2 がインストールされます。

起動方法：Dock 内の [NAS Navigator2］アイコン をクリックすると NAS Navigator2 が起動します。

画面：

画面は TS-XL シリーズの例です。

TeraStationのアイコンをクリックすると選択したTeraStationのIPアドレス、ワークグループ、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、全容量、使用容量が表示されます。

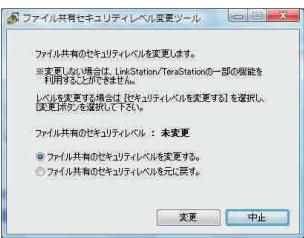
<table>
<tr><td colspan="2">メニュー項目</td><td>機能</td></tr>
<tr><td colspan="2">開く</td><td>TeraStation の共有フォルダーを開きます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">更新</td><td>TeraStation を再検索します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">I'm Here</td><td>クリックすると TeraStation からメロディーが鳴ります (対応していない製品では選択できません)。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">TeraStation のアイコンをコントロールキーを押しながらクリックしたときのメニュー</td><td>共有フォルダーを開く</td><td>TeraStation の共有フォルダーを開きます。</td></tr>
<tr><td>Web 設定を開く</td><td>選択した TeraStation の設定画面を表示します。</td></tr>
<tr><td>機器設定画面を開く</td><td>web 設定を開くための画面や、IP アドレスを変更するための画面を表示します。</td></tr>
<tr><td>I'm Here</td><td>クリックすると TeraStation からメロディーが鳴ります (対応していない製品では選択できません)。</td></tr>
<tr><td>カラーラベル</td><td>アイコンの下に表示される名称の色を選択できます。</td></tr>
<tr><td>表示オプションを表示</td><td>アイコンサイズ、ラベルの位置、アイコンの並べる順序を設定できます。</td></tr>
</table>

Chapter 11
付属ソフトウェアについて

NAS Navigator2

NAS Navigator2 については、P.106 をご参照ください。

ファイル共有セキュリティレベル変更ツール

Windows 7/Vista、Windows Server2003/Server2008 で外部の SMB サーバーに認証を委任してアクセス制限【P.52】を設定するには、ファイル共有セキュリティレベル変更ツールで Windows のセキュリティレベルを変更する必要があります。セキュリティレベルの変更は、次の手順で行います。

NOTE: ・Windows 7/Vista、Windows Server2003/Server2008 のみインストールされます。
・初期セットアップ中、「セキュリティレベルを変更します。よろしいですか？」と表示されます。[はい] をクリックしたときは、画面の指示にしたがってパソコンを再起動してください。

1 [スタート]-[すべてのプログラム]-[BUFFALO]-[ファイル共有セキュリティレベル変更ツール]-[ファイル共有セキュリティレベル変更ツール] をクリックします。

ファイル共有セキュリティレベル変更ツールが起動します。

NOTE:「プログラムを続行するにはあなたの許可が必要です」と表示されたときは、[続行] をクリックしてください。

2

1 TeraStation にアクセス制限を設定するときは、[ファイル共有のセキュリティレベルを変更する] を選択します。
2 [変更] をクリックします。

3「セキュリティレベルを変更します」と表示されたら、[はい] をクリックします。

4「今すぐ再起動しますか?」と表示されたら、[はい] をクリックします。

パソコンが再起動します。

以上でセキュリティレベルの変更は完了です。

NOTE: 認証サーバー連携機能を利用したアクセス制限を設定しないときは、次の手順で元に戻すことができます。

1 [スタート]-[すべてのプログラム]-[BUFFALO]-[ファイル共有セキュリティレベル変更ツール]-[ファイル共有セキュリティレベル変更ツール] をクリックします。

「プログラムを続行するにはあなたの許可が必要です」と表示されたら、[続行] をクリックしてください。

2「認証サーバー連携機能を利用したアクセス制限」を設定しないときは、[ファイル共有のセキュリティレベルを元に戻す] を選択します。

3 [変更] をクリックします。

以上で元に戻す設定は完了です。

簡単バックアップ

パソコンのデータを TeraStation にバックアップしたいときに便利なユーティリティーです。使いかたについてはセットアップ後に、[スタート]-[(すべての) プログラム]-[BUFFALO]-[簡単バックアップ]-[簡単バックアップ マニュアル] をご参照ください。

NOTE: ・TeraStation のデータをバックアップしたいときは、TeraStation の設定画面で行います。
・Mac OS では使用できません。

NAS 設定保存・復元ツール

TeraStation の設定情報を、ネットワーク経由でパソコンに設定ファイル (nas_config ファイル) として保存し、必要な場合に復元することができるソフトウェアです。使いかたについてはセットアップ後に、[スタート]-[(すべての) プログラム]-[BUFFALO]-[NAS 設定保存・復元ツール]-[マニュアル (PDF)] をご参照ください。

NOTE: ・Windows Server2003/Server2008、Windows 2000 Server、Mac OS では使用できません。
・NAS 設定保存・復元ツールでは、TeraStation の共有フォルダー内のデータは保存されません。

制限事項

■ 付属の NAS 設定保存･復元ツールで TeraStation の設定を保存、または復元した際に、まれに「失敗しました」と表示されることがあります。このようなときは、もう一度設定を保存または復元を行ってください。

EXT3 リーダー

NOTE:TS-XHL シリーズには、EXT3 リーダーは付属していません (TS-XHL シリーズでは、NTFS フォーマットのUSB ハードディスクに書き込みすることができます)。

本製品に付属の EXT3 リーダーを使えば、TeraStation のバックアップに使用した EXT3 フォーマットの外付けUSB ハードディスクをパソコンにつないでデータを読み出すことができます。
EXT3 リーダーの使用手順は次の通りです。

1 パソコンに TeraStation で EXT3 フォーマットした USB ハードディスクを接続します。

NOTE:・EXT3 リーダーの対応ハードディスクは、TurboUSB 対応弊社製 USB ハードディスクです。
・USB ハードディスクの第 1 パーティションのみ認識されます。
・弊社製 USB 接続製品に付属している「TurboUSB」と EXT3 リーダーは併用することはできません。TurboUSB がインストールされている環境の場合、アンインストールしてから EXT3 リーダーをお使いください。
・TeraStation での取り外し処理 (P.22) をしないで電源が ON の状態の TeraStation から取り外したUSB ハードディスクは、EXT3 リーダーでデータを読み出すことができません。TeraStation からUSB ハードディスクを取り外すときは、必ず取り外し処理を行ってください。
・Windows XP/2000 をお使いの場合、GUID パーティション (GPT) 上に作成された EXT3 ボリュームは読み出せません。

2 [スタート]-[(すべての) プログラム]-[EXT3 リーダー]-[EXT3 リーダー] をクリックし、EXT3 リーダーを起動します。

3 [有効] クリックします。

4 タスクトレイのアイコン (、 、) を右クリックし、表示されたメニューから [USB 大容量記憶装置 (デバイス)] を選択します。「安全に取り外すことができます」と表示されたら取り外します。

5 パソコンに EXT3 フォーマットした USB ハードディスクをもう一度接続します。

6 接続した USB ハードディスクは、通常の USB ハードディスクのようにデータを読み出すことができます (ファイルの書き込み / 編集 / 削除はできません)。

以上で EXT3リーダーによる読み出しは完了です。

NOTE: EXT3 リーダーを無効にして USB ハードディスクを取り外すときは、次の手順で行ってください。
有効のまま取り外すときは、下記手順 1、2、4 は必要ありません (3 のみでかまいません)。

1.[スタート]-[(すべての) プログラム]-[EXT3 リーダー]-[EXT3 リーダー] をクリックし、EXT3 リーダーを起動します。
2.[無効] をクリックします。
3. タスクトレイのアイコン (、 、) を右クリックし、表示されたメニューから [USB 大容量記憶装置 (デバイス)] を選択します。「安全に取り外すことができます」と表示されたら取り外します。
4.Windows を再起動してください。

以上で取り外しは完了です。

Chapter 12
設定項目一覧

設定画面から設定できる項目は次のとおりです。

共通項目（画面左側の表示）

共通項目（画面左側の表示）	
名称	TeraStation の名称を表示します。
ファームウェア	TeraStation のファームウェアバージョン番号を表示します。
IP アドレス	TeraStation の LAN ポート 1,2 の IP アドレスが表示されます。
ワークグループ	TeraStation のワークグループを表示します。
ディスク情報	TeraStation 内蔵のハードディスクの全容量、使用容量を表示します。
共有	[共有フォルダー] 選択時には、共有フォルダー数とディスク数を表示します。 [ユーザー / グループ] 選択時には、ユーザー数とグループ数を表示します。 [ネットワーク] 選択時には、DHCP の有効 / 無効とイーサネットフレームサイズを表示します。
I'm Here!	クリックすると TeraStation からメロディーが鳴ります。
ログアウト (画面上部右側に表示)	TeraStation の設定画面からログアウトします。

共有フォルダー

共有フォルダー		
共有フォルダー	共有フォルダー	[共有フォルダーの作成] をクリックすると新規共有フォルダー追加画面になります。 共有フォルダー名をクリックすると共有フォルダー情報編集画面になります。 共有フォルダーを選択して [削除] をクリックすると共有フォルダーを削除します。 ※ [検索] に文字を入力するとフォルダー名の頭文字と一致する候補が表示されます。表示された候補をクリックすると選択したフォルダーが選択された状態となります。 ※ [全ての共有フォルダー内のごみ箱を空にする] をクリックすると、ごみ箱内のデータを削除します。

<table>
<tr><td rowspan="10">共有フォルダー＞新しい共有フォルダー
共有フォルダー設定画面で[共有フォルダーの作成]をクリックすると表示されます。</td><td>他の共有フォルダー設定を流用</td><td>既存の共有フォルダーの設定を流用したい場合、流用元の共有フォルダーを選択します。</td></tr>
<tr><td>共有フォルダー名</td><td>共有フォルダーの名称入力します。
※ UTF-8 換算で 27bytes まで入力できます。
※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）が使用できます。
※先頭文字に記号を使用することはできません。</td></tr>
<tr><td>共有フォルダーの説明</td><td>共有フォルダーの説明を入力します。
※ UTF-8 換算で 75bytes まで入力できます。
※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）、半角 スペースが使用できます。
※先頭文字に記号を使用することはできません。</td></tr>
<tr><td>ディスク領域</td><td>共有フォルダーを作成するハードディスク領域を選択します。</td></tr>
<tr><td>共有フォルダー属性</td><td>共有フォルダーを読取専用にするか書込可能にするか選択します。</td></tr>
<tr><td>ごみ箱</td><td>設定された共有フォルダー、usbdisk の中のファイルを削除すると、共有フォルダー内に [trashbox] フォルダーが自動作成され、ファイルは移動され ます。
※ [trashbox] にはディレクトリ情報が保持されたまま移動されます。
※ [trashbox] フォルダーは、TeraStation の共有フォルダー、TeraStation に接続した USB ハードディスクにそれぞれ一つずつ設定ができます。
※ TeraStation に接続した USB ハードディスクにおいてゴミ箱機能を使用するためには、EXT3、XFS、FAT32 フォーマットである必要があります (NTFS、HFS+ フォーマットの場合は、ファイル削除ができないため)。
※ AFP 接続時は使用できません。
※ FTP 接続時は使用できません。</td></tr>
<tr><td>公開先</td><td>共有フォルダーの公開先を選択します。
<table>
<tr><td>公開先</td><td>説明</td></tr>
<tr><td>Win/MacOS(SMB)</td><td>Windows パソコンからの接続、MacOS からの SMB 接続での接続の可否を設定できます。</td></tr>
<tr><td>MacOS(AFP)</td><td>MacOS からの AFP（Appletalk）での接続の可否 を設定できます。</td></tr>
<tr><td>FTP</td><td>FTP 接続時操作できるフォルダーの可否を設定できます。
※あらかじめ［ネットワーク］-［ネットワーク］-［ネットワークサービス］で FTP を使用するよう設定が必要です。</td></tr>
<tr><td>バックアップ</td><td>バックアップ先として使用の可否を設定できます。</td></tr>
<tr><td>SFTP</td><td>SFTP で接続するときに選択します。</td></tr>
</table>
※［Win/MacOS(SMB)］、［MacOS(AFP)］、［FTP］［SFTP］のチェックをはずし、［バックアップ］にのみチェックを入れると、バックアップ元を設定した TeraStation からしか見えなくなり、バックアップ時のセキュリティが高くなります（逆にバックアップ先のフォルダーを Windows パソコンから見たい場合は［Win/MacOS(SMB)］にチェックを入れないと読み出すことができません）。</td></tr>
<tr><td>フォルダー属性</td><td>隠し共有 (SMB のみ) を選択した場合、設定した共有フォルダーは見えなくなります。
※公開先 [MacOS(AFP)][FTP][SFTP] のチェックボックスにチェックマークが表示されていると、[隠し共有] は選択できません。
※隠し共有にした共有フォルダーを開くには、[スタート]-[ファイル名を指定して実行] をクリックし、名前に　¥¥TeraStation 名¥共有フォルダー名$¥　と入力してください。
例：TeraStation 名 =TS-XL001、 共 有 フ ォ ル ダ ー 名 =share の 場 合、 ¥ ¥TS-XL001 ¥share $¥　となります。</td></tr>
<tr><td>バックアップ公開パスワード</td><td>ネットワーク経由で他の TeraStation から本製品にバックアップするとき、誤ってバックアップ先に選択されないようパスワードを設定することがで きます。
※半角英数字とハイフン (-)、アンダーバー (_) を UTF-8 換算で 8bytes まで入力できます。まで設定が可能です。
※ 1 文字目にハイフン（-）を使用することはできません。</td></tr>
</table>

	オフラインファイル	オフラインファイル機能を設定します。 [オフラインファイル 無効] オフラインファイル機能を使用しません。 [ドキュメントの手動キャッシュ] オフライン機能を使用します。オフラインで使用するファイルを自分で選択する必要があります。 [ドキュメントの自動キャッシュ] オフライン機能を使用します。開いたファイルをローカルにキャッシュしてオフラインで使用できるにします。以前のファイルで同期が取れていないものは自動的に削除され、新しいものに置き換えられます。 [プログラムとドキュメントの自動キャッシュ] オフライン機能を使用します。開いたファイルをローカルにキャッシュしてオフラインで使用できるにします。以前のファイルやネットワークから実行されるアプリケーションで同期が取れていないものは自動的に削除され、新しいものに置き換えられます。
	TeraSearch	共有フォルダーを TeraSearch 機能でインデックス作成対象にしたいときは、[インデックス作成対象にする] をクリックしチェックマークを表示させ、[保存] をクリックします。
アクセス制限 共有フォルダー作成画面で［アクセス制限］をクリックすると表示されます。	アクセス制限	アクセス制限機能を使用します。 [追加] をクリックし、公開する (アクセスを許可する) ユーザー名、グループ名を選択し、[追加] をクリックします。 ※ユーザーまたはグループを選択し、[削除] をクリックするとアクセス制限に関してユーザー、グループのアクセス登録が削除されます。 ※ AFP 接続時、FTP/FTPS/SFTP 接続時は、ユーザー単位のアクセス制限のみ設定が可能です。
DFS 機能 [設定変更] をクリックすると設定は変更できます。	DFS	Distributed File System(DFS) 機能を使用するかを選択します。
	DFS ルートに DFS リンクを設定する	DFS ルートに DFS リンクを設定するかを選択します。 DFS ルートに DFS リンクを設定することで、DFS ルートが通常の共有フォルダーのように表示 / 操作することができます。
	DFS ルートフォルダー名称	DFS ルートフォルダーの SMB 上での表示名称を入力します。 ※既に登録済みの共有フォルダー名は使用できません。 ※ UTF-8 換算で 27bytes まで入力できます。 ※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）が使用できます。 ※先頭文字に数字や記号を使用することはできません。
DFS リンク	リンクを追加する	リンク先の共有フォルダー名、リンク名、ホスト名を入力します。 SMB による名前解決が可能である環境の場合、ホスト名を用いた UNC を利用することができますが、名前解決ができない場合は IP アドレスを用いた UNC を入力する必要があります。
	リンクを削除する	選択した DFS リンクの設定を削除します。
ダイレクトコピー [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	ダイレクトコピー保存先	ダイレクトコピー保存先の共有フォルダーを変更することができます。
TeraSearch [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	TeraSearch	TeraStation の TeraSearch 機能 (テキスト検索) を使用するときは [使用する] を選択します。 [インデックス更新時間] では、インデックスを更新する時間を指定できます。 [今すぐインデックスを更新する] をクリックするとすぐにインデックスを更新します。

ユーザー / グループ

<table>
<tr><th colspan="3">ユーザー / グループ - ユーザー</th></tr>
<tr><td>ユーザー</td><td>ユーザー</td><td>ユーザー名、ユーザーID、ユーザーの説明、プライマリーグループを表示します。[ユーザーの作成]をクリックすると新規ユーザー作成画面になります。ユーザー名を選択して、[ユーザーの編集] をクリックするとユーザー編集画面になります。ユーザーを選択して [削除] をクリックするとユーザーを削除します。認証設定で [外部の SMB サーバーに認証を委任する] を選択していた場合に、[ローカルユーザーを外部認証ユーザーへ変換する] をクリックすると、TeraStation で登録したユーザーを外部の SMB サーバーの認証ユーザーに変換することができます。
[guest] を選択して [使用する][使用しない] をクリックすると [guest] の有効 / 無効を設定できます。
※ [検索] に文字を入力するとユーザー名の頭文字と一致する候補が表示されます。表示された候補をクリックすると選択したユーザーが選択された状態となります。
※出荷時設定では、[admin]、[guest] が設けられています。削除はできません。[guest] は無効にすることができます。
※ドメインでネットワークに参加しているときは、上記画面に [ドメイン ユーザー一覧] が追加表示されます。
※ [CSV 形式のデータを入力] では、ユーザー情報 (CSV 形式) を一括で取り込むことができます。</td></tr>
<tr><td rowspan="9">ローカルユーザー>新規ユーザー
ユーザー画面で［ユーザーの作成］をクリックすると表示されます。</td><td>ユーザー名</td><td>TeraStation に登録するユーザー名を入力します。
※ UTF-8 換算で 20bytes まで入力できます。マルチバイト文字を使用することはできません。
※半角英数文字、-(ハイフン)、_(アンダーバー)、.(ドット)、!、#、&、@、$、*、^、%が使用できます。
※先頭文字に記号を使用することはできません。
※ TeraStation に登録するユーザーのユーザーパスワードは、Windows 98SE/98/95 をお使いの方は UTF-8 換算で 15bytes 以上にしないでください。MacOS をお使いの方は UTF-8 換算で 9bytes 以上にしないでください。TeraStation の共有フォルダーにアクセスできなくなります。</td></tr>
<tr><td>ユーザー ID</td><td>ユーザー ID が空欄の場合、自動的にユーザー ID が割り当てられます。クオータ機能を使用するときは、手動で 1000 ～ 1999 の間の番号を他のユーザーと重複しないよう設定してください。</td></tr>
<tr><td>ユーザーの説明</td><td>ユーザーの説明を入力します。
※ UTF-8 換算で 75bytes まで入力できます。
※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）、半角ス ペースを使用できます。
※先頭文字に記号、半角スペースを使用する ことはできません。
※追加したユーザーは自動的に［hdusers］グループに所属します。所属 を他のグループに変更したいときは、グループ設定から行ってください。</td></tr>
<tr><td>パスワード</td><td>TeraStation のアクセスに必要なパスワードを入力します。
※ UTF-8 換算で 20bytes まで入力できます。マルチバイト文字を使用することはできません。
※半角英数文字、-(ハイフン)、_(アンダーバー)、@、!、#、$、%、&、'、(、)、*、+、,、.、/、;(セミコロン)、<、>、=、?、[、]、^、{、}、|(パイプ)、~(チルダ) が使用できます。
※先頭文字に記号（アンダーバー除く）を使用することはできません。
※ TeraStation に登録するユーザーのユーザーパスワードは、MacOS をお使いの方は半角英数 9 文字以上にしないでください。TeraStation の共有フォルダーにアクセスできなくなります。</td></tr>
<tr><td>確認用パスワード</td><td>確認のため再度入力します。</td></tr>
<tr><td>プライマリグループ</td><td>複数のグループに所属していた場合、どのグループをメインとするか選択します。グループにクオータ機能による容量制限が設定されていた場合、ここで選択したグループの容量制限となります。</td></tr>
<tr><td>ユーザークオータ</td><td>クオータ機能（ユーザー単位で、利用可能な容量を制限する機能）を使用する場合は、[設定する] をクリックし、チェックマークを表示させます。</td></tr>
<tr><td>クオータ警告容量</td><td>ユーザークオータ定めた容量を超えそうなとき、警告をメールで通知する容量（GB 単位）を設定します。</td></tr>
<tr><td>クオータ容量</td><td>利用可能な容量（GB 単位）を設定します。
※クオータ機能は、使用可能容量の制限のみをおこないます。それぞれのユーザーが使用している容量は確認できませんので、各自にて管理してください。 なお、所有者の確認は、各ファイルやフォルダーのプロパティ画面から、［セキュリティ］タブ　ー　［詳細設定］ボタンにて新たなウィンドウを開き、［所有者］タブにて確認することができます（所有者の確認手順は、OS ごとに異なります。上記は Windows XP の場合の例です）。</td></tr>
</table>

ドメインユーザー	ドメインユーザー	NT ドメイン、ActiveDirectory ドメインに参加している場合にドメインユーザーの一覧が表示されます。
ドメイングループ	ドメイングループ	NT ドメイン、ActiveDirectory ドメインに参加している場合にドメイングループの一覧が表示されます。
外部認証ユーザー一覧	外部認証ユーザー一覧	［ネットワーク］－［ワークグループ / ドメイン］－［認証設定］で［外部の SMB サーバーに認証を委任する］［ユーザーの自動登録を有効にする］が選択され、ユーザーが自動登録されているときは自動登録されたユーザーが一覧で表示されます。 ユーザーを選択し、［外部認証ユーザーの削除］をクリックすると、自動登録されたユーザーを削除することができます。

ユーザー / グループ - グループ		
グループ	グループ	グループ名、グループ ID、グループの説明を表示します。 [グループの作成] をクリックすると新規グループ作成画面になります。 グループ名を選択して、[グループの編集] クリックするとグループ情報編集画面になります。 グループを選択して [削除] をクリックするとグループを削除します。 ※ [検索] に文字を入力するとグループ名の頭文字と一致する候補が表示されます。表示された候補をクリックすると選択したグループが選択された状態となります。
ローカルグループ>新規グループ グループ画面で［グループの作成］をクリックすると表示されます。	グループ名	グループの名称を入力します。 ※ UTF-8 換算で 20bytes まで入力できます。マルチバイト文字を使用することはできません。 ※ -(ハイフン)、_(アンダーバー)、.(ドット) 以外の記号は使用できません。 ※先頭文字に記号を使用することはできません。
	グループ ID	グループ ID が空欄の場合、自動的にグループ ID が割り当てられます。クオータ機能を使用するときは、手動で 1000 ～ 1999 の間の番号を他のグループと重複しないよう設定してください。
	グループの説明	グループの説明を入力します。 ※ UTF-8 換算で 75bytes まで入力できます。 ※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）、半角スペースが使用できます。 ※先頭文字に半角スペースを使用することはできません。
	グループクオータ	クオータ機能（グループ単位で、利用可能な容量を制限する機能）を使用する場合は、[設定する] をクリックし、チェックマークを表示させます。
	クオータ警告容量	グループクオータ定めた容量を超えそうなとき、警告をメールで通知する容量（GB 単位）を設定します。
	クオータ容量	利用可能な容量（GB 単位）を設定します。 ※クオータ機能は、使用可能容量の制限のみをおこないます。それぞれのグループが使用している容量は確認できませんので、各自にて管理してください。 なお、所有者の確認は、各ファイルやフォルダーのプロパティ画面から、［セキュリティ］タブ　－　［詳細設定］ボタンにて新たなウィンドウを開き、［所有者］タブにて確認することができます（所有者の確認手順は、OS ごとに異なります。上記は Windows XP の場合の例です）。
ローカルユーザー / グループメンバー	ローカルユーザー	グループに所属させるユーザー名を選択し、[追加] をクリックすると、選択したユーザーをグループメンバーとして追加します。 ※ドメインコントローラーより取得したドメインユーザーはグループに所属させることはできません。
	グループメンバー	グループに登録しているユーザーが表示されます。登録しているユーザーを選択して、[削除] をクリックするとグループから登録を解除できます。

ネットワーク

ネットワーク		
IP アドレス設定 [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。 ※ LAN ポート 2 に接続した LAN ケーブルはイーサネット 2 で設定します。	DHCP	ネットワーク内に DHCP サーバーがあるとき、DHCP クライアント（IP アドレス自動割り当て）機能を利用できます。
	IP アドレス	[DHCP] を「使用しない」に設定したときに IP アドレスを設定します。
	サブネットマスク	サブネットマスクを設定します。
	デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイが存在するとき、IP アドレスで指定します。
	優先 DNS サーバーアドレス	優先する DNS サーバーの IP アドレスで指定します。
	代替 DNS サーバーアドレス	代替の DNS サーバーの IP アドレスを指定します。
	Wake on LAN	Wake on LAN 機能を [使用する] か [使用しない] か選択します。 ※ TS-XEL シリーズでは Wake on LAN 機能を搭載していません。
イーサネットフレームサイズ [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。 ※ LAN ポート 2 に接続した LAN ケーブルはイーサネット 2 で設定します。	イーサネットフレームサイズ	一回で転送できるデータの最大サイズを変更して転送効率を向上させることができます。 ・1518 バイト（デフォルト）　出荷時には 1518bytes に設定されています。 ・4102 バイト（Jumbo Frame）4102bytes で転送を行います。 ・7422 バイト（Jumbo Frame）7422bytes で転送を行います。 ・9694 バイト（Jumbo Frame）9694bytes で転送を行います。
ネットワークサービス	ネットワークサービス	**Web 設定画面 (通常)：**初期設定では「使用する」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、TeraStation の Web 設定画面を表示することができなくなります。 **Web 設定画面 (SSL 使用)：**初期設定では「使用する」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、TeraStation の Web 設定画面を SSL を使用しての表示ができなくなります。 **SMB：**初期設定では「使用する」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、SMB 接続で TeraStation にアクセスすることができなくなります。 **AFP：**初期設定では「使用する」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、共有フォルダー設定の公開先において [AFP] を追加しても Macintosh から AFP 接続できなくなります。 **FTP：**初期設定では FTP 機能を「使用しない」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、共有フォルダー設定の公開先において [FTP] を追加しても FTP 接続できなくなります。FTP 機能を使用するには、[使用する] に設定を変更します。 **バックアップ：**初期設定では「使用する」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、TeraStation をバックアップ / レプリケーション先として使用することができなくなります。 **NAS Navigator による検出：**初期設定では「使用する」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、NAS Navigator2 で検索したときに本製品が見つからないようになります。 ※ファームウェアをアップデートするときや、PC 連動電源機能を使用するとき、NAS 設定保存・復元ツールを使用するときは、[使用する] を選択してください。 **NFS：**初期設定では「使用する」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、NFS クライアントから TeraStation にアクセスすることができなくなります。 **SFTP：**初期設定では「使用する」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、SFTP 接続で TeraStation にアクセスすることができなくなります。 **Web アクセス：**初期設定では「使用する」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、Web アクセス機能で TeraStation にアクセスすることができなくなります。 **TeraSearch：**初期設定では「使用する」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、TeraSearch 機能を使用することができなくなります。 **PC 連動電源：**初期設定では「使用する」に設定されています。 ※ [使用しない] を選択したイーサネットに接続しているネットワークからは、PC 連動電源機能を使用することががきなくなります。 ※イーサネット 1、2 共に [使用しない] を選択した場合、TeraStation 背面の PC 連動電源スイッチを「AUTO」に設定すると、電源が自動で OFF になり電源が ON になりません。このようなときは、PC 連動電源スイッチを「MANUAL」にしてお使いください。 ※ PC 連動電源機能を使用するには、「NAS Navigator による検出」も有効である必要があります。
	SSL キーの編集	SSL のサーバ証明書と秘密鍵を更新するときに設定します。

ポートトランキング [設定変更]をクリックすると設定を変更できます。	ポートトランキング	TeraStation に LAN ケーブル 2 本接続してポートトランキングとして使用するときに設定します。選択できる項目は次のとおりです。 無効：ポートトランキングを使用しません。 Round-robin policy： 耐障害性と負荷バランシングに対するラウンド ロビン ポリシーで設定します。 Active-backup policy： 耐障害性に対するアクティブバックアップポリシーで設定します。 XOR policy： 耐障害性と負荷バランシングに対する XOR (exclusive-or) ポリシーで設定します。 Broadcast policy： 対障害性用のブロードキャストポリシーで設定します。 Dynamic link aggregantion： IEEE 802.3ad ダイナミックリンク集合ポリシーで設定します。 Adaptive transmit load balancing(TLB)： 対障害性とロードバランシング用の送信ロードバランシング (TLB) ポリシーで設定します。
ワークグループ/ドメイン [設定変更]をクリックすると設定を変更できます。	ネットワーク参加方法	ネットワークに参加する方法（ワークグループまたは NT ドメイン、ActiveDirectory ドメイン）を選択します。通常は［ワークグループ］を選択します。ドメインで参加するには Microsoft ネットワークドメインの設定を知っている必要があります。詳しくはネットワーク管理者にご確認ください。
	ワークグループ	ネットワーク参加方法にワークグループを選択したとき、Windows 搭載パソコン（Microsoft ネットワーククライアント）で TeraStation を所属させるグループ名を入力します。 ※ UTF-8 換算で 23bytes まで入力できます。 ※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）、.（ドッ ト）が使用できます。 ※先頭文字に記号を使用することはできません。
	WINS サーバーアドレス	WINS サーバーを利用する方は WINS サーバーの IP アドレスを入力してください。
	NT ドメイン名 (NetBIOS 名)	ネットワーク参加方法に NT ドメインを選択したとき Microsoft ネットワークのドメイン名を入力します。 ※ UTF-8 換算で 23bytes まで入力できます。 ※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）、.（ドット）が使用でき ます。 ※先頭文字に記号を使用することはできません。
	NT ドメインコントローラー名 (コンピューター名)	ドメインコントローラーのホスト名を入力します（ネットワーク参加方法で NT ドメインを選択時のみ）。ドメインでネットワークに参加させるときは、あらかじめドメインコントローラーに TeraStation の名称と同一名のコンピューターアカウントを登録しておく必要があります。 ※ UTF-8 換算で 63bytes まで入力できます。 ※半角英数文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）が使用できます。 ※先頭文字に記号を使用することはできません。
	ActiveDirectory ドメイン名（NetBIOS 名）	ネットワーク参加方法に ActiveDirectory ドメインを選択したとき ActiveDirectory ドメイン名（NetBIOS 名）入力します。 ※ UTF-8 換算で 23bytes まで入力できます。 ※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）、.（ドット）が使用でき ます。 ※先頭文字に記号を使用することはできません。
	ActiveDirectory ドメイン名 (DNS 名)	ネットワーク参加方法に ActiveDirectory ドメインを選択したとき ActiveDirectory ドメイン名（DNS 名）入力します。 ※ UTF-8 換算で 255bytes まで入力できます。マルチバイト文字を使用することはできません。 ※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）、.（ドット）が使用できます。
	Administrator パスワード	Administrator（管理者）のパスワードを入力します。 ※ [ネットワーク参加方法] で「NT ドメイン」または「ActiveDirectory ドメイン」を選択している場合、入力必須です。 ※ TF-8 換算で 256bytes まで入力できます。 ※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）が使用できます。 ※先頭文字に記号を使用することはできません。

ワークグループ/ドメイン [設定変更]をクリックすると設定を変更できます。	ActiveDirectoryドメインコントローラー名（コンピューター名）	ActiveDirectory ドメインコントローラーのホスト名を入力します（ネットワーク参加方法で ActiveDirectory ドメインを選択時のみ）。 ※ UTF-8 換算で 63bytes まで入力できます。 ※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）が使用でき ます。 ※先頭文字に記号を使用することはできません。
	Administratorユーザー名	Administrator（管理者）のユーザー名を入力します。 ※ [ネットワーク参加方法] で「NT ドメイン」または「ActiveDirectory ドメイン」を選択している場合、入力必須です。 ※ UTF-8 換算で 256bytes まで入力できます。 ※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）、.（ドット）が使用できます。 ※先頭文字に記号を使用することはできません。
	認証設定	[ネットワーク参加方法] に [ワークグループ] を選択したときに TeraStation へのアクセスを許可するユーザー認証方法を選択します。 ［TeraStation のローカルユーザーのみ認証する］ 通常はこちらを選択します。 TeraStation 設定画面で登録したユーザー（※）のみアクセスを許可します。 ※ TeraStation に登録するローカルユーザーのユーザー名・パスワードは、Windows ログオン時のユーザー名・パスワードと一致させてください。 ［外部の SMB サーバーに認証を委任する］ TeraStation にアクセスするユーザーの権限を認証サーバーで連携をとり、TeraStation へアクセス許可をさせたいときに選択します。 認証サーバーと連携するには、Microsoft ネットワークを知っている必要があります。詳しくはネットワーク管理者にご確認ください。 ［認証サーバーとして Windows ドメインコントローラーを使用する］ （TeraStation 自体はドメインには参加しませんが）ドメインコントローラーに対してユーザー認証を行ないたいときに選択します。 ※ Windows ドメインコントローラーを外部の SMB 認証サーバーとして指定する場合は、TeraStation のワークグループ名を Windows ドメインコントローラーのドメイン名と一致させる必要があります。 ［ユーザーの自動登録を有効にする］ 認証サーバーから許可を受けたユーザーを TeraStation の認証ユーザー一覧へ自動的に登録する場合に選択します。 使用例 : 自動登録で一定期間ユーザーを取得してから、自動取得を無効にすることで認証テスト用共有フォルダーにアクセスしたユーザーが勝手に増えてしまうことを防ぐことができます。 ［認証テスト用共有フォルダーを使用する］ 認証サーバーへ登録してあるユーザーがアクセスできるフォルダーを認証テスト用フォルダーとして使用します。
	認証サーバー名または IP アドレス	認証方法で［外部の SMB サーバーに認証を委任する］を選択した際に、ユーザー認証で用いる外部のサーバーをサーバー名またはサーバーの IP アドレスで指定します。 ※ AFP 接続や FTP/FTPS/SFTP 接続時は IP アドレスで指定してください。サーバー名では認証できないことがあります。 ※別セグメント（ルータ越えのネットワークなど）のサーバーを指定する際は IP アドレスを 入力してください。

ワークグループ/ドメイン [設定変更]をクリックすると設定を変更できます。	名称	認証方法で［外部のSMBサーバーに認証を委任する］、［ユーザーの自動登録を有効にする］、［認証テスト用共有フォルダーを使用する］を選択した際に、認証テスト用共有フォルダーのフォルダー名を指定します。認証テスト用共有フォルダーを開いたユーザーを自動的にTeraStationのユーザーとして登録することができます。 ※認証テスト用共有フォルダーは2個以上作ることはできません。 ※自動登録されたユーザーは「hdusers」グループに所属します。 ※認証テスト用共有フォルダー名に既存の共有フォルダー名は使用できません。 ※UTF-8換算で27bytesまで入力できます。 ※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）が使用できます。 ※先頭文字に数字や記号を使用することはできません。 ※AFP接続、FTP/FTPS/SFTP接続では、認証サーバー連携でユーザー情報を取得することはできません。
NFS	NFSサービス [設定変更]をクリックすると設定を変更できます。	NFS(Network File System)クライアント(UNIX系OS)からTeraStationの共有フォルダーへアクセスしたいときは、[使用する]を選択します。 公開先ネットワークアドレスと公開先サブネットマスクを入力してアクセス制限することもできます。 NFS動作モードでは､「ユーザーモード」または「カーネルモード」を選択します。レプリケーション機能を使用する場合は、ユーザーモード、VMware ESX/ESXiで使用する場合はカーネルモードを設定してください。
	NFSフォルダー設定	NFSとして公開するフォルダーをクリックします。クリックしたフォルダーのNFSパスが表示されます。NFSクライアントからアクセスするときは、NFSは有効を選択ください。
	NFSクライアント設定	[クライアントの追加]をでNFSクライアント(UNIX系OSなど)の追加を行います。追加するには、NFSクライアントのIPアドレスとホスト名を入力します。 [クライアントの削除]で選択したクライアントを削除することができます。

システム

システム - 基本		
名称設定 [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	名称	ネットワーク上で TeraStation を認識する名前を入力します。 ※ UTF-8 換算で 15bytes まで入力できます。マルチバイト文字を使用することはできません。 ※半角英数文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）を使用できます。 ※先頭文字に記号を使用することはできません。
	説明	ネットワーク上の TeraStation の名称を補足説明を入力します。 ※ UTF-8 換算で 75bytes まで入力できます。 ※半角英数文字、マルチバイト文字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）、半角スペースを使用できます。 ※先頭文字に半角スペースを使用することはできません。 ※ Windows でのみ表示されます。Macintosh では表示されません。
時刻設定 [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	NTP 機能	ネットワークを通じて時刻を修正する NTP 機能を使用する場合は、[自動] を選択します。手動で時刻を設定する場合は [手動] をします。
	NTP サーバーアドレス	NTP サーバーの DNS 名 (FQDN) または IP アドレスを入力します。 入力例：ntp.jst.mfeed.ad.jp　または　192.168.11.123 [デフォルトの NTP サーバー (ntp.jst.mfeed.ad.jp) を使用する] を選択すると ntp.jst.mfeed.ad.jp を NTP サーバーとして指定します。
	NTP 更新頻度	NTP サーバーにアクセスする（時間を調整する）タイミングを [1 日に 1 回]、[1 週間に 1 回]、[3 時間に 1 回]、から選択します。 ※プロキシサーバー等を通して NTP サーバーへアクセスする場合、ネットワーク環境によってはプロキシサーバー外部の NTP サーバーへのアクセスが失敗することが あります。
	タイムゾーン	タイムゾーンを指定します。 ※日本国内ではタイムゾーンを [(UTC+09:00 大阪、札幌、東京)] 以外に設定を変更しないでください。
	年月日	年月日を表示します。数字を入力して年月日を変更できます。
	時刻	時刻を表示します。数字を入力して時刻を変更できます。 ※ [設定中の PC から時刻 (またはタイムゾーン) を取得] をクリックすると、パソコンの時計から時刻 (またはタイムゾーン) を取得します。 ※ TeraStation 内蔵の時計は長期間使用すると時間がずれることがあります。NTP 機能で自動的に修正することをおすすめします。
言語設定 [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	表示言語	使用する言語を選択します。 ※表示言語は、「日本語 (Japanese)」でお使いください。本製品では、日本語以外の言語での使用はサポートしておりません。
	Windows クライアント言語	Windows クライアントで使用する言語を選択します。 ※ Windows クライアント言語は、「日本語 SJIS(CP932)」でお使いください。本製品では、日本語以外の言語での使用はサポートしておりません。

<table>
<tr><th colspan="3">システム - ディスク</th></tr>
<tr><td>ディスク</td><td>ディスクチェック</td><td>TeraStation に内蔵のハードディスクおよび USB コネクターに増設したハードディスクをチェックします。使用している容量によってチェックに必要な時間は異なります（数十分間～数十時間）。
※バックアップを設定しているときは、ディスクチェックは実行できません。
※ディスクチェック中はファイル共有サービスが停止します。
Mac OS から接続中に、停電など正常な手段で接続が解除できなかった場合、Mac OS が作成するデータベース等が破損し､接続できなくなることがあります。このようなときは［Mac OS の固有情報を削除］を選択し、ディスクチェックを実行してください。下記のファイルが全て（サブディレクトリ含む）を削除され、接続できるようになることがあります。
・.AppleDB
・.AppleDesktop
・.AppleDouble
・TheVolumeSettingsFolder
・Network Trash Folder
※ディスクチェックを実行する前に本 TeraStation が他の TeraStation のバックアップデバイスとして設定されていないことを確認して下さい。バックアップデバイスとして設定されている場合はディスクチェックを実行しないでください。
※以下のハードディスクはディスクチェックをすることができません。
・NTFS 形式でフォーマットされた USB ハードディスク
・HFS+ 形式でフォーマットされた USB ハードディスク
※ FAT32 形式でフォーマットされた 1TB 以上の USB ハードディスクは、ディスクチェックに非常に長い時間がかかります。このような USB ハードディスクをチェックしたいときは、Windows 搭載パソコンに接続して OS のエラーチェック機能でご確認することをおすすめします。</td></tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>ディスク</td>
<td>ディスクフォーマット</td>
<td>TeraStation および USB コネクターに増設したハードディスクをフォーマットします。フォーマットを実行すると、データは全て消去されます。大切なデータを失うことのないようご注意ください。ハードディスクの容量によってフォーマットに必要な時間は異なります（数分間）。
※バックアップを設定しているときは、フォーマットは実行できません。

警告：TeraStation(本製品) が他の TeraStation/LinkStation のバックアップデバイスとして設定されている場合フォーマットを実行しないで下さい。

※フォーマット形式について
以下の形式をフォーマット / または認識することができます。
<table>
<tr><th>フォーマット形式</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>EXT3
(USB ハードディスクのみ)</td><td>TeraStation に接続しなおして使用することがある場合におすすめします。
・読取 / 書込どちらもできます。
・ジャーナリングファイルシステム対応。
・フォーマットに時間がかかります (数分～数十分)。
・フォーマット後に使用できる容量が XFS に比べて少ない。
・1 つのフォルダーにファイルの数が多くなるほどアクセスが遅くなります。
※ USB ハードディスクをパソコンに直接接続して読み出すには、付属の EXT3 リーダーをお使いください。</td></tr>
<tr><td>XFS
(USB ハードディスク /TeraStation 内蔵ハードディスク)</td><td>TeraStation で増設したハードディスクを使用する場合におすすめします。
・読取 / 書込どちらもできます。
・ジャーナリングファイルシステム対応。
・フォーマット後に使用できる容量が EXT3 に比べて多い。
・1 つのフォルダーにファイルの数が多くなってもアクセスが遅くならない。
古い LinkStation(HD-LAN、HD-HLAN、HD-HLWG、HD-HGLAN シリーズ等) では使用できません。
※パソコンに直接接続しても読み出しできません。</td></tr>
<tr><td>FAT32
(USB ハードディスクのみ)</td><td>ハードディスクをパソコンに接続しなおしてデータを確認したい場合におすすめします。
万が一 TeraStation が故障しても、Windows パソコンに接続して使用することができます。
・読取 / 書込どちらもできます。
・1 ファイル 4GB 以上のデータはコピー、バックアップ、レプリケーションできません。
・「：」など Mac OS X で使用する一部の文字が使用できません。</td></tr>
<tr><td>NTFS
(USB ハードディスクのみ)</td><td>TeraStation の設定画面ではフォーマットできません。Windows 7/Vista/XP/2000、Windows Server2003/Server2008 に接続して使用することができます。
※ TS-XHL シリーズ以外の製品では、読取専用となります (バックアップ、レプリケーション時も書き込み不可)。</td></tr>
<tr><td>HFS+
(USB ハードディスクのみ)</td><td>TeraStation の設定画面ではフォーマットできません。読取専用です。
Mac OS X 10.3.9 以降に接続して使用することができます。
・読取専用 (バックアップ、レプリケーション時も書込不可)</td></tr>
</table>
※ 2.2TB を超える USB 接続ハードディスクを TeraStation に接続する場合、[GPT でパーティショニングする] を選択することをおすすめします。選択しない場合、容量が正しく認識されないことがあります。ただし、Windows 7/Vista、Windows Server2003 ServicePack1 以降、Windows Server2008、Mac OS X10.4 以降のパソコンおよび GPT 対応の TeraStation/LinkStation(TS-XL、TS-XEL、TS-WXL、LS-XHL、LS-CHL シリーズ等) 以外では認識できなくなりますのでご注意ください。</td>
</tr>
</table>

ディ スク	ディスクの取り外し	ハードディスクを選択し [ディスクの取り外し] をクリックすると、ハードディスクの取り外せる状態に移行します。
	ディ スク の再認識	取り外し処理を行ったハードディスクを物理的に取り外して別のハードディスクに交換した後、TeraStation 本体の再起動することなく認識させたいときにクリックします。
RAID アレイ	RAID アレイ	RAID アレイ画面で名称をクリックすると表示されます。 RAID をまだ設定していないときは、次の RAID アレイを選択できます。 TS-XHL シリーズ：[RAID6]、[RAID5]、[RAID1]、[RAID10]、[RAID0] TS-XL、TS-XEL シリーズ：[RAID5]、[RAID1]、[RAID10]、[RAID0] TS-WXL シリーズでは [RAID1]、[RAID0] どれも選択しない場合、通常モード (4 つのハードディスク) として使用されます。 構成ディスク： RAID を構成しているハードディスクを表示しています。RAID を設定するときは、使用するハードディスクをチェックし、RAID モードを選択して [RAID アレイの作成] をクリックします。 ・RAID1 を設定（構築）するときは、使用するディスク 2 台をクリックしチェックマークをつけます。 ・RAID10、RAID0 を設定（構築）するときは、全てのディスクをクリックしチェックマークをつけます。 ※ TS-WXL シリーズでは RAID10 に設定することはできません。 ・RAID5 を設定（構築）するときは、全てまたは 3 台のディスクをクリックしチェックマークをつけます。 ※ TS-WXL シリーズでは RAID5 に設定することはできません。 ・RAID 構成を削除するときは、[RAID アレイの削除] をクリックします。 ※ RAID の設定を変更・削除するとハードディスク内のデータも削除されます。大切なデータは必ずバックアップをとってから行ってください。 ※ RAID5(ハードディスク 3 台) または RAID1 を構築したときに、通常モードのハードディスクがある場合、[スペアディスクに設定] をクリックするとスペアディスクに設定できます。既にスペアディスクに設定されているときは [通常ディスクに設定] をクリックすると通常モードのハードディスクになります。 ※ TS-WXL シリーズでは [スペアディスクに設定] は表示されません。

<table>
<tr>
<td>RAID メンテナンス
[設定変更] をクリックすると設定を変更できます。</td>
<td>RAID メンテナンス</td>
<td>RAID メンテナンスとは、RAID1、5、6、10 を構築しているハードディスクのデータ領域に対して、全セクター読込チェックを行う機能です。
チェック中に発見した修復できるエラー※（不良セクター）は、自動修復します。
また、通常のファイル操作で発見された修復できるエラー※については、RAID メンテナンス機能を使用する、しないにかかわらず自動的に修復します。

<table>
<tr><td>状態</td><td>説明</td></tr>
<tr><td>修復できるエラー※</td><td>・RAID1、5、6、10 で構成されているデータ領域中のリードエラー
（システム領域 RAID1 を含む）</td></tr>
<tr><td>修復できないエラー</td><td>・書き込みエラー
・RAID 管理領域のエラー
・ドライブパーティション情報領域のエラー
・ドライブ識別不良　など</td></tr>
</table>
RAID を構築するハードディスクの一つに、修復できるエラー※（不良クラスター）が多く検出された場合、該当ディスクを除いた状態で、縮退（デグレード）モードに自動的に移行します。デグレードモードでは、データの保護状態ではないため、早急なエラーハードディスクの交換を強くお薦めします。
RAID メンテナンス機能を初めて実行する場合は、予め TeraStation 内のデータのバックアップを強くお薦めします。

RAID メンテナンス：
RAID メンテナンスを使用するかしないか設定します。
実行スケジュール：
RAID メンテナンスを実行するスケジュールを選択します。
・毎週 [日 - 土] 曜日
・第 1 [日 - 土] 曜日
・第 2 [日 - 土] 曜日
・第 3 [日 - 土] 曜日
・第 4 [日 - 土] 曜日
・第 1、3 [日 - 土] 曜日
・第 2、4 [日 - 土] 曜日
・毎月 1 日
[今すぐ実行] を選択して、[保存] をクリックするとすぐに実行できます。
開始時刻：
RAID メンテナンス機能を開始する時刻 (0 ～ 23 時) を選択します。
※ RAID メンテナンス機能実行を中止したいときは、[RAID メンテナンスの中断] をクリックしてください。

RAID アレイチェックの速度は次から選択できます。
高：ハードディスク 1 台あたり 1TB の製品でおよそ 10 時間
中：ハードディスク 1 台あたり 1TB の製品でおよそ 20 時間
低：ハードディスク 1 台あたり 1TB の製品でおよそ 100 時間

障害発生時のシャットダウン：
RAID アレイにエラーが発生したとき、データを保護するため自動的にシャットダウンします (RAID1、5、6、10 で使用しているときのみの機能で す。通常モード、RAID0 では機能しません)。
初期設定では、「行わない」に設定されています。</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="3">システム - バックアップ</th></tr>
<tr><td rowspan="2">Link/TeraStation 一覧を表示</td><td>検出済み Tera/LinkStation 一覧</td><td>ネットワーク上にある LinkStation/TeraStation（※）の一覧を表示します。
［更新］をクリックすると一覧を最新の情報に更新します。
※注意：ネットワーク経由のバックアップに対応した LinkStation/TeraStation のみ表示されます。</td></tr>
<tr><td>検索対象 IP アドレス</td><td>一覧に表示されない LinkStation/TeraStation（※）があった場合、または異なるネットワークにある LinkStation/TeraStation（※）を追加する場合は、LinkStation/TeraStation（※）の IP アドレスを入力し、［追加］をクリックします。追加した LinkStation/TeraStation（※）を選択し［削除］をクリックすると、登録を削除できます。
※注意：ネットワーク経由のバックアップに対応した LinkStation/TeraStation のみ登録することが可能です。</td></tr>
<tr><td>バックアップ先検索用パスワード
[設定変更] をクリックすると設定を変更できます</td><td>検索用パスワード</td><td>ネットワーク経由で他の TeraStation の共有フォルダーをバックアップ先にしたい場合に入力します。他の TeraStation で共有フォルダーに設定したバックアップ検索パスワードを入力します。入力しない場合、認証用パスワードを設定した共有フォルダーへのバックアップはできません。
※バックアップ元 TeraStation に入力できる「バックアップ先検索用パスワード」は一つのみです。
※「バックアップ公開用パスワード」が異なる共有フォルダーを、同時にバックアップ先として設定することはできません。
※「バックアップ先検索用パスワード」を入力によるバックアップ先共有フォルダーの検索は、バックアップ元以外の別の TeraStation にのみ有効です。

■設定手順
1．バックアップ先の TeraStation の設定画面にて共有フォルダーのそれぞれに、「バックアップ公開用パスワード」を設定します。
2．バックアップ元 TeraStation のバックアップ設定時、バックアップ先として表示させたい共有フォルダーに設定した「バックアップ公開用パスワード」と同一のパスワードを「バックアップ先検索用パスワード」に設定します。
3．バックアップ元 TeraStation にて、バックアップ設定を行います。
バックアップ先共有フォルダーは以下より選択することができます。※
・バックアップ元 TeraStation 内の共有フォルダー
・バックアップ元 TeraStation に接続されている USB ハードディスク
・バックアップ先 TeraStation 内の「バックアップ公開用パスワード」が設定されていない共有フォルダー
・バックアップ先 TeraStation 内の「バックアップ公開用パスワード」が「バックアップ先検索用パスワード」と一致している共有フォルダー
※共有フォルダー設定時に公開先として「バックアップ」が有効になっている必要があります。

■設定例
バックアップ先 TeraStation の設定
<table><tr><td>共有フォルダー名</td><td>share1</td><td>share2</td><td>share_free</td></tr><tr><td>バックアップ公 開用パスワード</td><td>111</td><td>222</td><td>なし</td></tr></table>
■設定例
バックアップ元 TeraStation の設定
<table><tr><td>バックアップ元 TeraStation の「バックアップ先検索用パスワード」に
「111」と設定した場合に表示されるバックアップ先共有フォルダー</td><td>表示</td><td>非表示</td><td>表示</td></tr><tr><td>バックアップ元 TeraStation の「バックアッ プ先検索用パスワード」に
「222」と設定した場合に表示されるバックアップ先共有フォルダー</td><td>非表示</td><td>表示</td><td>表示</td></tr><tr><td>パスワードを入れない場合に表示されるバックアップ先共有フォルダー</td><td>非表示</td><td>非表示</td><td>表示</td></tr></table></td></tr>
</table>

バックアップ設定	バックアップ設定	[バックアップタスクの追加] をクリックして、バックアップタイマー設定を最大 8 個設定することができます。タスクをクリックするとバックアップ設定画面が表示されます。 TeraStation に保存されているデータを、時間設定して自動的に USB 外付けディスク、又は別の Link/TeraStation にバックアップします。 ※バックアップ機能を USB ディスクに対し使用する場合、USB ディスクのフォーマット形式は FAT32、XFS、EXT3 である必要があります（USB ハードディスクのフォーマット形式は TeraStation 設定画面［システム］－［ディスク］に表示されています）。 ※ USB ディスクのフォーマット形式が FAT32 の場合、バックアップ可能な最大ファイルサイズは 4GB となります。 ※バックアップ実行中は TeraStation に接続されている LAN ケーブルや、USB ディスクの取り外しは絶対に行わないでください。 ※バックアップ実行中に TeraStation の初期化、フォーマット、ディスクチェック、バックアップ設定、及び共有フォルダー・ユーザーグループ・ユーザーの追加・編集・削除を行わないでください。行った場合、エラー終了することがあります。 ※スケジュールバックアップ（毎日 / 毎週）でエラーが発生した場合、以降エラーの発生したバックアップタスクは実行されません。エラーの発生したバックアップタスクを再設定することで、バックアップを行うことができます。ただし、「エラー終了した場合も強制的に次回バックアップを実行する」のオプションが設定されている場合は、この限りではありません。

<table>
<tr><td rowspan="4">バックアップ設定
バックアップ設定画面で[バックアップタスクの追加]をクリックすると表示されます。</td><td>タスク名</td><td>任意のバックアップタスクの名称を決めて入力します。</td></tr>
<tr><td>バックアップ実行スケジュール</td><td>実行するスケジュールを[未実行][今すぐ実行][毎日][毎週][第1][第2][第3][第4][第1、3][第2、4][毎月1日]から選択します。</td></tr>
<tr><td>バックアップ実行日時</td><td>バックアップを実行する曜日や時刻を選択します。</td></tr>
<tr><td>バックアップ動作モード</td><td>バックアップ動作モードを下記から選択します。
・通常バックアップ
・上書きバックアップ（増分バックアップ）
・上書きバックアップ（差分バックアップ）
・履歴管理バックアップ
※「上書きバックアップ（差分）」を使用した場合、コピー元に存在しないコピー先のファイルは削除確認画面もなく削除されます。必要なデータを消失しないようご注意ください。
※通常バックアップ以外の動作モードはデータをバックアップ先に全て上書きします。必要なデータを消失しないようご注意ください。
※バックアップ実行中に、バックアップ元フォルダー内のファイルを操作（ファイル名の変更/削除など）しないでください。操作するとバックアップがエラー終了することがあります。このようなときは、エラー終了後、再度バックアップを行ってください。

それぞれの動作モードでの動 作の内容は下記の表の通りです。
バックアップオプションで［バックアップ元が識別可能なフォルダーを作成する］を選択したかで動作は大きく異なります。
※バックアップ先フォルダーを「/target」とした場合の例で説明しています。
・USBハードディスクにバックアップした場合、下記の「target」は「usbdisk*」と表示されます。
*には1～2の数字が入ります。
・TeraStationにバックアップした場合、下記の「target」はバックアップ先共有フォルダー名が表示されます。
・バックアップログはバックアップ元フォルダー内に以下の名前で作成されます。
backuplog（バックアップタスク番号）_（バックアップ開始時刻）.txt
例　2004年3月27日19時55分の場合、”backuplog1_200403271955.txt” が作成されます。
※バックアップモードが、『上書き（差分）』設定時、バックアップの設定内容によってはバックアップ先のデータを削除する場合があります。

<table>
<tr><td colspan="4">■通常
（毎回全てのファイルをバックアップを上書きしないでコピーする）</td></tr>
<tr><td>バックアップ元が識別可能なフォルダー</td><td>バックアップ元フォルダー</td><td>バックアップ先フォルダー・結果</td><td>備考</td></tr>
<tr><td rowspan="2">作成する（強制）</td><td>/share</td><td>/target/（日時）*1/share</td><td></td></tr>
<tr><td>/share/folder</td><td>/target/（日時）*1/folder</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

バックアップ設定

バックアップ設定画面で [バックアップタスクの追加] をクリックすると表示されます。

バックアップ動作モード

■上書き（増分） （ファイルサイズ / タイムスタンプ *2 に変化のあるファイルのみ上書きコピーする）			
バックアップ元が識別可能なフォルダー	バックアップ元フォルダー	バックアップ先フォルダー・結果	備考
作成する	/share	/target/_backups/	
	/share/folder	/target/_backups/folder	
作成しない	/share	/target	
	/share/folder	/target/folder	

■上書き（差分） （ファイルサイズ / タイムスタンプ *2 に変化のあるファイルのみ上書きコピーする） ※バックアップ先にのみ存在するファイル / フォルダーは 削除されます。			
バックアップ元が識別可能なフォルダー	バックアップ元フォルダー	バックアップ先フォルダー・結果	備考
作成する	/share	/target/_backups/	
	/share/folder	/target/_backups/folder	*3
作成しない	/share	/target	
	/share/folder	/target/folder	*3

*1　日時には、バックアップ開始時刻を、yyyymmddhhmm 形式で作成 されます。
例　2004 年 3 月 27 日 19 時 55 分の場合、フォルダー名は "200403271955" と表示されます。

*2　ここでの「タイムスタンプ」とは Windows、Macintosh から確認が できる時刻情報ではなく、TeraStation が管理している時刻情報です。

*3　バックアップフォルダーより上の共有フォルダー内でのファイルの差異が合った場合は、ファイル削除されることはありません。

■履歴管理バックアップ

※ TS-XHL シリーズのみに搭載している機能です。

バックアップ実行する度に管理情報を保持し、変更があったファイルのみコピーまたは削除します。変更のないファイルは以前のバックアップファイルから情報を引き出します (以前のバックアップしたファイルが破損した場合､参照できなくなります)。容量を抑えてバックアップしたいとき、ある時点の状態を参照できるようにしたい (スナップショットのような用途として使用したい) ときに用います。

[管理世代数] にはバックアップするデータを何回分保存しておくか選択してください (無制限、1 〜 10)。

・履歴管理バックアップ先に指定できるのは TeraStation の共有フォルダーおよび TeraStation に接続した USB ハードディスクのみです。
・指定された共有フォルダー、USB ハードディスクの共有フォルダーは読み取り専用に変更されます。
・FAT フォーマットされた USB ディスクには正しくバックアップすることができません。

バックアップ設定 バックアップ設定画面で[バックアップタスクの追加]をクリックすると表示されます。	バックアップオプション	［バックアップ元が識別可能なフォルダーを作成する］ バックアップ動作モードで選択した項目によって動作が大きく異なります。動作モードに記載の表をご参照ください。 ［バックアップログファイルを作成する］ バックアップのログファイルを作成します。 ※バックアップ元が他の TeraStation/LinkStation の場合、バックアップログは作成されません。 ［暗号化転送を使用する］ バックアップする際データを暗号化して転送するかしないか選択します。 ※暗号化を有効にするとスループットが低下します。 ※バックアップ先が USB ハードディスクの場合、選択しないでください。 ［圧縮転送を使用する］ バックアップする際データを圧縮してから転送するかしないか選択します。 ※ネットワーク経由でバックアップをするときに、ネットワーク帯域がせまい場合に、圧縮転送すると転送速度が向上することがあります（データを 1 つのアーカイブにしてバックアップするわけではありません）。 ※バックアップ先が USB ハードディスクの場合、選択しないでください。 ［エラー終了した場合も強制的に次回バックアップを実行する］ エラー終了していても、次回のバックアップを実行します。 ［ゴミ箱 (trashbox フォルダー) をバックアップしない］ ゴミ箱の中のデータをバックアップ対象から外します。 ［変更がないファイルも上書きを実施する］ 変更されていないファイルも上書きします。
バックアップフォルダー バックアップ設定画面でタスク番号をクリックすると表示されます。	バックアップフォルダー	バックアップ元とバックアップ先の共有フォルダーを選択し［追加］をクリックします。 バックアップ先共有フォルダーは、以下のフォルダーを選択することができます。 ・［Link/TeraStation 一覧を表示］で表示される Link/TeraStation の共有フォルダー ・バックアップ元 TeraStation に接続されている usbdisk1、usbdisk2 ※フォルダー名に半角カタカナを含むフォルダーをバックアップ元フォルダーとして指定しないでください。含まれる場合、バックアップはエラー終了します。
レプリケーション	レプリケーション	[追加] をクリックすると、レプリケーション元の共有フォルダーとレプリケーション先の他の TeraStation/LinkSration の共有フォルダーを選択画面を表示します。レプリケーション元に保存したデータは自動的にレプリケーション先の共有フォルダーに書き込まれます。 レプリケーションの設定を選択して、[削除] をクリックすると設定を削除します。 [再同期] をクリックするとレプリケーション先のフォルダーにレプリケーション元のデータを差分上書きコピーします。

システム - メンテナンス		
メール通知設定 [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。 [テストメール送信] をクリックすると設定されたメールアドレスへテストメールを送信します。	メール通知機能	メール通知機能を使用するか選択します。
	SMTP サーバーアドレス	SMTP サーバーアドレス（メールサーバーアドレス）を入力します。
	SMTP ポート番号	SMTP ポート番号を入力します。 ※指定のない場合は標準のポート番号（25）が使用されます。また、ユーザー認証方式を「使用しない」や「pop before smtp」に設定した場合は、この欄に入力した番号にかかわらず、標準のポート番号（25）が使用されます。
	ユーザー認証方式	ユーザー認証方式を、「POP before SMTP」「LOGIN(SMTP-AUTH)」「CRAM-MD5(SMTP-AUTH/CRAM-MD5)」から選択します。
	POP3 サーバーアドレス	POP3 サーバーアドレス (メールサーバーアドレス) を入力します。
	POP3 ポート番号	POP3 ポート番号を入力します。 ※指定のない場合は、標準ポート (110) が使用されます。
	SSL/TLS	ユーザー認証方式に「LOGIN(SMTP-AUTH)」「CRAM-MD5(SMTP-AUTH/CRAM-MD5)」を選択した際に、「SSL」「TLS」のどちらを用いるか指定します。
	ユーザー名	認証で使用するユーザー名を入力します。
	パスワード	認証で使用するパスワードを入力します。
	通知メール件名	送信するメールの件名を指定します。 ※半角文字にしてください。マルチバイト文字を使うと文字化けすることがあります。
	送信先メールアドレス	送信先メールアドレスを入力し、[追加] をクリックします。 ※最大 5 つのメールアドレスを送信先として登録できます。
	レポート	メール通知で送信する内容を選択します。 ・HDD 状態定期報告 ［HDD 状態送信時刻］で設定した時刻に TeraStation のハードディスク状態を送信します。 ・システム通知 システムの起動、シャットダウン時、RAID 構成変更時に送信します。 ・ディスクに異常が発生した時 TeraStation のハードディスクに異常が発生した時に送信します。 ・ファンに異常が発生した時 TeraStation のファンに異常が発生した時に送信します。 ・バックアップが完了した時 TeraStation のバックアップが完了した時に送信します。 ・クオータ警告通知 クオータの容量制限を越えているときは、HDD 状態定期報告で指定した時刻に送信します。
システムログ [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	システムログ	ログ情報転送 [使用する] を選択し [保存] をクリックするとシステムログを転送することができます。 ログの閲覧から [システムログ] [ファイル操作ログ (SMB)] [ファイル操作ログ (FTP)] を選択し、ログを閲覧することができます。[システムログ] [ファイル操作ログ (SMB)] は、[syslog サーバー IP アドレス] に syslog サーバーの IP アドレスを入力し、ログを転送することもできます。 ※ [ファイル操作ログ (FTP)] は syslog サーバーにログを書き出すことはできません。 [ログへのリンクを共有フォルダーに作成する] ログへのリンクを共有フォルダーに作成する [使用する] を選択し、対象共有フォルダーを選択すると、共有フォルダー内に、システムログを参照するためのリンクを作成します。選択した共有フォルダーの下に "log" というフォルダーが表示され、その中に各種ログファイルが表示されます。 ※ファイル操作ログは、内蔵ディスクに対するファイル操作のみ記録されます。USB ディスクへのファイル操作に関してはログに記録されませんのでご注意ください。

警告音設定 [設 定 変 更] を クリックすると設定を変更できます。	警告音条件設定	［温度が超過した時］、［ディスクに異常が発生した時］、［ファンに異常が発生した時］、［UPS 電源異常を検知した時］から警告音を鳴らす条件を選択します。
表示パネル設定 [設 定 変 更] を クリックすると設定を変更できます。	LCD 表示項目設定	TeraStation 前面の液晶ディスプレイ表示させる項目を [ホスト名 /IP アドレス]、[ディスクモード]、[時刻]、[HDD 使用量] から選択します。
	LCD 表示自動切替	液晶ディスプレイに表示させている項目を自動的に切り替えるかどうかを設定します。
	LCD バックライト設定	液晶ディスプレイのバックライトの明るさを 5 段階調整します。
	LED 輝度設定（通常時）	TeraStation 前面の LED ランプの明るさを 5 段階調整します。
	LED 輝度時刻連動設定	LED の輝度を時刻と連動して可変させる機能を使用するか選択します。例えば、昼間と夜間で別の輝度に設定することができます。
	LED 輝度設定（減光時）	減光時の LED ランプの明るさを 4 段階調整します。
	LED 輝度減光時刻	LED 輝度を減光設定にする時刻（0 ～ 23 時）を設定します。1 時間刻みの 00 分ごとに設定できます。
	LED 輝度通常時刻	LED 輝度を通常設定に戻す時刻（0 ～ 23 時）を設定します。1 時間刻みの 00 分ごとに設定できます。
再起動	再起動	［再起動］をクリックすると TeraStation が再起動されます。 ※データの破損を防ぐため、シャットダウン前に作業中のデータがないことを確認してください。
シャットダウン	シャットダウン	［シャットダウン］をクリックして TeraStation の電源を切ることができます。 ※設定画面から TeraStation の電源を ON にすることはできません。電源を ON にするときは、TeraStation の電源スイッチを押してください。 ※データの破損を防ぐため、シャットダウン前に作業中のデータがないことを 確認してください。

システム - 電源管理		
UPS 連動機能設定 [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	UPS 状態表示	停電などの影響によって UPS がバッテリ駆動状態になった際、TeraStation を自動的にシャットダウンさせる機能です。UPS が接続されている場合 UPS の状態を表示します。 ※本設定は、必ず USB ケーブルで UPS と TeraStation を接続後に行ってください。
	UPS 接続方式	UPS の接続方式を選択します。 ※［USB 接続 /APC 製 (またはオムロン製)］は、APC 製 USB 接続 UPS を接続している状態でしか設定できません。 ※接続する UPS の型番 / ケーブルによって選択する項目は異なります。詳しくは弊社ホームページ (buffalo.jp) をご参照ください。
	UPS 連動する	UPS 連動機能を使用するときは、[使用する] を選択します。 ※［USB 接続 /APC 製 (またはオムロン製)］は、APC 製 USB 接続 UPS を接続している状態でしか設定できません。
	電源異常時の Link/TeraStation シャットダウン条件	電源異常が何分続いたらシャットダウンするかを設定できます。 または、UPS から "Battery Low" を検出した場合にシャットダウンするよう設定することもできます。 ※ Battery Low によるシャットダウンは USB 接続 UPS 使用時のみ利用できます。
	Link/TeraStation シャットダウン後の UPS 動作	TeraStation のシャットダウン後、UPS をシャットダウンするかを設定します。
	UPS リカバー	UPS への AC 電源供給復旧後、自動的に TeraStation を再起動します。
タイマー ON/OFF [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	タイマー間隔	タイマー ON/OFF 設定を使用する間隔を [使用しない][毎日][毎週] から選択します。 [曜日指定] を選択した場合、曜日のチェックボックスをクリックして曜日を指定してください。 タイマーは 1 ～ 3 の 3 つまで設定することができます。
	起動時刻	スタンバイ状態から通常の状態に復帰するときの起動時刻を設定します。 時刻は 0:00 から 23:45 まで設定可能です。
	終了時刻	通常の状態からスタンバイ状態に移行するときの終了時刻を設定します。 時刻は 0:00 から 27:45 まで設定可能です。 ※終了時刻を起動時刻より早い時刻または同じ時刻に設定することはできません。

システム - 初期化		
初期化	本体初期化スイッチ設定 [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	初期化操作 (前面カバーをあけた中にある初期化スイッチを約 5 秒押し続ける) を行った際に、TeraStation の管理者ユーザー名・パスワードも初期化するかしないかを選択します。 ※ [管理者ユーザー名 / パスワードを初期化しない] を選択した場合、管理者ユーザー名・パスワードを忘れると TeraStation の設定ができなくなります。必ずパスワードは忘れないようにしてください。
	TeraStation の初期化を実行	[TeraStation の初期化を実行] をクリックすると、次の設定が初期化されます。 TeraStation 名、説明、NTP 設定、ワークグループ設定、共有サービス設定、共有フォルダーの設定、USB ディスクの設定、RAID メンテナンス、タイマー ON/OFF、本体初期化スイッチの設定、共有フォルダーのアクセス制限、ユーザー設定、ユーザーグループ、メール通知機能設定、UPS 連動機能設定、バックアップ設定、管理者ユーザー名・パスワード、ネットワーク設定 (IP アドレス、サブネットマスク等)、Time Machine、Web アクセス、DFS、ダイレクトコピー、NFS、TeraSearch、警告音、表示パネル、HDD スピンダウン、RAID アレイ障害設定
ディスク完全フォーマット	ディスク完全フォーマット	［TeraStation のディスク完全フォーマットを実行］をクリックすると、TeraStation のハードディスク内のデータを完全に消去します。 ※消去したデータを復旧することはできません。 ※消去実行中は TeraStation の設定を変更することはできません。

その他

その他 -Web アクセス		
フォルダー設定	Web アクセスフォルダーの編集	共有フォルダー名をクリックすると編集画面になります。 [共有フォルダー名]、[共有フォルダーの説明] には Web アクセス機能で公開する TeraStation のフォルダー情報が表示されます。 [Web アクセス] では、以下のアクセス制限を選択できます。 無効： 共有フォルダーを公開しません。 アクセス制限なし： 誰でも共有フォルダーをアクセス（閲覧）できるようにします。 登録グループ / ユーザーのみ TeraStation に登録したグループ / ユーザーのみアクセス（閲覧）できるようにします。 共有フォルダー設定と同期 共有フォルダー画面で設定したアクセス制限と同じ制限とします。共有フォルダー画面でアクセス制限を設定していない場合は、表示されません。
Web アクセスサービス [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	Web アクセスサービス	[使用する / 使用しない] Web アクセス機能を使用するかどうか設定します。 [HTTPS/SSL 暗号化] SSL 暗号化を使用し、より安全な転送をするかどうか設定します。 [BuffaloNAS.com 登録機能] 簡単に TeraStation にアクセスできるように、"BuffaloNAS.com" サーバーを利用するかどうかを設定します。 Web アクセス共有 フォルダー内のファイルが "BuffaloNAS.com" サーバーに残ることはありません。 [BuffaloNAS.com ネーム] "BuffaloNAS.com" サーバーへ登録する TeraStation のニックネームを入力します。 ※ BuffaloNAS.com にアクセスした際に入力する名称です。実際の TeraStation の名称と異なっていても問題ありません。 ※一定時間 TeraStation をインターネットから切り離すと、BuffaloNAS.com サーバーからネーム登録が削除されます。 [BuffaloNAS.com キー] "BuffaloNAS.com" サーバーへ登録する TeraStation のニックネームを保存 / 使用するためのキーを入力します。 [その他 DNS サービス ホスト名] "BuffaloNAS.com" サーバーを利用せず、一般的な DNS サービスを利用する場合はそのホスト名を入力します。 [ルーター自動設定機能 (UPnP)] UPnP を使用して、ルーターと TeraStation との転送設定を自動で行うかどうかを選択します。ルーターが UPnP に対応していない場合や、正しく設定できない場合は手動での設定を試みてください。 [ルーター外部ポート番号] UPnP を使用せず、手動での設定をする場合に使用するルーター側の外部ポートを入力します。 ルーター側の外部ポートを TeraStation のポート 9000 に転送します。

その他 - プリントサーバー		
プリントサーバー [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	プリントサーバー	Windows 用プリントサーバー機能を使用する / 使用しないを選択します。 [プリンタージョブの削除] をクリックするとプリンタージョブを削除します。

その他 -Time Machine		
Time Machine [設定変更] をクリックすると設定を変更できます。	Time Machine	Mac OS X 10.5 の Time Machine 機能で TeraStation をバックアップ先にするときは、[使用する] を選択します。[対象共有フォルダー] でバックアップ先として使用する共有フォルダーを選択します。
イメージファイルの作成	イメージファイルの作成	Time Machine 機能を使用する Macintosh の [対象ホスト名][対象 MAC アドレス] を入力します。

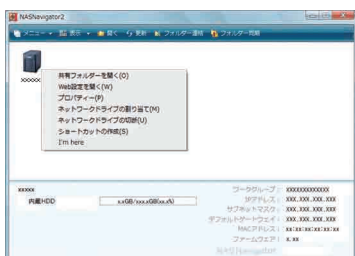
付録

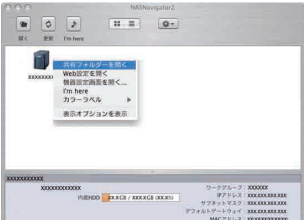
ネットワークドライブとして割り当てる (Windows)

付属の NAS Navigator2 を使って簡単に TeraStation の share フォルダーをネットワークドライブとして割り当てることができます。

1 デスクトップの［BUFFALO NAS Navigator2］アイコンをダブルクリックします。
NAS Navigator2 が起動します。

2

TeraStation のアイコンを右クリックし、[ネットワークドライブの割り当て] をクリックします。

画面は TS-XL シリーズの例です。

3 ［コンピューター (またはマイコンピューター)］の中に、TeraStation のネットワークドライブのアイコンが追加されています。他のハードディスクと同様の操作でネットワークドライブを使用できます。

NOTE: パソコン起動時に、TeraStation がネットワークに接続されていなかったり、電源が OFF の状態になっているときは、「ネットワークパスが見つかりません。この接続は復元されませんでした」と表示されます。

share フォルダー以外のフォルダーを OS の機能で手動割り当てするときは、OS のヘルプをご参照ください。

ネットワークドライブとしてマウントする (Mac OS X 10.3.9 ～)

Mac OS X 10.3.9 以降では､付属の NAS Navigator2 を使って簡単に TeraStation の share フォルダーをネットワークドライブとして割り当てることができます。

1 **Dock 内の [NAS Navigator2］アイコン をクリックします。**
NAS Navigator2 が起動します。

2

TeraStation のアイコンをコントロールキーを押しながらクリックし、[共有フォルダーを開く] を選択します。

画面は TS-XL シリーズの例です。

3

1 マウントしたい共有フォルダー名を選択します。

2［OK］をクリックします。

4 **マウントされるとデスクトップ画面に次のアイコンが表示されます (Mac OS X 10.5 以降では、Finder サイドバーに表示される場合もあります)。**

NOTE:
- 表示される文字は共有フォルダー名が表示されます。設定しているフォルダー名によって文字は異なります。
- Mac OS X 10.5 以降では、Finder サイドバーに表示される場合もあります。アンマウントするには、アイコンをゴミ箱へドラッグ & ドロップしてください。
- アンマウントするには、アイコンをゴミ箱へドラッグ & ドロップしてください。

以上でネットワークドライブの割り当ては完了です。

share フォルダー以外のフォルダーを OS の機能で手動割り当てするときは、OS のヘルプをご参照ください。

出荷時設定

TeraStation は出荷時に以下のように初期設定されています。

●管理者ユーザー名：admin

●パスワード：password

●共有フォルダー：share(Windows ＆ Macintosh 共用)
　共有フォルダーのゴミ箱機能は「使用する」に設定されています。

● DHCP クライアント
DHCP サーバーがネットワーク内にある場合は自動取得します。
DHCP サーバーがネットワーク内に無い場合は、次のように自動設定されます。
IP アドレス：169.254.xxx.xxx(xxx は TeraStation 起動時に任意の数値が割り当てられます。)
ネットマスク：255.255.0.0

●登録グループ
初期設定にて既に TeraStation には、デフォルトグループ (hdusers、admin、guest) が登録されています。編集、削除はできません。

● Microsoft ネットワークワークグループ設定
WORKGROUP

●イーサネットフレームサイズ：1518bytes

● AFP 機能：使用する

● FTP サーバー機能：使用しない

● NTP 機能：使用する

●プリントサーバー機能：使用する

● Web アクセス機能：使用しない

● Time Machine 機能：使用しない

● TeraSearch 機能：使用しない

● RAID モード：TS-XHL シリーズ　RAID6 モード
TS-XL、TS-XEL シリーズ　RAID5 モード (ハードディスク 4 台)
TS-RXL シリーズ　RAID5 モード (ハードディスク 4 台)
TS-WXL シリーズ　RAID1 モード
TS-WXL/1D シリーズ　通常モード

NOTE:出荷時設定に戻すときは、P.66「設定を初期化する」を参照ください。

液晶ディスプレイ表示一覧

TeraStation 本体前面には液晶が装備されています。表示内容は以下のとおりです。

通常表示

通常表示は、TeraStation 前面のディスプレイ切替ボタンを押すことで、表示を切り替えることができます。また、設定画面 [システム]-[メンテナンス]-[表示パネル設定] で、表示項目を設定することもできます。

液晶表示例		内容
LINK SPEED ※ LAN ポート 2 に LAN ケーブルを接続した場合、「LINK SPEED 2」と表示されます。	ＬＩＮＫ　ＳＰＥＥＤ 　　Ｎｏ　ＬＩＮＫ	ネットワークに接続されていません。
	ＬＩＮＫ　ＳＰＥＥＤ 　１０Ｍｂｐｓ　ＨＡＬＦ	10Mbps 半二重接続されています。
	ＬＩＮＫ　ＳＰＥＥＤ 　１０Ｍｂｐｓ　ＦＵＬＬ	10Mbps 全二重接続されています。
	ＬＩＮＫ　ＳＰＥＥＤ 　１００ＭｂｐｓＨＡＬＦ	100Mbps 半二重接続されています。
	ＬＩＮＫ　ＳＰＥＥＤ 　１００ＭｂｐｓＦＵＬＬ	100Mbps 全二重接続されています。
	ＬＩＮＫ　ＳＰＥＥＤ 　１０００Ｍｂｐｓ	1000Mbps 全二重接続されています。
HOST 名・IP アドレス ※表示の例は TS-XL シリーズです。	ＴＳ-ＸＬ　ｘｘｘ １９２．１６８．１１．１５０	HOST 名と IP アドレスを表示します。IP アドレス末尾には、F(固定 IP アドレス) か、D(DHCP サーバ機能による自動取得 IP アドレス) が表示されます。 ※ LAN ポート 2 に LAN ケーブルを接続した場合、ホスト名部分が「NETWORK2」と表示されます。
カレンダー時計	ＤＡＴＥ　　　　　ＴＩＭＥ ２００７／１１／１１　１１：１１	TeraStation に設定されている日時を表示します。
オペレーション ,MODE ※表示の例は TS-XHL シリーズです。	ＨＤ　１－２－３－４ 　　ＲＡＩＤ６	ハードディスク 1 から 4 を使用して、RAID6 を構成しています。
	ＨＤ　１－２－３－４ 　　ＲＡＩＤ５	ハードディスク 1 から 4 を使用して、RAID5 を構成しています。
	ＨＤ　１－２－３：ＲＡＩＤ５ 　　　４　：ＳＩＮＧＬＥ	ハードディスク 1 から 3 を使用して RAID5、4 を通常モードとして構成しています。
	ＨＤ　１－２－３：ＲＡＩＤ５ 　　　４　：ＳＴＡＮＢＹ	ハードディスク 1 から 3 を使用して RAID5、4 をホットスペアとして構成しています。
	ＨＤ　１－２－３－４ 　　ＲＡＩＤ０	ハードディスク 1 から 4 を使用して、RAID0 を構成しています。
	ＨＤ　１－２－３－４ 　　ＲＡＩＤ１０	ハードディスク 1 から 4 を使用して、RAID10 を構成しています。
	ＨＤ　１，２，３，４ 　　ＳＩＮＧＬＥ	ハードディスク 1 から 4 を個々に使用しています。
	ＨＤ　１－２　：　ＲＡＩＤ１ 　　３－４　：　ＲＡＩＤ１	ハードディスク 1,2 と 3,4 を使用して、RAID1 を構成しています。
	ＨＤ　１－２　：　ＲＡＩＤ１ 　　３，４　：　ＳＩＮＧＬＥ	ハードディスク 1,2 で RAID1 を構成し、ハードディスク 3 と 4 を個々に使用しています。
	ＨＤ　１，２　：　ＳＩＮＧＬＥ 　　３－４　：　ＲＡＩＤ１	ハードディスク 1 と 2 を個々に使用し、ハードディスク 3,4 で RAID1 を構成しています。
ディスク容量 ※表示の例は TS-XL シリーズです。	ＨＤＤ　　　　　　　　　＾ ＵＳＥＤ　　　１＿２■３█４█	TeraStation に内蔵されているハードディスク 1 から 4 の使用容量を棒グラフで表示します。DiskFull 状態のハードディスクには「^」が表示されます。 ※ TS-RXL シリーズをお使いの場合、下記の例のように表示されます (表示数値は目安であり、6 ～ 7%毎に区切って表示されます)。 「D1: 13% D2: 0% D3:Full D4: 25%」

※ TS-RXL シリーズをお使いの場合、1 行分の高さの液晶ディスプレイに横スクロールして 2 行分の上記情報が表示されます。

状態表示

設定を変更したときや、フォーマットしたときなど、現在の状態が液晶に表示れさます。

液晶表示例	内容
HDx Warning I11 Bad Sectors	x 番のハードディスクの不良セクタが危険な範囲に達する可能性があります。x 番のハードディスクを交換してください。
OperationModeI12 DEGRADE MODE	RAID のデグレードモード動作中です。
RAID I13 ARRAYxFormatting	x 番の RAID アレイをフォーマット中です。
RAID I14 ARRAYx Checking	x 番の RAID アレイをチェック中です。
RAID I15 ARRAYx Scanning	x 番の RAID アレイのエラー状況を調査中です。 ※調査中は転送速度が低下します。
RAID I16 ARRAYx Creating	x 番の RAID アレイを作成中です。
RAID I17 ARRAYx Resycing	x 番の RAID アレイをリシンク中です。 ※リシンク中は転送速度が低下します。
RAID I18 ARRAYxRebuilding	x 番の RAID アレイを再構成中です。 ※再構成中は転送速度が低下します。
RAID I19 ARRAYx 0 Filling	x 番の RAID アレイに 0 を埋めて完全にデータを消去しています。
DISK I20 DISKx Formatting	x 番のハードディスクをフォーマット中です。
DISK I21 DISKx Checking	x 番のハードディスクをチェック中です。
DISK I22 DISKx 0 Filling	x 番のハードディスクのデータを消去しています。
SYSTEM I23 Initializing	システム初期化中です。
Network I24 Setting Config	IP アドレスの取得などネットワークを設定中です。
SYSTEM I25 F/WUPDATING	TeraStation のファームウェアをアップデート中です。 ※アップデート中は、電源を OFF にしないでください。
Web Setting I26 Initializing	Web 設定初期化中です。
USB Diskx I27 Checking	x 番の USB ハードディスクをチェック中です。
USB Diskx I28 Formatting	x 番の USB ハードディスクをフォーマット中です。
PressFuncSW I31 New Diskx ready	x 番のハードディスクを交換後、ファンクションボタンを押して RAID を再構築するときに表示されます。
Set From Web I32 NewDiskx ready	x 番のハードディスクを交換後、設定画面での RAID の再構築、またはフォーマットが必要なときに表示されます。

※ TS-RXL シリーズをお使いの場合、1 行分の高さの液晶ディスプレイに横スクロールして 2 行分の上記情報が表示されます。

エラー表示、警告表示

設定を変更したときや、フォーマットしたときなど、現在の状態が液晶に表示れさます。

液晶表示例	内容
SYSTEM Error E00 MPU No Response	システムが応答してません。TeraStation の電源コードを抜いてからもう一度起動してください。それでもエラーが表示されるときは、弊社修理センターへ修理を依頼してください。
DRAM LINES E01 DATA Failure	内部の IC が一部正しく動作していません。弊社修理センターへ修理を依頼してください。
DRAM LINES E02 ADDRESS Failure	内部の IC が一部正しく動作していません。弊社修理センターへ修理を依頼してください。
RTC Chip E03 No RTC Clock	内部の IC が一部正しく動作していません。TeraStation の電源コードを抜いてからもう一度起動してください。再度エラーが表示されるときは、弊社修理センターへ修理を依頼してください。
SYSTEM Error E04 Can't Load Krnl!	ファームウェアが破損しています。弊社修理センターへ修理を依頼してください。
WDT E05 SYSTEM Stopped	システムがハングアップしました。TeraStation の電源コードを抜いてからもう一度起動してください。それでもエラーが表示されるときは、弊社修理センターへ修理を依頼してください。
TFTP MODE E06 Lost boot image	ファームウェアが壊れています。 修理センターへ修理を依頼してください。5 分後に "E04" で電源が落ちるのを待つか電源スイッチを 10 秒以上長押しして電源を切ってください。
HD ALL E07 All HD Not Found	ハードディスクが見つかりません。 ハードディスクが接続されているにもかかわらず表示されたときは、弊社修理センターへ修理を依頼してください。
UPS E10 Dependent Mode	停電により UPS のバッテリーで駆動している状態です。システムを安全にシャットダウンします。 UPS に供給されている電源を確認して、問題がなければ TeraStation の電源を ON にしてください。
SYSTEM I10 TOO HOT !	システムの温度上昇が、保障値を超える可能性があります。TeraStation の回りに物を置かないでください。または設置場所を涼しいところに移動させてください。
SYSTEM Error E11 Fan Falure	ファンの回転数に異常があります。 ファンに異物や埃がないか確認してください。異物や埃があったときは、ピンセットやエアダスター等で除去してください。再度エラーが表示されるときは、弊社修理センターへ修理を依頼してください。
SYSTEM Error E12 Cooling Failure	システムの温度上昇が、保障値を超えました。TeraStation の回りに物を置かないでください。または設置場所を涼しいところに移動させてください。
RAID Error E13 ARRAYx Error	x 番の RAID アレイでエラーが発生しました。もう一度起動した場合は、RAID1、5 のときはデグレードモードとして動作します。再構築でエラードライブを再び使用できますが、エラードライブはすみやかに交換することをおすすめします。
RAID Arrayx E14 Can't Mount	x 番の RAID アレイがマウントできませんでした。一度電源を OFF にした後、再び電源を ON にした後も同じエラーが表示されるときは、RAID の再構築を行ってください。それでもエラーが表示されるときは、弊社修理センターへ修理を依頼してください。
HDx Error E15 Many Bad Sectors	x 番のハードディスクの不良セクタが危険な範囲に達しました。x 番のハードディスクを交換してください。
HDx Error E16 HDx Not Found	x 番のハードディスクが見つかりません。x 番のハードディスクが接続されていない、または x 番のハードディスクが故障している可能性があります。ハードディスクの交換をしてください。

液晶表示例	内容
Chip Error E17 RTC Failure	基板が故障しています。TeraStation の電源コードを抜いてからもう一度起動してください。それでもエラーが表示されるときは、弊社修理センターへ修理を依頼してください。
Chip Error E18 SATA1 Failure	基板が故障しています。TeraStation の電源コードを抜いてからもう一度起動してください。それでもエラーが表示されるときは、弊社修理センターへ修理を依頼してください。
Chip Error E19 SATA2 Failure	基板が故障しています。TeraStation の電源コードを抜いてからもう一度起動してください。それでもエラーが表示されるときは、弊社修理センターへ修理を依頼してください。
Chip Error E20 USB Failure	基板が故障しています。TeraStation の電源コードを抜いてからもう一度起動してください。それでもエラーが表示されるときは、弊社修理センターへ修理を依頼してください。
Chip Error E21 Ethernet Failure	基板が故障しています。TeraStation の電源コードを抜いてからもう一度起動してください。それでもエラーが表示されるときは、弊社修理センターへ修理を依頼してください。
HDx Error E22 HDx Can't Mount	x 番目のハードディスクのマウントに失敗しました。ハードディスクのフォーマットを行ってください。フォーマット後、再起動した後もエラーが出る場合には、ハードディスクを交換してください。それでもエラーが表示されるときは、弊社修理センターへ修理を依頼してください。
HDx Error E23 HDx Is Faulty	エラーが発生し、x 番のハードディスクが RAID アレイから外されました。x 番のハードディスクを交換してください。
SATAx Error E24 COMM. Failure	x 番目のハードディスクとの通信に異常が発生しました。 TeraStation を一度再起動し、それでもエラーが表示されるときは、弊社修理センターへ修理を依頼してください。
Replication E26 ReplicateFailure	レプリケーションでエラーが発生しました。Ｗｅｂ設定画面 [システム]-[バックアップ]-[レプリケーション] の [再同期] をクリックして再同期を実行してください。再度エラーが表示されるときは、弊社修理センターへ修理を依頼してください。

※ TS-RXL シリーズをお使いの場合、1 行分の高さの液晶ディスプレイに横スクロールして 2 行分の上記情報が表示されます。

TeraStation のファームウェアをアップデートする

TeraStation のファームウェアのアップデートは､弊社ホームページ (buffalo.jp) のダウンロードサービスにて､アップデートプログラムをダウンロードし実行してください。
ダウンロードされたファイルをダブルクリックすると、ファイルが解凍され自動的にアップデート方法を記載した HTML ファイルが表示されます。
以降は表示された HTML ファイルの指示にしたがってアップデートしてください。

用語集

AFP（Apple Filing Protocol）
AppleTalk によるネットワークで、ファイル共有を実現する AppleShare で利用されるプロトコルの名称です。

DHCP（Dynamic Host Configration Protocol）サーバー
DHCP サーバーはネットワークに関連した情報（IP アドレス、デフォルト・ルーターの IP アドレス、ドメイン名など）を管理します。DHCP クライアントが起動すると、自動的に IP アドレスなどの情報を割り振ります。DHCP サーバーがネットワーク上に存在すると、ネットワーク上のパソコンや TeraStation に、IP アドレスなどを手動で設定する必要がなくなります。

DFS（Distributed File System）
ネットワークのサーバー上に散在するファイル共有を、単一のツリー構造に集約する機能です。

FTP（File Transfer Protocol）
TCP/IP で構成されたネットワークでファイルを転送するために使われるプロトコルです。FTP クライアントソフトウェアを使用して転送を行います。OS の種類に関係なく転送ができます。

IP アドレス
TCP/IP プロトコルによるネットワークで使用されるアドレスです。各コンピュータの住所を示す整理番号のようなものです。ネットワーク機器の IP アドレスが重複していると正常に認識されません。

Jumbo Frame
一回で転送できる LAN 上のデータサイズを従来の 1518bytes から Jumbo Frame（4102/7422/9694 bytes）に拡張します。

MAC（Media Access Control address）アドレス
ネットワークカードごとの固有の物理アドレスです。先頭からの 3bytes のベンダコード（メーカーの ID）と、残り 3bytes のユーザコードの 6bytes で構成されます。Ethernet ではこのアドレスを元にフレームの送受信を行います。

NTP（Network Time Protcol）
ネットワークを通じて時刻修正を行うプロトコルです。定期的に NTP サーバの時刻と同期させて修正を行います。

PDC（Primary Domain Controller）
ログオンの認証および Microsoft ネットワークドメインのユーザーやセキュリティーを管理するサーバーです。

RAID（Redundant Arrays of Inexpensive Disks）
複数のハードディスクを用いてアクセスを分散させることにより、大容量で信頼性の高い記憶装置を実現するための技術です。RAID はその機能によって、いくつかのレベルに分けることができます。代表的なレベルとして RAID1 や RAID5 などがあります。

SMB（Server Message Block）
ファイル共有やプリンタ共有のサービスを提供するプロトコルです。

TCP/IP（Transmission Control Protocol / Internet Protocol）
ネットワークを構築する際のプロトコル（通信規約）の一つ。 TCP プロトコル（データ分割および誤り検出）と IP プロトコル（宛先や発信元 IP アドレスの付与）を組み合わせたものです。

UPS（Uninterruptible Power Supply）
無停電電源装置です。バックアップ用の電池を内部に持ち、停電時でもシステムを数分間稼働させてシステムを安全にシャットダウンできるようにする装置です。

WINS（Windows Internet Naming service）
Windows NT ネームサーバー機能です。Windows ネットワーク環境でホスト名やドメイン名を IP アドレスに自動的に割り当てます。

オフラインファイル
Windows 2000 以降（Windows XP Home Edition を除く）に搭載されているオフラインファイル機能を使えば、パソコンがネットワークにつながっていない時でも、ネットワークにつながっている状態であるかのように TeraStation のファイルにアクセスできます。再びネットワークにつながった時に更新されたファイルを同期して書き込みます。

ゲートウェイ
ネットワークとネットワークを結ぶ機器・パソコン・ソフトウェアです。パケットが LAN の外に出て行くときに通過します。

サブネットマスク
IP アドレスを、ネットワークアドレス番号とホストアドレス番号に分けるための値です。ルータがパケットを送受信するために用います。

ジャーナリングファイルシステム
ディスクに障害が発生した場合にすぐ復旧できるよう、ファイル更新履歴のバックアップをとっておく機能を持ったファイルシステムです。

デグレード
RAID1、5、10 を構成しているドライブが、障害や欠落している状態です。データの完全性は保たれていますが、以後に発生したエラーを修復することができず、全データの消失にもつながります。非常に危険な状態ですので、すみやかにエラーのあるハードディスクを交換することをおすすめします。

ドメイン
Windows 7/Vista/XP/2000/NT を基盤としたネットワークにおいて、複数のコンピューターを論理的に 1 つにまとめたグループです。

ネイティブモード
Windows 2000Server/Server 2003 での Active Directry の操作モードの一つです。

ファイアウォール
ネットワークへ外部から侵入されるのを防ぐ機能です。 Windows XP 以降の OS や一部のウィルス対策ソフトウェア（トレンドマイクロ社ウィルスバスターなど）に付属しています。

ポートトランキング
複数のケーブルで接続し、 1 つの回線に障害が発生しても他の回線を利用し通信を続ける機能です。

ホットスペア
ハードディスクが故障したとき自動でスペアディスクに置換する機能のことです。

ホットスワップ
本体の電源が ON の状態で部品を抜き差しすることです。

ワークグループ
小規模な Windows ネットワークに存在するグループです。大規模な運用には向きません。ワークグループ内でファイルやプリンターの共有を行なうことができます。Windows はこのワークグループネットワーク機能を標準で搭載しています。

レプリケーション
まったく同じ内容のデータを複製する機能です。